

(平成 25 年 6 月実施)

第 40 回

市民アンケート調査報告書

—— あなたと市政を結ぶ ——



目 次

I 調査概要

1	調査目的	1
2	調査事項	1
3	調査実施概要	1
4	回収状況	1
5	報告書内のデータ記述について	1
6	回答者の属性	2

II 調査結果

1	あなたご存じですか？	5
2	市民の地震への備えについて	15
3	協働センターについて	25
4	人口減少時代におけるライフスタイルについて	30
5	スポーツの振興について	34
6	子育て支援について	37
7	「ひとりひとりにいい声掛けデー」について	42
8	健康のための環境整備について	46
9	市の取り組みの満足度評価について	50
10	市政への要望について	56

付録 調査票

I 調査概要

1 調査目的

本調査は、昭和 45 年度から始まり、48 年、50 年度と行った後、52 年度以降は毎年実施し、本年度で 40 回目になる。社会情勢の変化に伴う市民の生活意識や市政に対する関心やニーズなどを把握するため、毎年各部署から提出された希望調査項目を精査した後、調査項目を決定し、属性などにより集計した調査結果を詳細に分析し、今後の施策の方向性や事業展開など行政のさまざまな施策の基礎資料として活用しているものである。

2 調査事項

- あなたはご存じですか？
- 協働センターについて
- スポーツの振興について
- 「ひとりひとりにいい声掛けデー」について
- 健康のための環境整備について
- 市政への要望について
- 市民の地震への備えについて
- 人口減少時代におけるライフスタイルについて
- 子育て支援について
- 市の取り組みの満足度評価について

3 調査実施概要

- (1) 調査地域 浜松市全域
- (2) 調査対象 満 20 歳以上の男女 3,000 人
- (3) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- (4) 調査方法 質問紙郵送法
- (5) 調査期間 平成 25 年 6 月 14 日～30 日
- (6) 調査機関 特定非営利活動法人 静岡県西部地域しんきん経済研究所

4 回収状況

発送数	有効回収数	有効回収率
3,000 件	1,523 件	50.8%

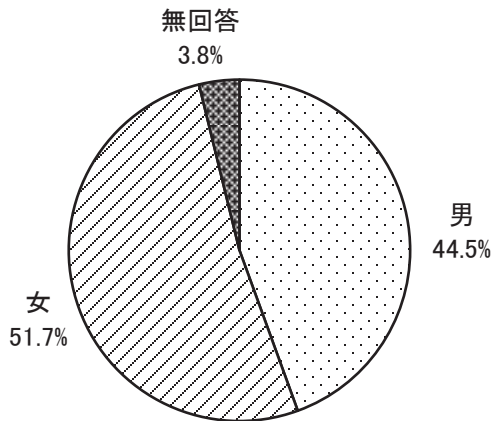
5 報告書内のデータ記述について

- (1) 比率はすべて百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。そのため、比率の合計が 100%にならないことがある。
- (2) 基数とすべき実数は、図表中に「N」として記載した。比率はこの基数を 100%として算出している。
- (3) 質問の選択肢から複数回答を認めている場合、比率の合計は通常 100%を超える。
- (4) 図表中の回答選択肢が長文の場合、コンピューターの処理の都合上、省略している箇所がある。

6 回答者の属性

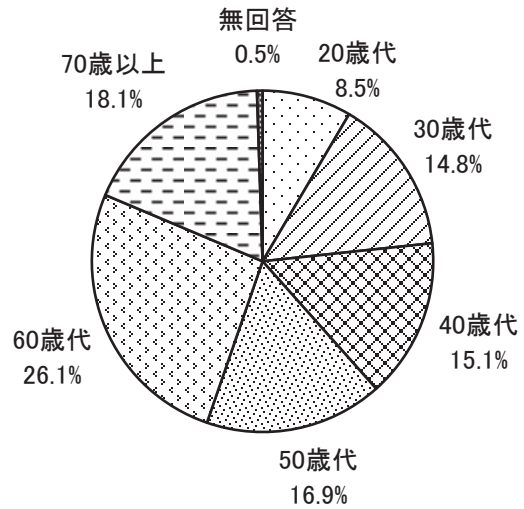
(1) 性別

N=1,523



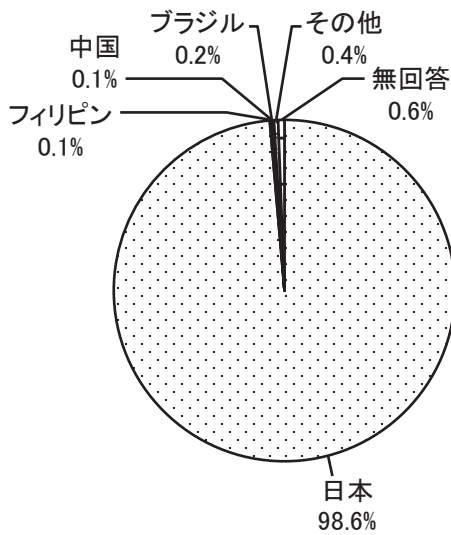
(2) 年代

N=1,523



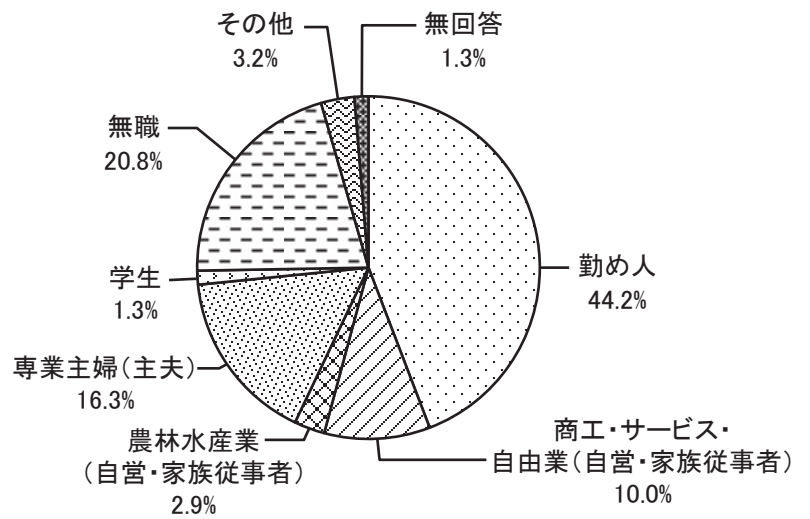
(3) 国籍

N=1,523



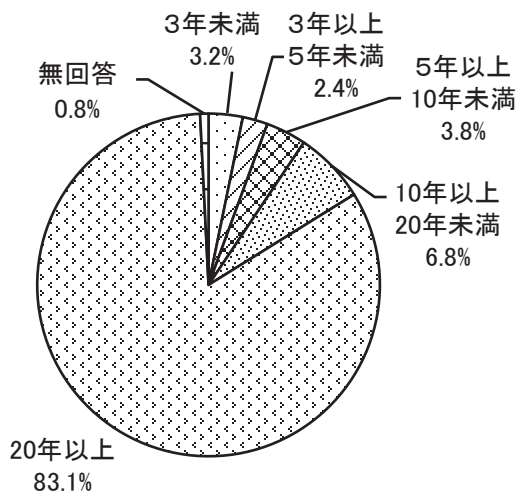
(4) 職業

N=1,523



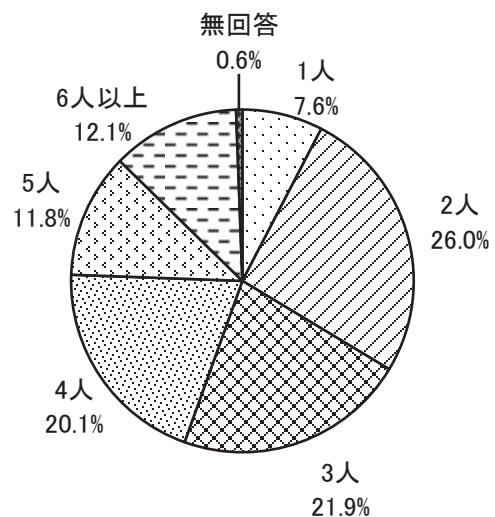
(5) 居住年数

N=1,523



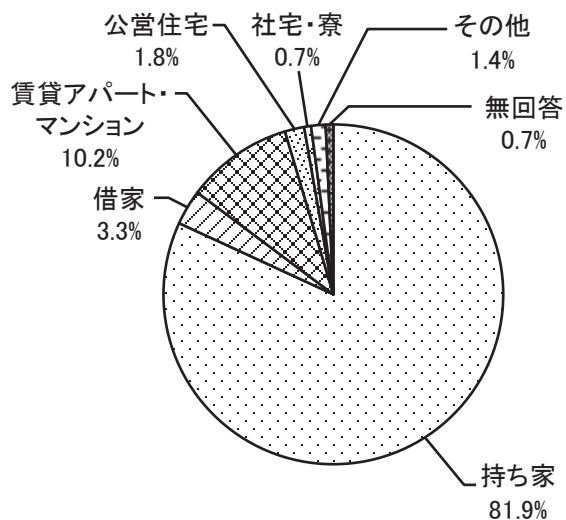
(6) 家族数

N=1,523



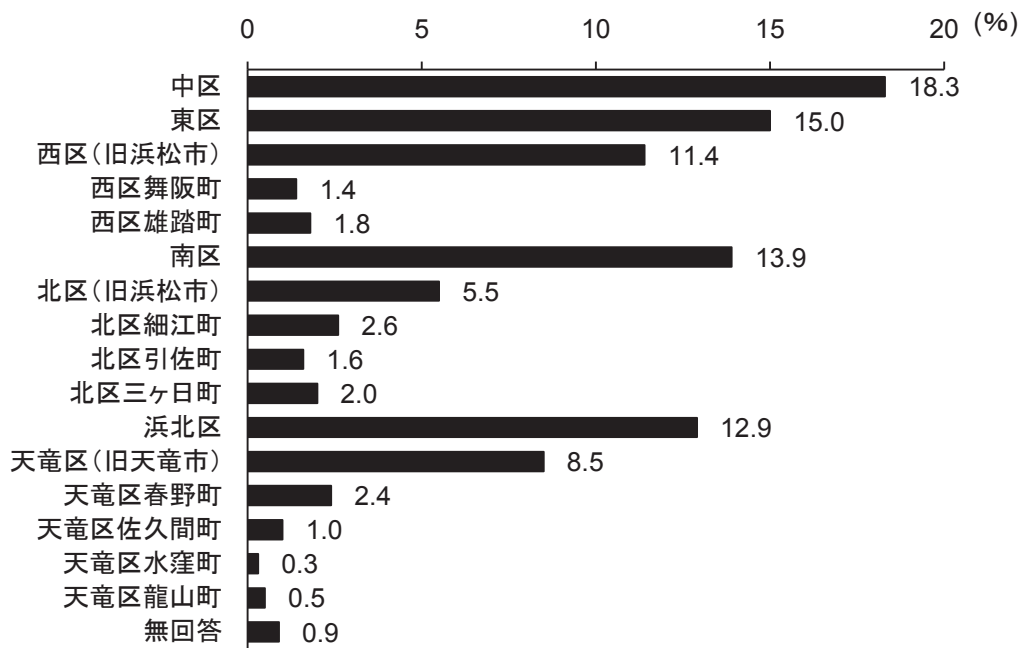
(7) 居住形態

N=1,523

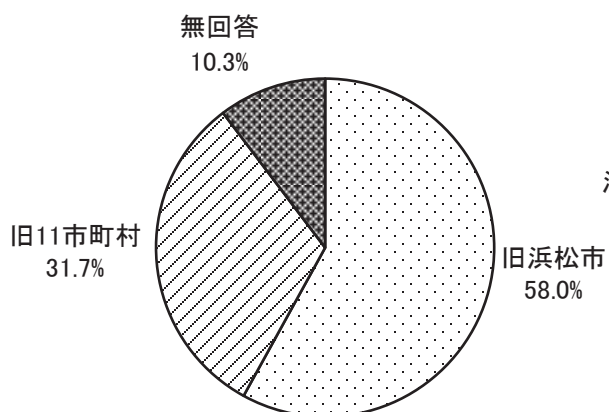


(8) 居住地区

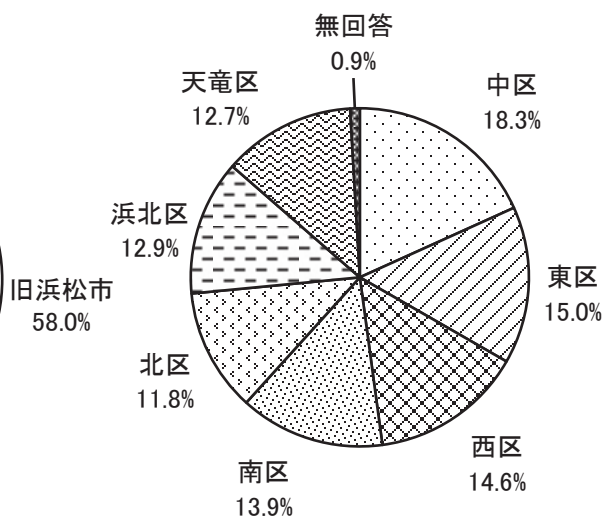
N=1,523



(9) 旧浜松市と旧 11 市町村 N=1,523

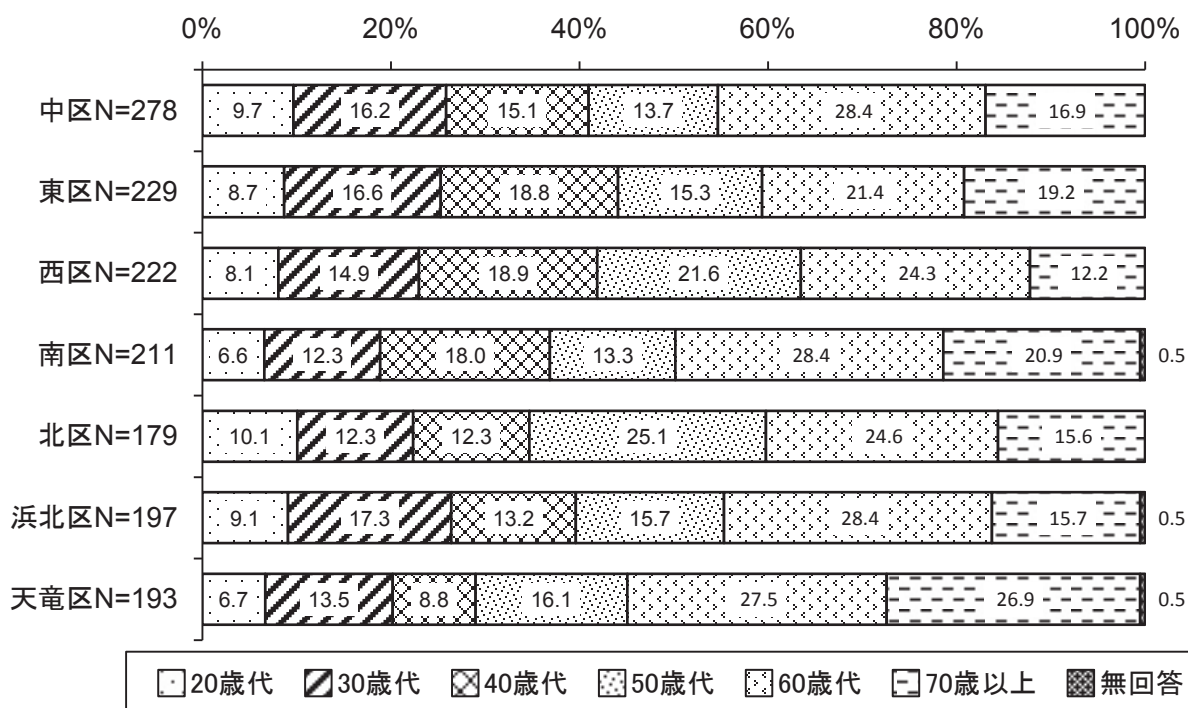


(10) 行政区 N=1,523



(11) 年代別行政区

N=1,523



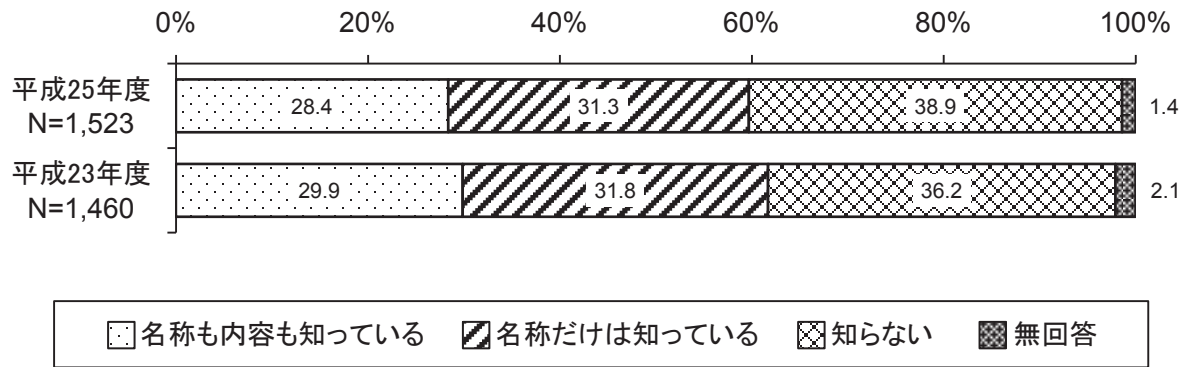
II 調査結果

1 あなたはご存じですか？

(1) 市の条例や施策などの認知度

問1 次の項目について、あなたはご存じですか
1～3のうちから1つ選んで○を付けてください。

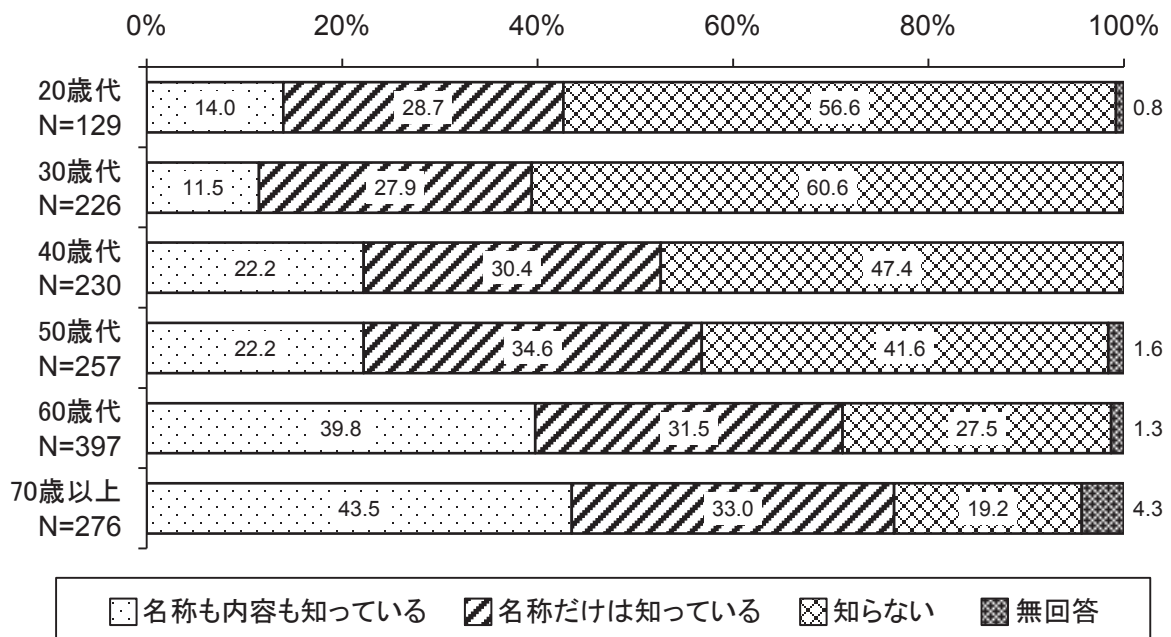
① 浜松市快適で良好な生活環境を確保する条例(通称:市民マナー条例)
※歩きタバコ・吸い殻や空き缶等のポイ捨て・落書きの禁止や、飼い犬・ねこのふんの適正な処理、身体障害者用駐車場の適正な利用を定めた条例。



「名称も内容も知っている」が 28.4%、「名称だけは知っている」が 31.3%、「知らない」が 38.9%となっている。「名称も内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『認知度』は 59.7%となり、平成 23 年度調査の 61.7%から 2.0 ポイント低下した。

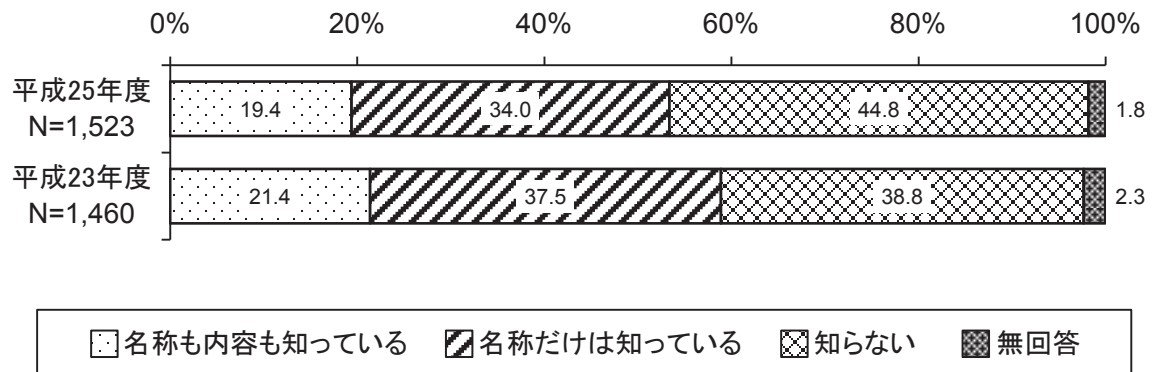
『認知度』を年代別でみると、年代が高くなるほど認知度が高い傾向がみられ、20～30 歳代の『認知度』は 50%を割り込んでいる。現在行っている各種啓発事業を引き続き実施するとともに、より効果的な啓発方法を検討する必要がある。

【年代別】



② 浜松市川や湖を守る条例

※市内にある天竜川や浜名湖など、美しく豊かな川や湖を次世代に継承するために、市民や事業者が守るべきこと、しなければならないことを定めた条例。

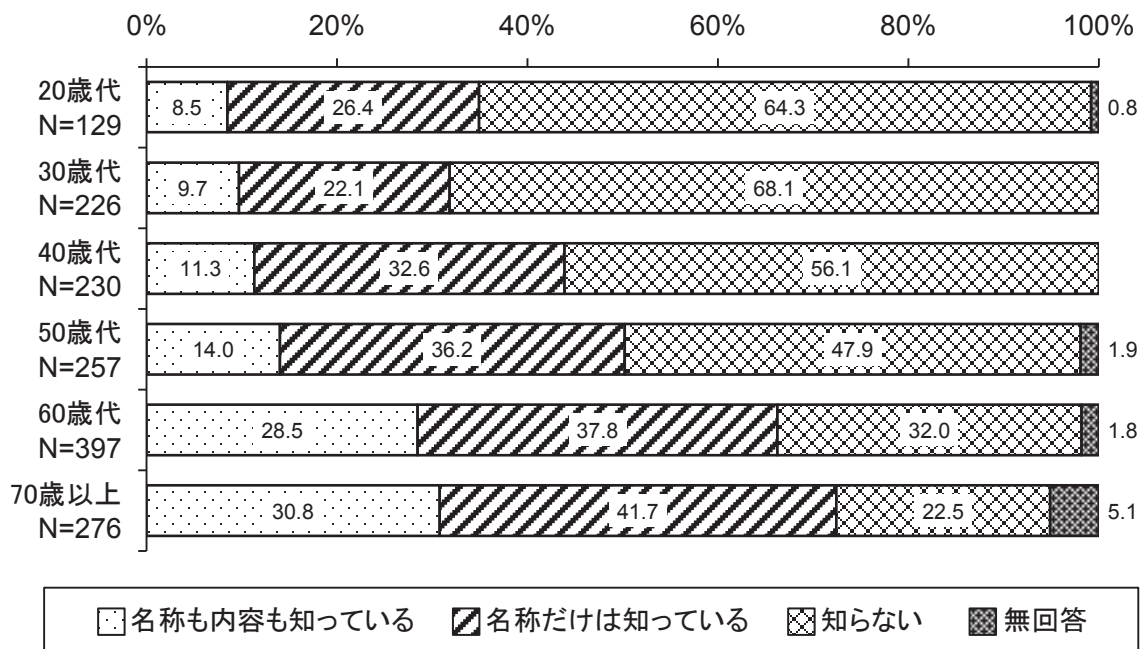


「名称も内容も知っている」が 19.4%、「名称だけは知っている」が 34.0%、「知らない」が 44.8%となっている。「名称も内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『認知度』は 53.4%となっており、平成 23 年度調査の 58.9%から 5.5 ポイント低下した。

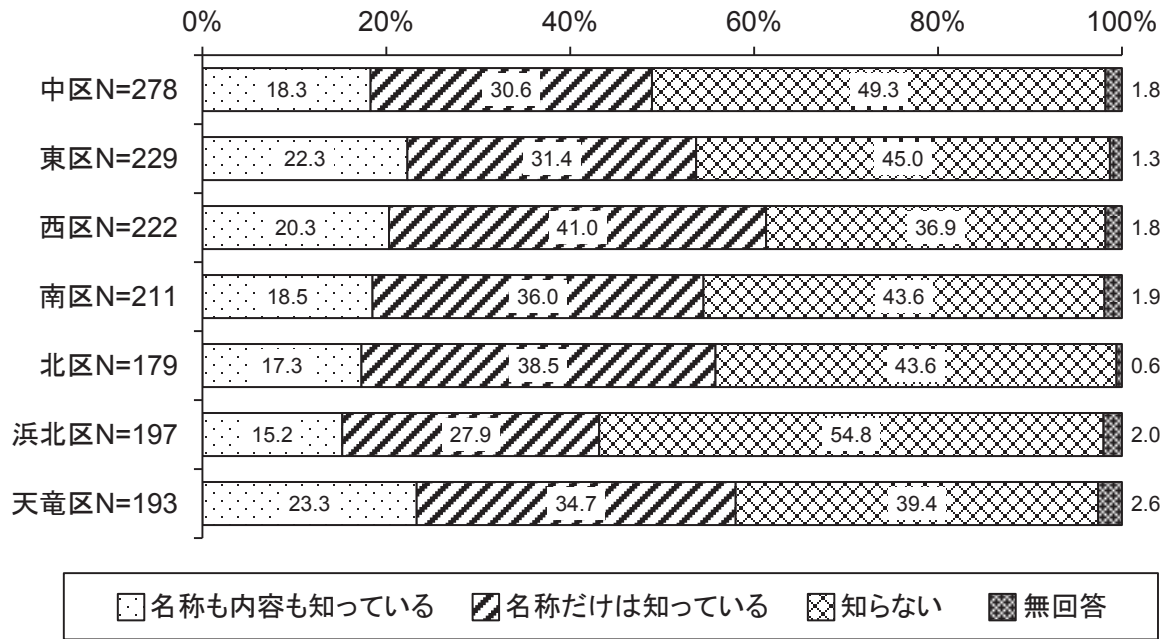
『認知度』を年代別でみると、年代が高くなるほど認知度が高い傾向がみられ、20～30 歳代の『認知度』は 40%を割り込んでいる。

『認知度』を行政区別でみると、西区が 61.3%と最も高かった。都田川、阿多古川の環境共生区域がある北区、天竜区の『認知度』は、それぞれ 55.8%、58.0%となり、浜松市全体の『認知度』を上回った。

【年代別】

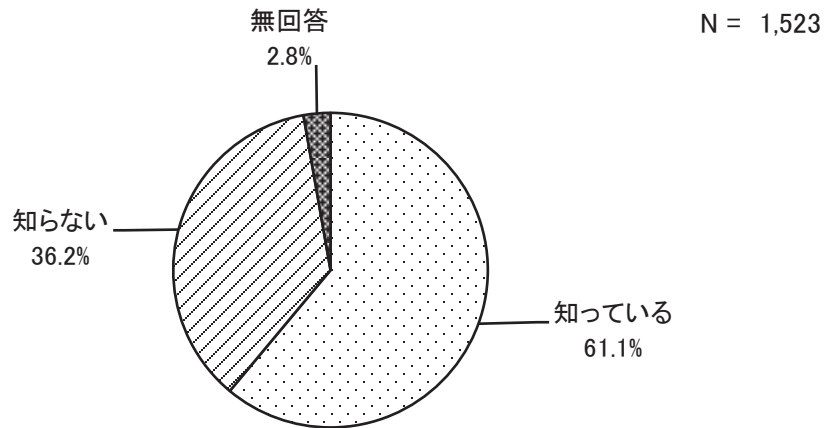


【行政区別】



③ 区版避難行動計画

※災害時にとるべき行動を、区ごとの災害特性をふまえてわかりやすくまとめ、防災マップや防災カードとともに全戸に配布。

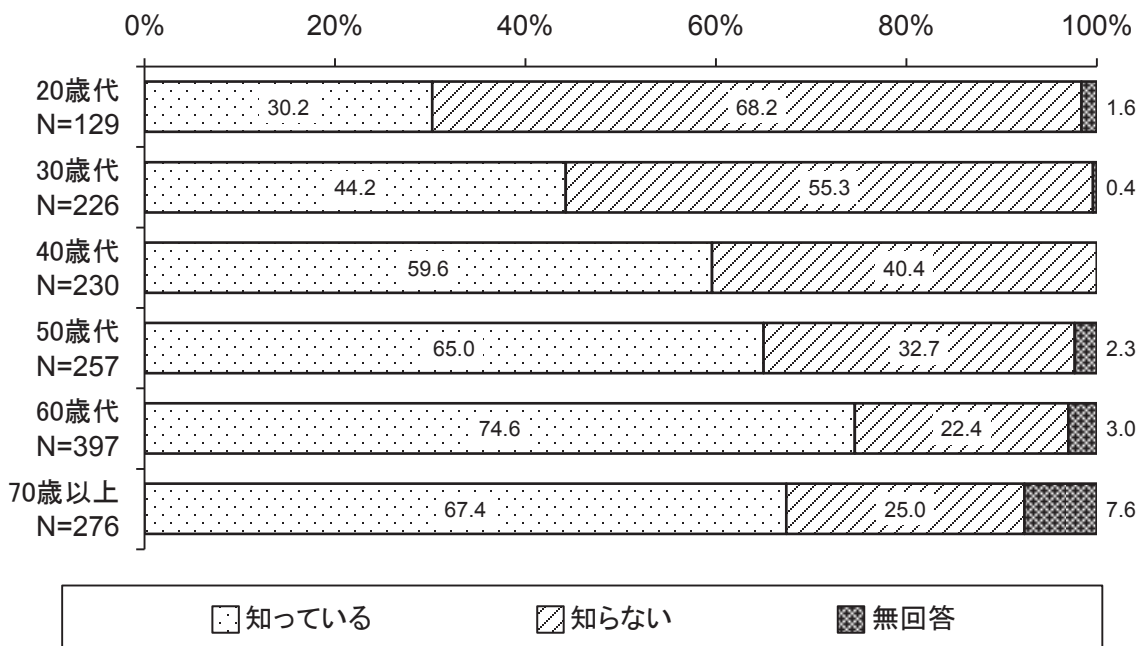


「知っている」が 61.1%と、「知らない」の 36.2%を 24.9 ポイント上回った。

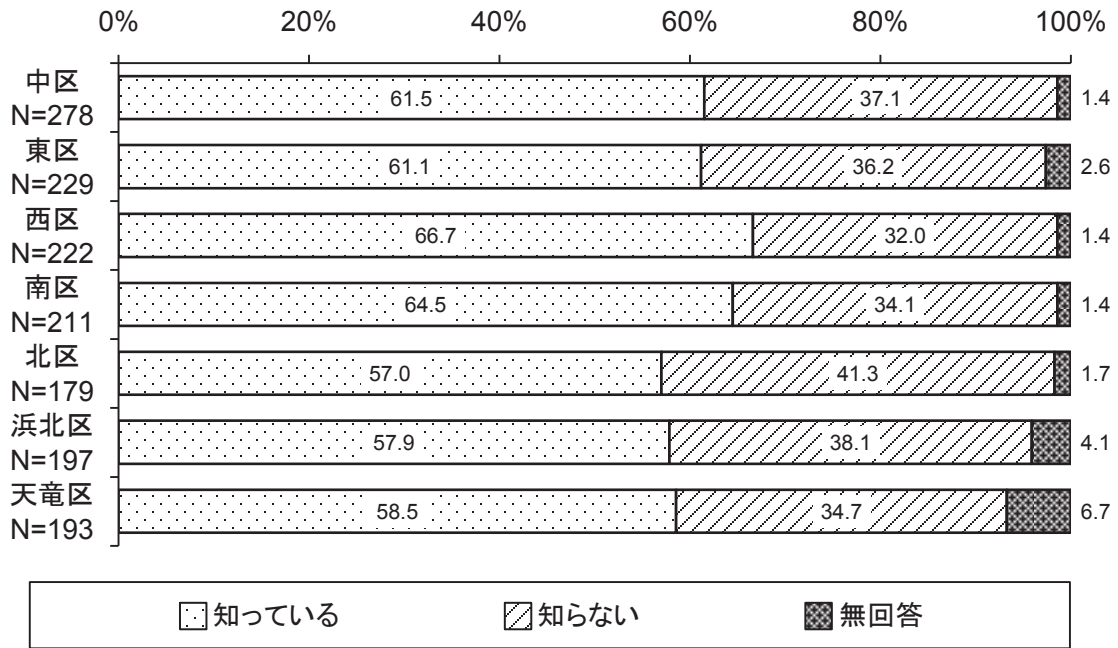
年代別でみると、60 歳代の認知度が 74.6%と最も高く、60 歳代を山として認知度が低くなっている。20 歳代は 30.2%、30 歳代は 44.2%と若い世代の認知度が特に低いため、若い世代に対する広報を強化する必要がある。

行政区別でみると、大規模地震での津波被害が想定される西区、南区の認知度が相対的に高くなっている。

【年代別】

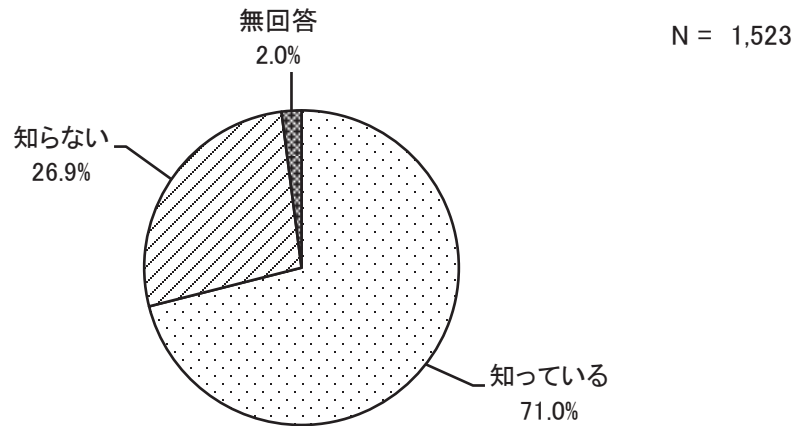


【行政区別】



④ 出世の街 浜松

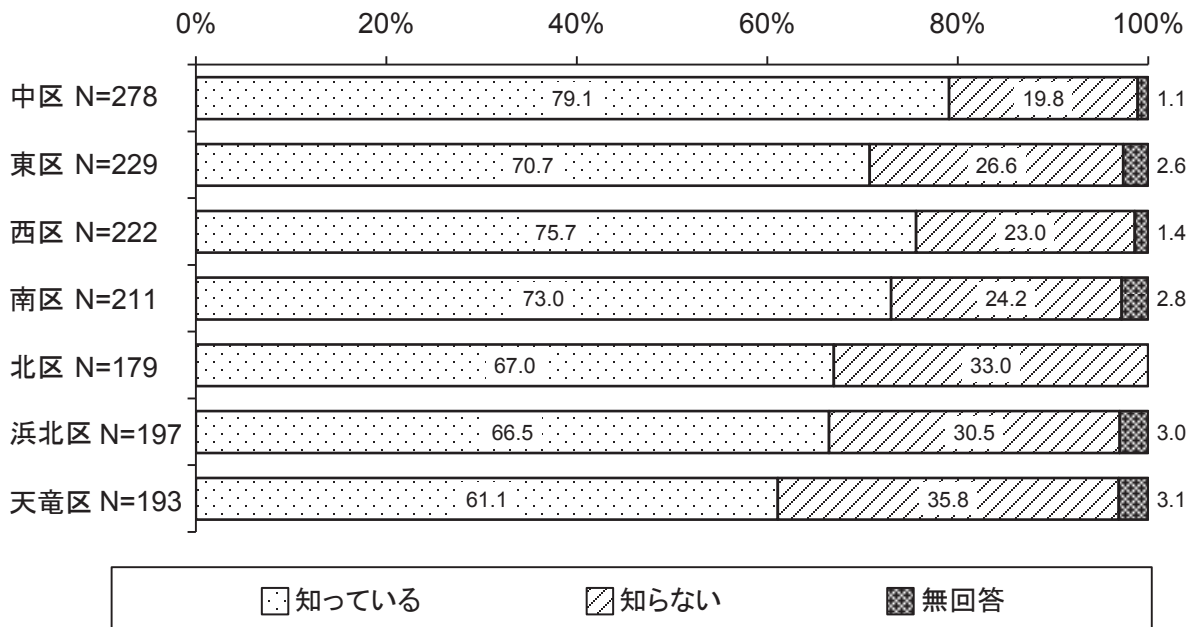
※城主の多くが幕府の重役に登用されたため、別名「出世城」と呼ばれる浜松城。このことから、市を全国に売り込む推進テーマとして『出世の街 浜松』を掲げている。



「知っている」が71.0%と、「知らない」の26.9%を44.1ポイント上回った。高い認知度となっているが、前年度調査で行った“出世大名 家康くん”の認知度85.6%と比較すると低い。

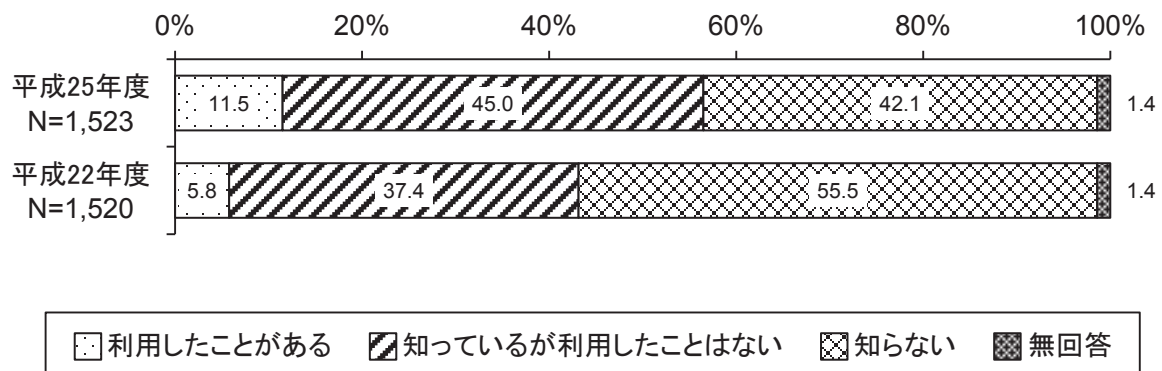
行政区別にみると、北区、浜北区、天竜区での認知度が7割を割り込んでいる。今後はこれらの地域でのPR活動に注力し、市全体で本市を全国に売り込む機運を高めていきたい。

【行政区別】



⑤ 県救急医療情報センター

※県救急医療情報センターでは、休日当番医の情報を24時間、電話(0800-222-1199)及びホームページで案内している。



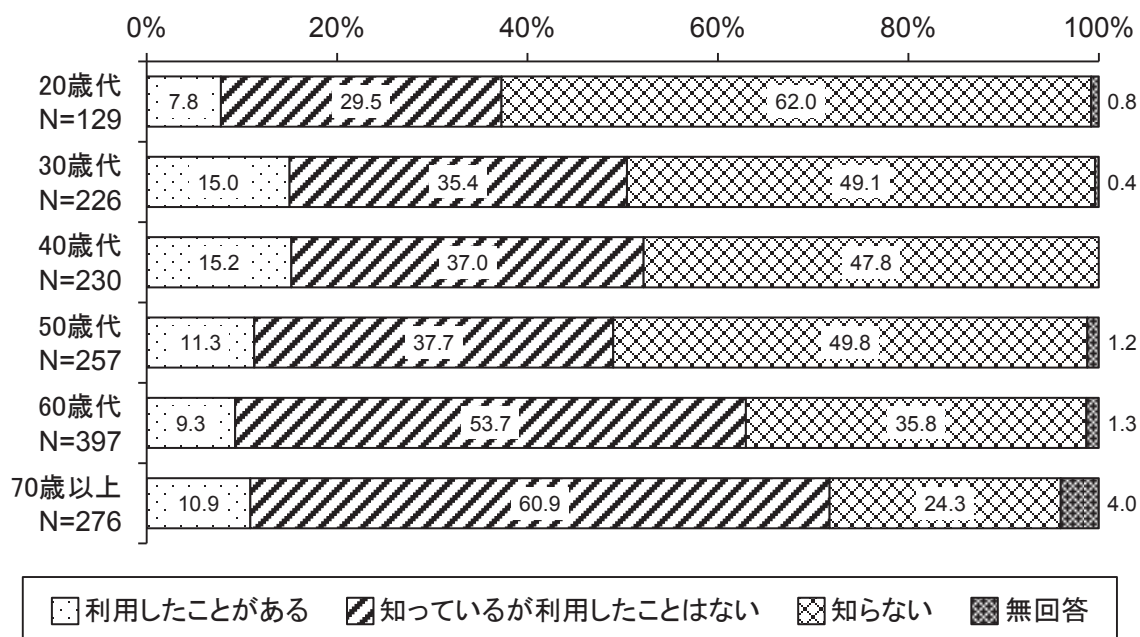
「利用したことがある」が11.5%、「知っているが利用したことはない」が45.0%、「知らない」が42.1%となった。「利用したことがある」と「知っているが利用したことはない」を合わせた『認知度』は56.5%と過半数を上回った。平成22年度調査と比較すると、『認知度』は13.3ポイント増加している。

119番通報に占める病院問合せの割合も減少してきており、平成22年度調査以降に開始した「119番通報の適正利用」に関する広報活動が有効であったと思われる。今後も広報活動を継続していく必要がある。

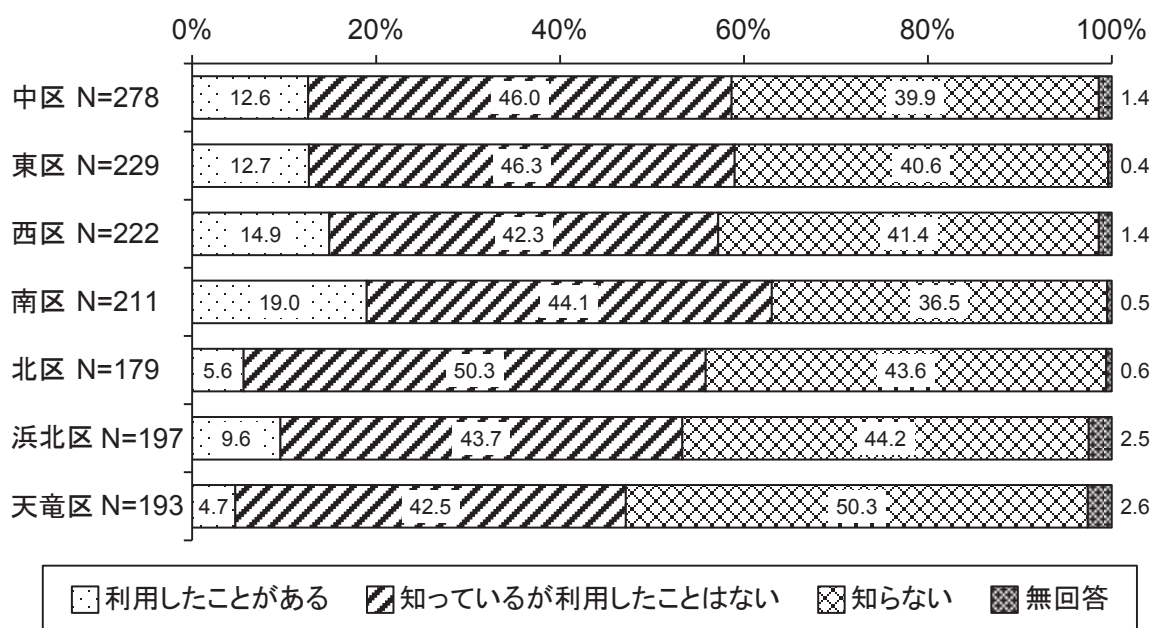
『認知度』を年代別で見ると、年齢が高いほど『認知度』も高まる傾向がみられる。「利用したことがある」は30～40歳代が他の世代と比較して高くなっている。

『認知度』を行政区別で見ると、旧浜松市だけで構成されている区(中区、東区、南区)の『認知度』が高く、旧浜松市外だけで構成されている区(浜北区、天竜区)の『認知度』が低かった(西区、北区はその中間)。

【年代別】

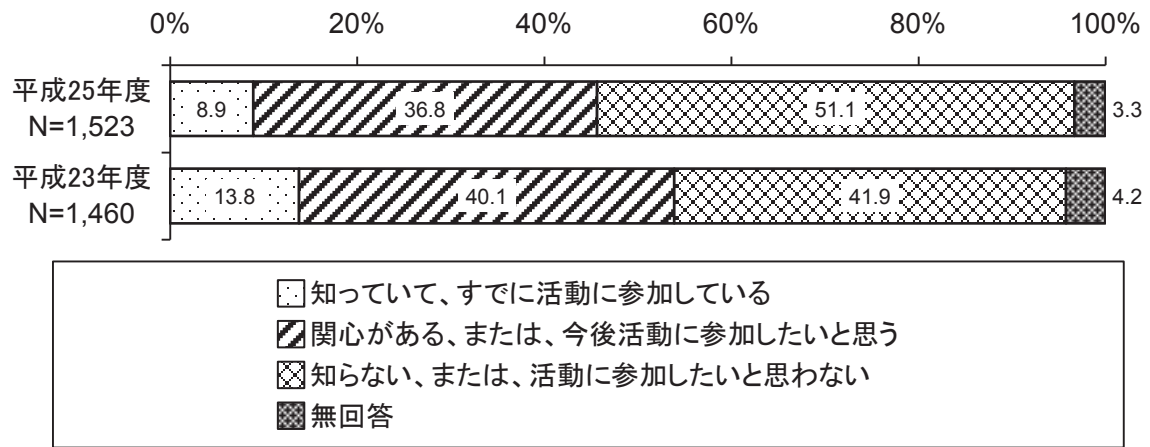


【行政区別】



⑥ 地区社会福祉協議会

※連合自治会規模の圏域で活動する住民主導の組織。地域住民をはじめ、自治会や民生委員、ボランティア等で構成し、身近な地域における福祉活動の啓発及び推進を行う。



「知っている、すでに活動に参加している」が8.9%、「関心がある、または、今後活動に参加したいと思う」が36.8%となった。「知っている、すでに活動に参加している」と「関心がある、または、今後活動に参加したいと思う」を合わせた『関心度』は45.7%となり、平成23年度調査の53.9%を8.2ポイント下回った。

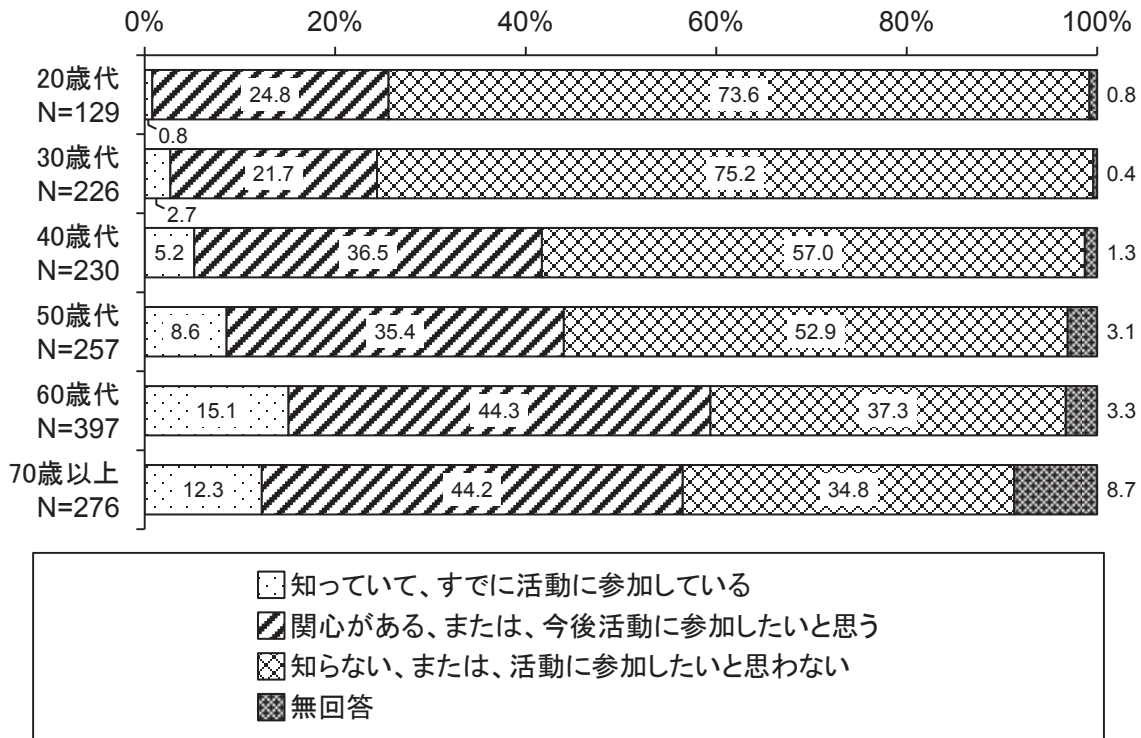
年代別にみると、20～30歳代の若い世代の『関心度』は低いですが、年齢が高くなるにつれて「参加している」と「関心がある、または、今後活動にさんかしたいと思う」の割合が高くなっている。

行政区別にみると、北区、天竜区の『関心度』が高かった。「知っている、すでに活動に参加している」に限ってみると、浜北区、天竜区の回答割合が高かった。

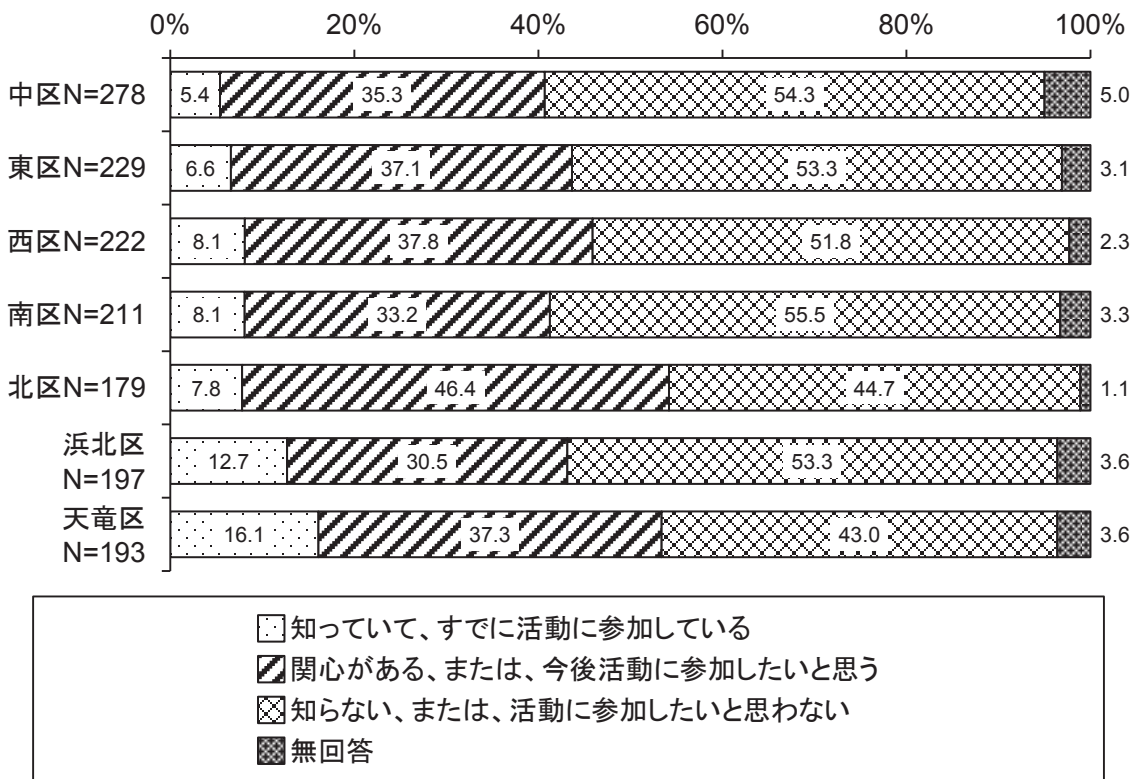
これからの地域福祉は、行政と市民の協働によって行われていくものであり、現在策定中の次期地域福祉計画では、地区社会福祉協議会が実施する事業の支援を行うと同時に、地区社会福祉協議会に対する関心度向上に向けた取り組み強化が必要となる。

地域福祉の推進にあたっては、地区社会福祉協議会の役割が大きいことから、現在策定中の次期地域福祉計画において、地区社会福祉協議会の活動を活性化する取り組みを盛り込むことで、関心度の向上を図っていく。

【年代別】



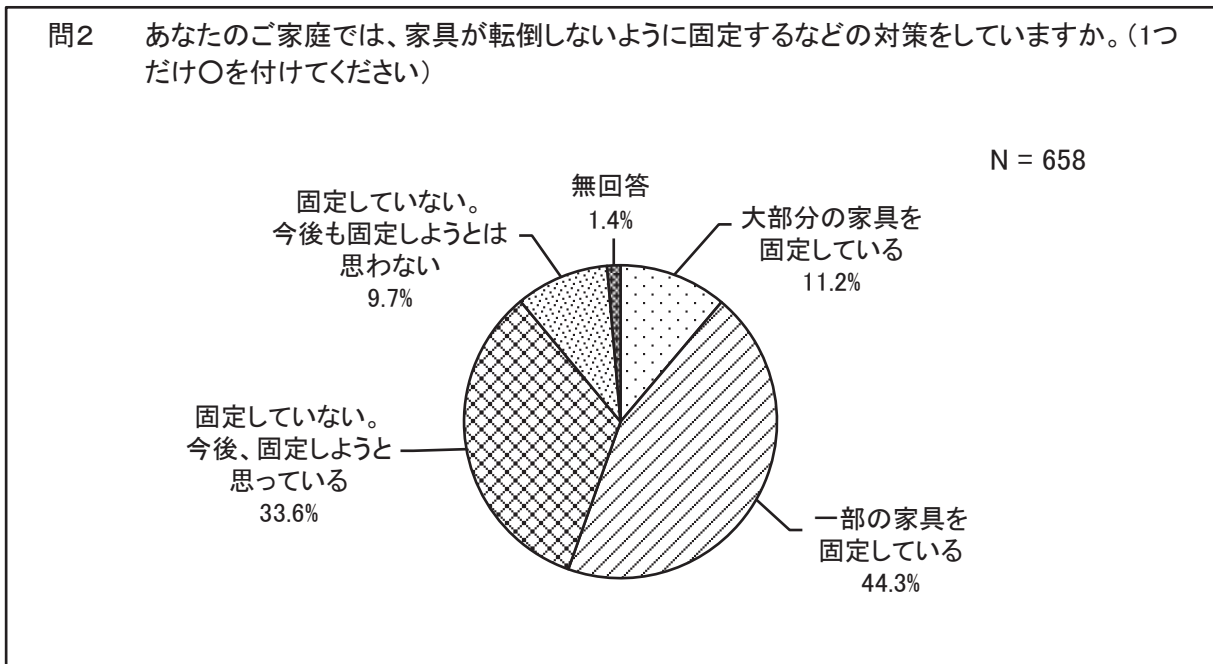
【行政区別】



2 市民の地震への備えについて

(1) 家具の固定対策について

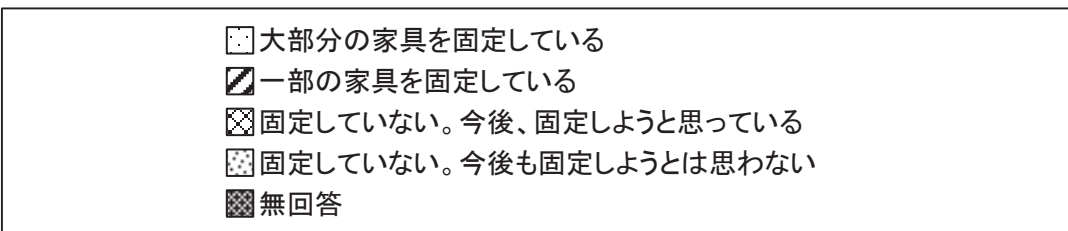
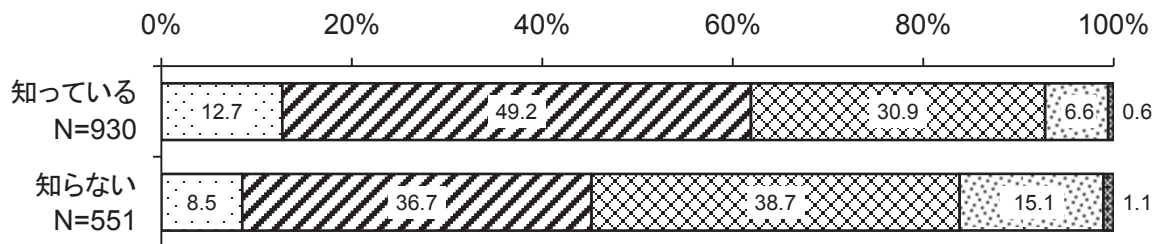
問2 あなたのご家庭では、家具が転倒しないように固定するなどの対策をしていますか。(1つだけ○を付けてください)



「一部の家具を固定している」が44.3%で最も多く、次いで「固定していない。今後、固定しようと思っている」の33.6%となった。「大部分の家具を固定している」と「一部の家具を固定している」を合わせた『固定している』は55.5%となり過半数を上回った。

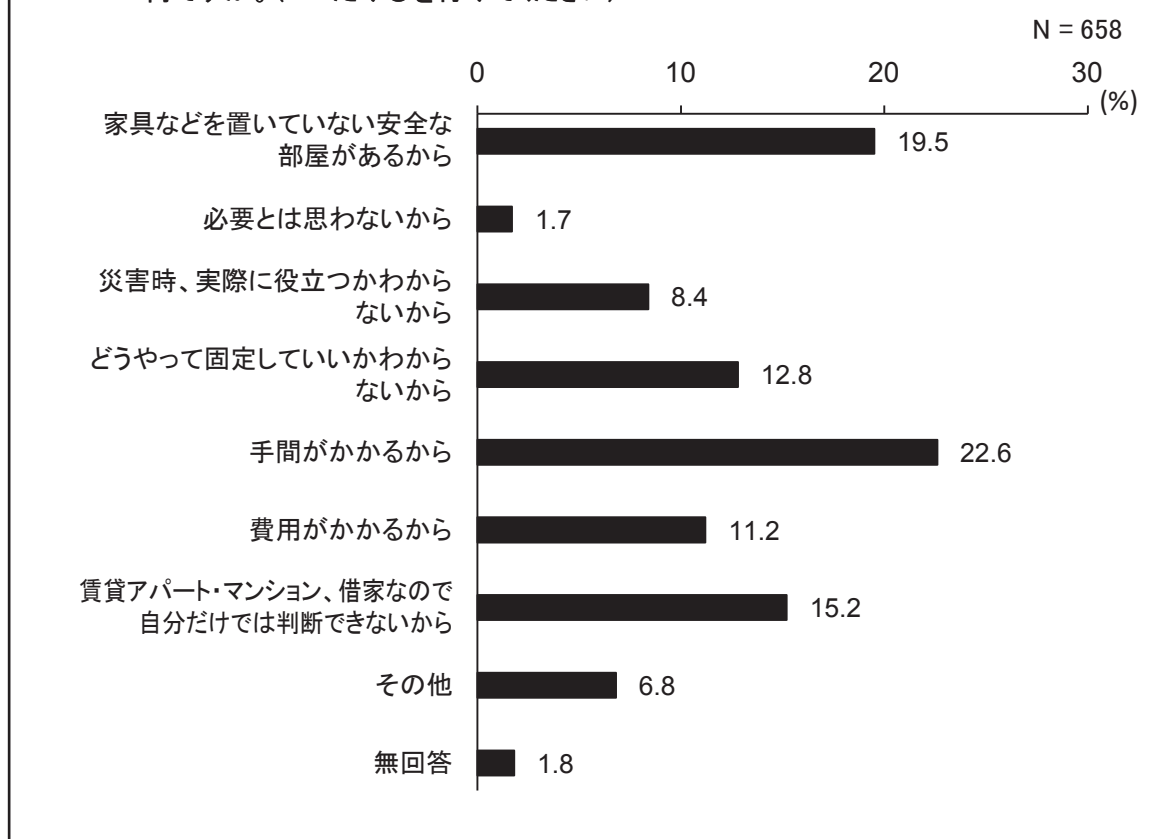
問1の③「区版避難行動計画」の回答別にみると、「区版避難行動計画」を「知っている」と回答した層は『固定している』割合が61.9%、「知らない」と回答した層は45.2%と16.7ポイントの差があった。地震対策に対する意識を高めることが、対策実施率向上につながるため、地震対策に関する施策の周知啓発活動が必要となる。

【区版避難行動計画の認知度別】



(2) 家具の固定対策をしない理由

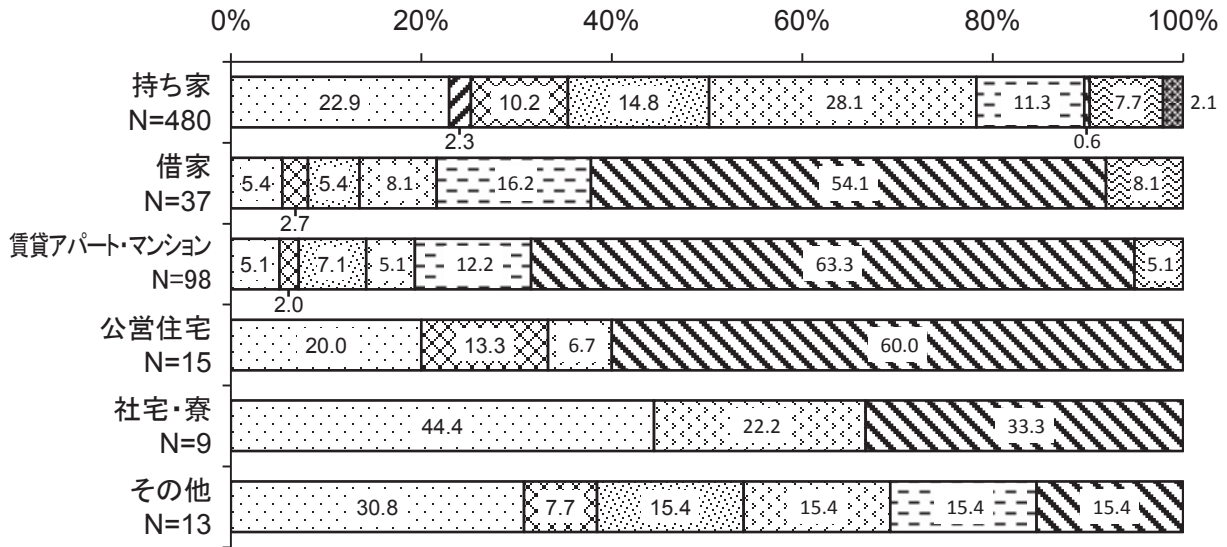
問3 問2で「3. 固定していない。今後、固定しようと思っている」「4. 固定していない。今後も固定しようとは思わない」とお答えされた方に伺います。固定などの対策をしない理由は何ですか。(1つだけ○を付けてください)



「手間がかかるから」が22.6%で最も多く、次いで「家具などを置いていない安全な部屋があるから」(19.5%)、「賃貸アパート・マンション、借家なので自分だけでは判断できないから」(15.2%)の順となった。

居住形態別で見ると、持ち家は「手間がかかるから」が最も多く、借家、賃貸アパート・マンション、公営住宅では「賃貸アパート・マンション、借家なので自分だけでは判断できないから」が最も多かった。家具固定による減災効果の周知を図るとともに、賃貸アパートなどの物件所有者に対し協力を求めるなど新たな対策も必要である。

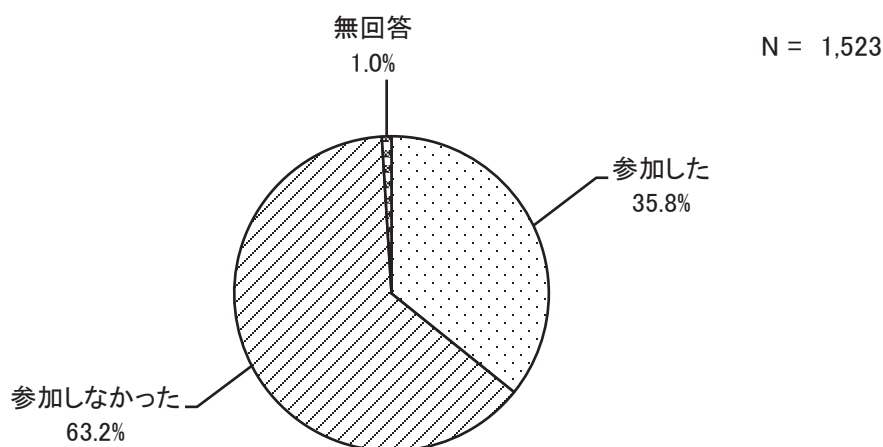
【居住形態別】



- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 家具などを置いていない安全な部屋があるから | <input type="checkbox"/> 必要とは思わないから |
| <input type="checkbox"/> 災害時、実際に役立つかわからないから | <input type="checkbox"/> どうやって固定していいかわからないから |
| <input type="checkbox"/> 手間がかかるから | <input type="checkbox"/> 費用がかかるから |
| <input type="checkbox"/> 賃貸アパート・マンション、借家なので自分だけでは判断できないから | <input type="checkbox"/> その他 |
| | <input type="checkbox"/> 無回答 |

(3) 防災訓練の参加状況

問4 昨年度(平成24年4月から平成25年3月まで)地域で実施された防災訓練に、あなたは参加しましたか。(1つだけ○を付けてください)

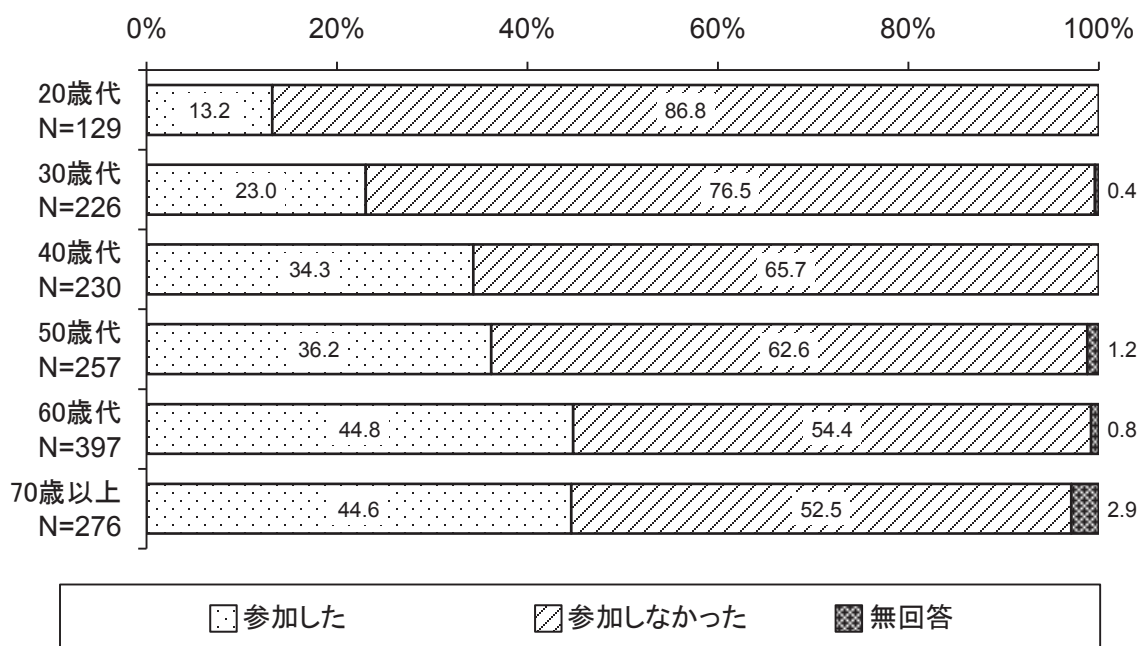


「参加した」は35.8%にとどまり、「参加しなかった」の63.2%を27.4ポイント下回った。前年度調査と比較すると「参加した」の回答割合は5.7ポイント増加しているが、依然低い参加率にとどまっており、訓練の事前周知の徹底や共助の重要性を伝えていく必要がある。

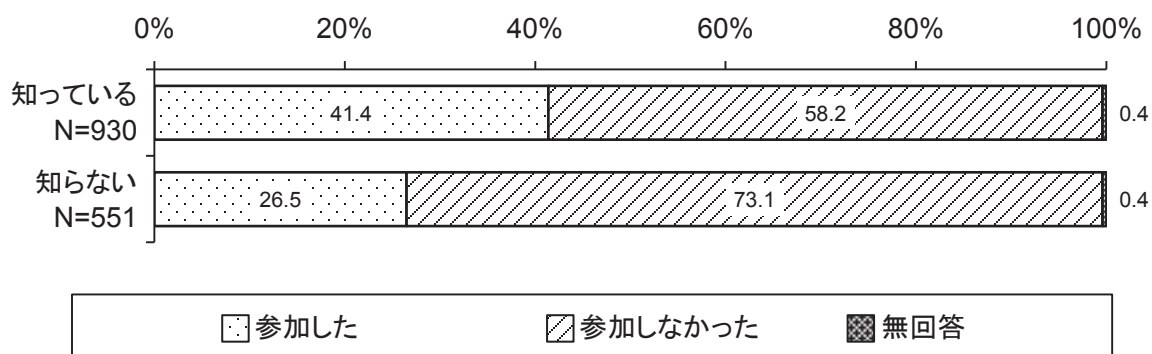
年代別でみると、年齢が高いほど「参加した」の回答割合は高まる傾向にある。ただし、「参加した」の回答割合が最も高い60歳代でも、「参加した」が「参加しなかった」を9.6ポイント下回っている。

問1の③「区版避難行動計画」の回答別に参加率をみると、「区版避難行動計画」を「知っている」と回答した層は41.4%と、「知らない」と回答した層の26.5%と14.9ポイントの差があった。問2の分析の引用になるが、地震対策に対する意識を高めることが、訓練参加率向上にもつながるため、地震対策に関する施策のより一層の周知啓発活動が必要となる。

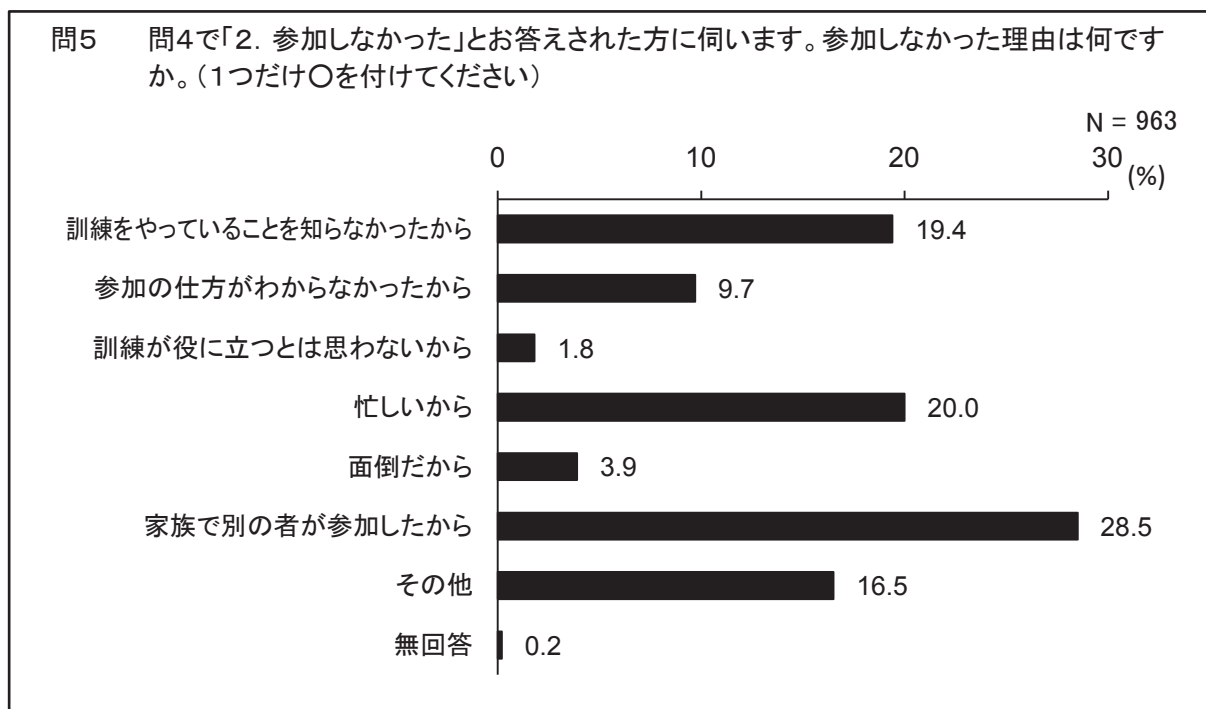
【年代別】



【区版避難行動計画の認知度別】



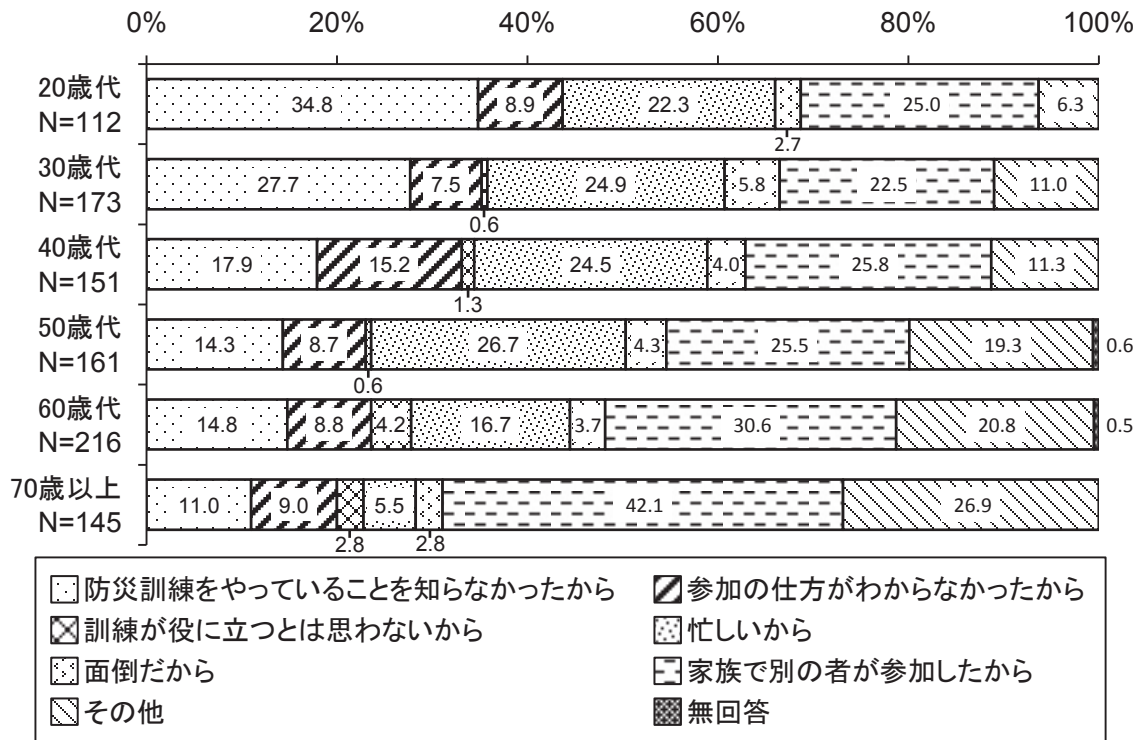
(4) 防災訓練に参加しなかった理由



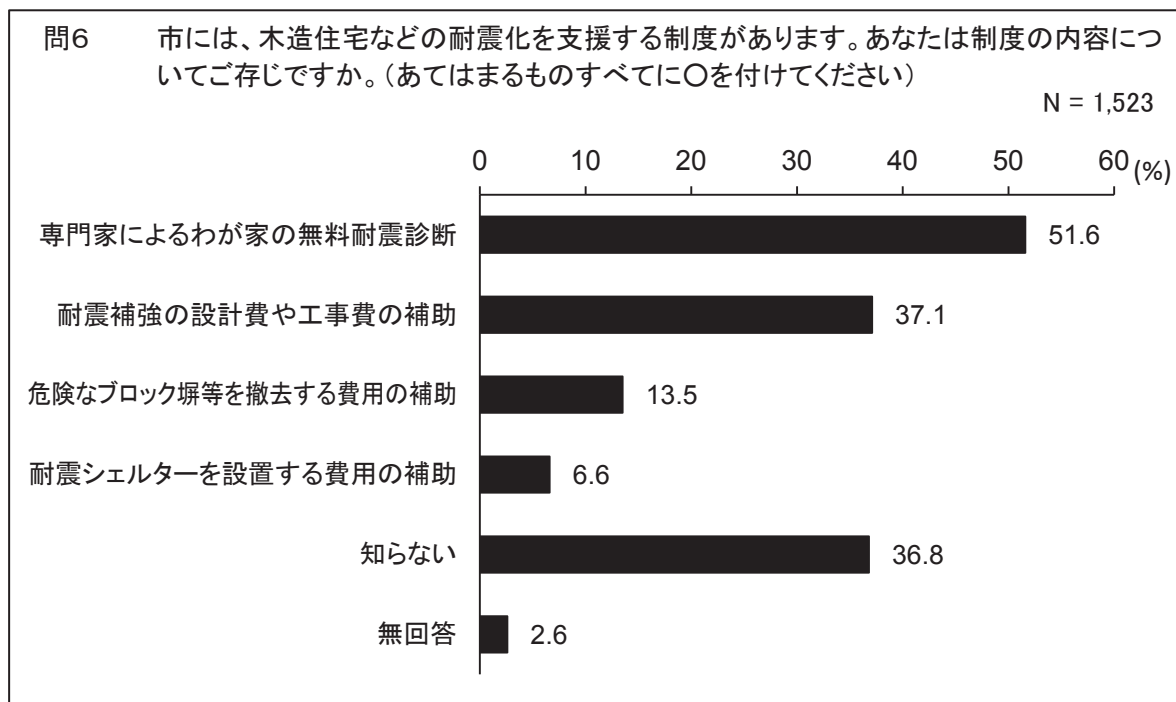
「家族で別の者が参加したから」が28.5%で最も多く、次いで「忙しいから」(20.0%)、「訓練をやっていることを知らなかったから」(19.4%)の順となった。「訓練をやっていることを知らなかったから」「参加の仕方がわからなかったから」といった周知不足を理由とするものは29.1%、「訓練が役に立つとは思わないから」「忙しいから」「面倒だから」など知っていても参加しない理由は25.7%となっている。

年代別で見ると、20～30歳代は「訓練をやっていることを知らなかったから」が最も多く、50歳代は「忙しいから」が最も多かった。60歳代以上で「その他」と回答した人の内訳をみると「健康・体力的問題で参加できない」とのコメントが目立ったことから、高齢者こそ防災訓練の参加が災害時に役立つことを周知する必要がある。

【年代別】

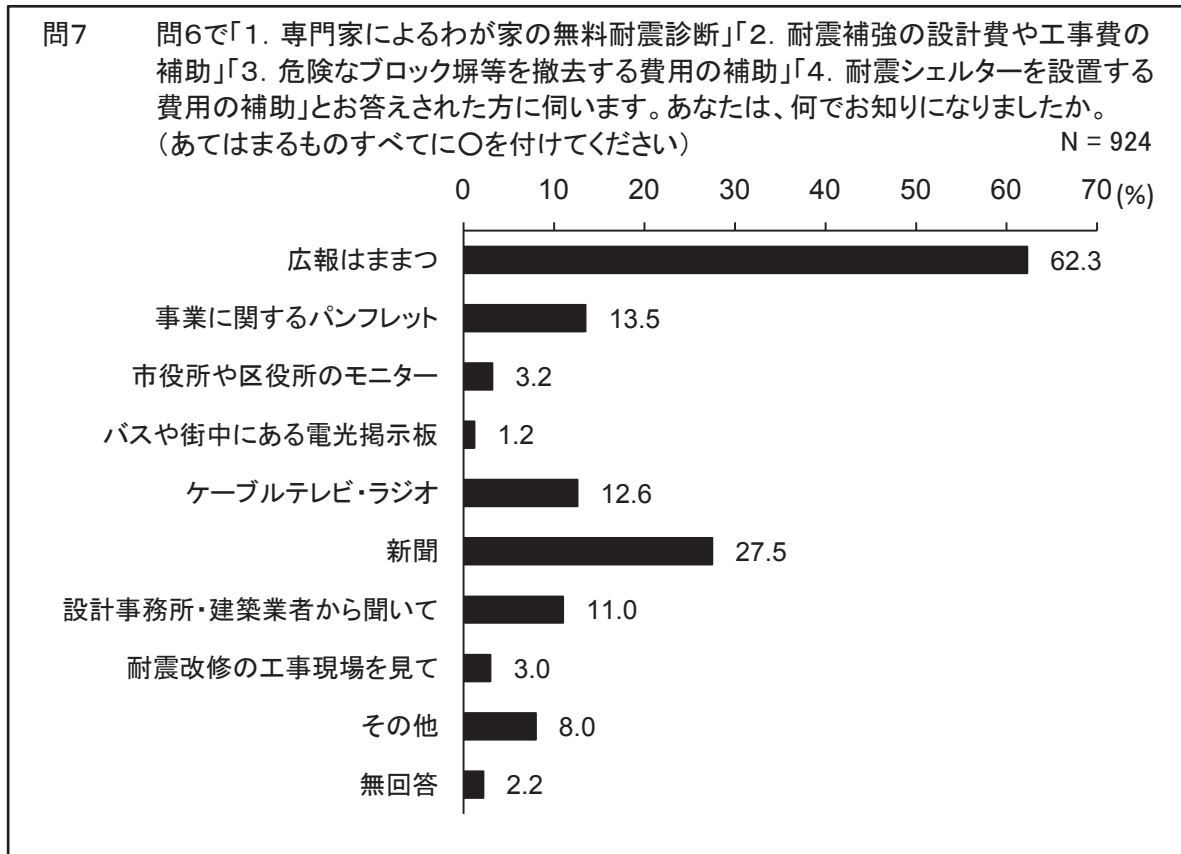


(5) 耐震化支援制度について



最も多かったのは「専門家によるわが家の無料耐震診断」の 51.6%、次いで多かったのは「耐震補強の設計費や工事費の補助」の 37.1%となった。最も少なかったのは「耐震シェルターを設置する費用の補助」の 6.6%、次いで少なかったのは「危険なブロック塀等を撤去する費用の補助」の 13.5%となった。「知らない」は 36.8%となった。

(6) 耐震化支援制度を知ったきっかけ



「広報はままつ」が 62.3% と他の項目を大きく引き離して最も多かった。次いで「新聞」(27.5%)、「事業に関するパンフレット」(13.5%)、「ケーブルテレビ・ラジオ」(12.6%) の順となった。市民の目に触れやすいものや、「設計事務所・建築業者から聞いて」(11.0%) など、直接的に説明を受ける方法について一定の効果がみられる。「庁内のモニター」(3.2%) や「バスや街中にある電光掲示板」(1.2%) は少数だった。

年代別にみると、全ての年代で「広報はままつ」が最も多かった。次に多かったのは、20 歳代は「ケーブルテレビ・ラジオ」、30 歳代以上は「新聞」となった。これまで様々な媒体を通して広報活動をしてきたが、今後は、市民の目に触れやすい媒体や、直接的に説明を受ける媒体を中心に広報活動をしていく必要がある。

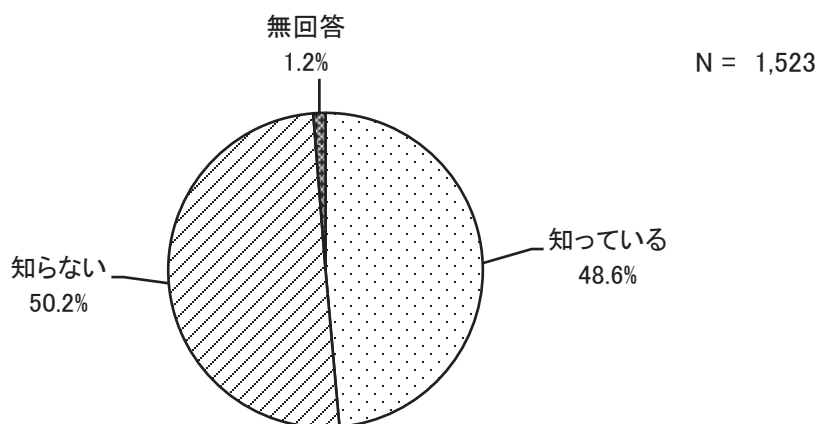
【年代別】

	広報 はままつ	事業に関 するパン フレット	市役所や 区役所の モニター	バスや街 中にある 電光掲示 板	ケーブル テレビ・ ラジオ	新聞	設計事務 所・建築 業者から 聞いて	耐震改修 の工事現 場を見て	その他	無回答
20歳代 N=38	39.5	7.9			28.9	23.7	15.8	2.6	7.9	
30歳代 N=94	52.1	9.6	4.3	1.1	9.6	23.4	6.4	2.1	11.7	3.2
40歳代 N=140	50.7	14.3	1.4	1.4	11.4	18.6	7.1	2.1	17.9	0.7
50歳代 N=163	60.1	14.7	3.7	1.2	11.7	25.8	11.0	2.5	6.7	1.2
60歳代 N=291	68.4	18.6	3.4	0.7	13.1	30.2	13.7	3.1	5.5	1.7
70歳以上 N=194	72.2	7.2	4.1	2.1	11.9	33.5	11.3	4.6	4.1	4.6

3 協働センターについて

(1) 協働センターの認知度について

問8 平成25年4月から、公民館が、併設されていた市民サービスセンターと統合し「協働センター」となりました。あなたはご存じでしたか。(1つだけ○を付けてください)



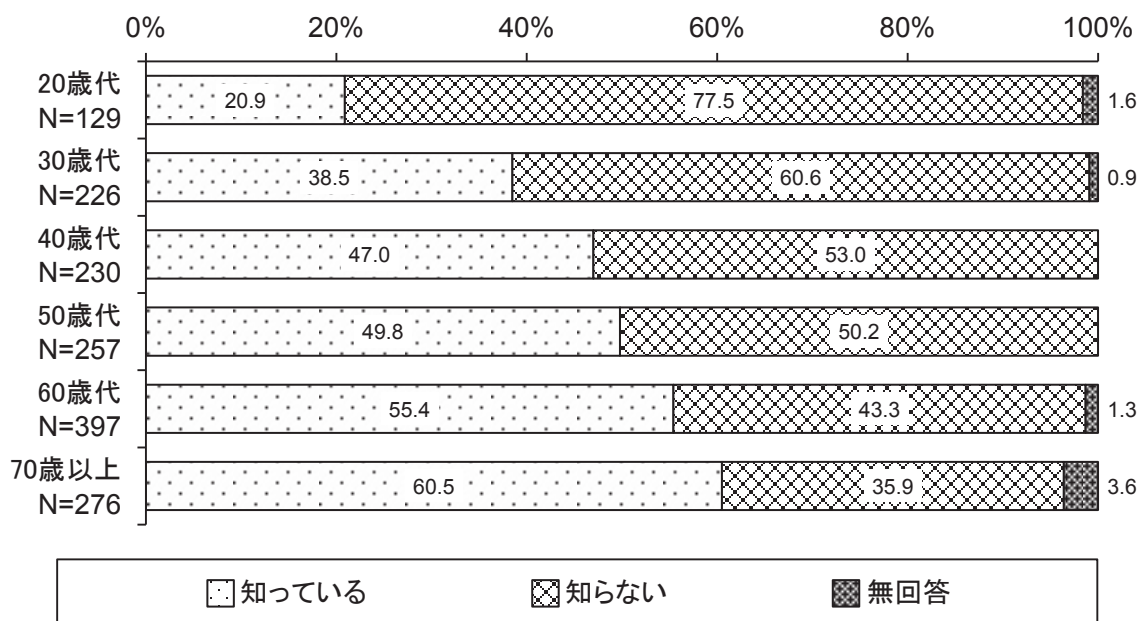
「知っている」が48.6%、「知らない」が50.2%とほぼ半々の回答となった。

年代別にみると、年齢が高まるほど「知っている」の回答割合も高まる。70歳以上は60.5%が「知っている」と回答しているのに対し、20歳代は「知っている」の回答割合が20.9%にとどまっている。

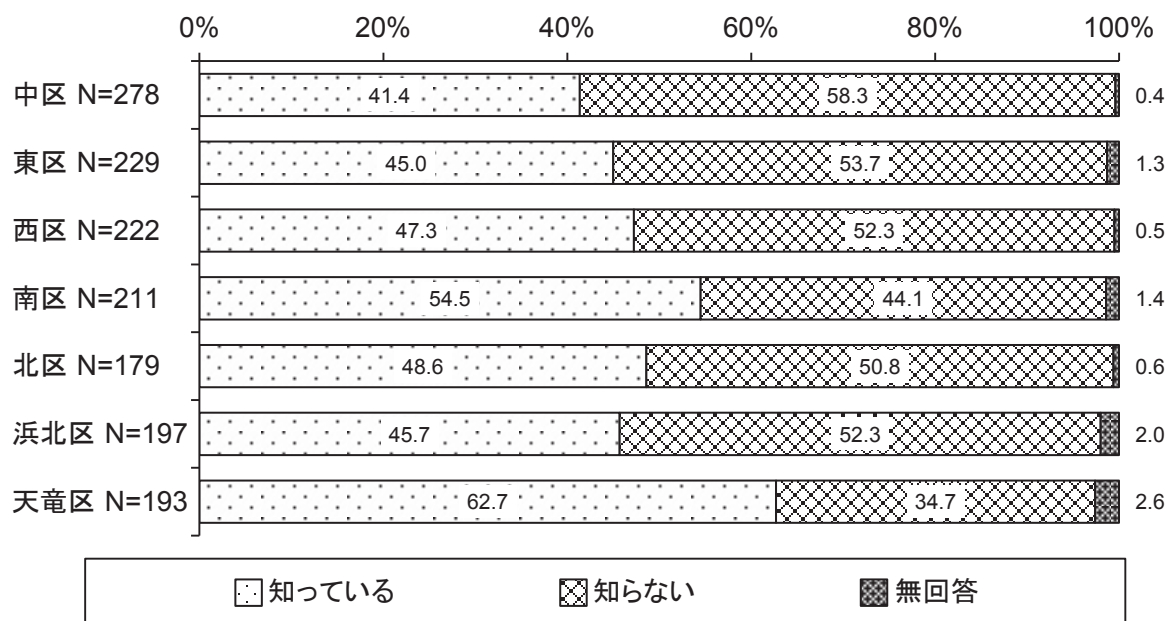
行政区別に「知っている」の回答割合を見ると、天竜区が62.7%で最も高く、中区が41.4%で最も低くなっている。

協働センターへの再編から3カ月しか経っていないなかでの調査とはいえ、若い世代を中心に名称が変更されたことへの周知が不足している。地域づくりの拠点機能の追加など名称変更の意義や、貸し館利用条件の拡大など、広く周知していく必要がある。

【年代別】

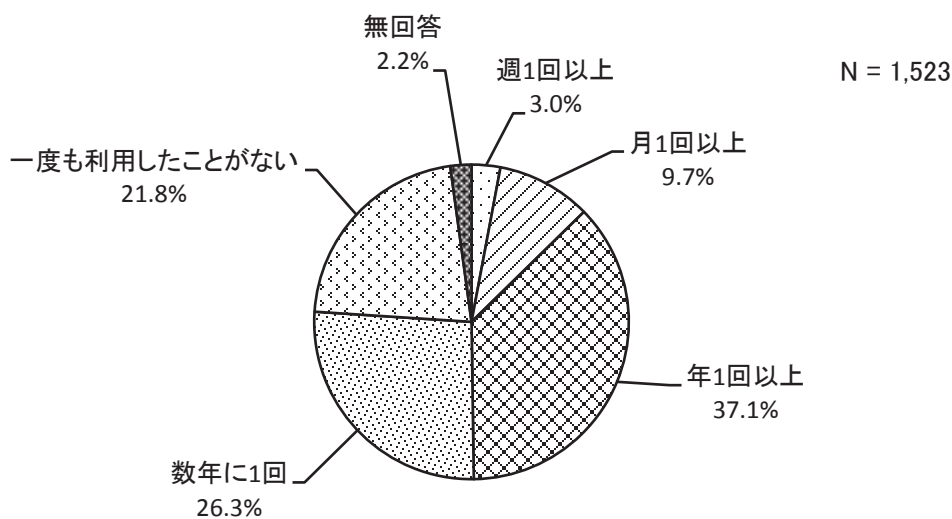


【行政区別】



(2) 協働センターの利用頻度

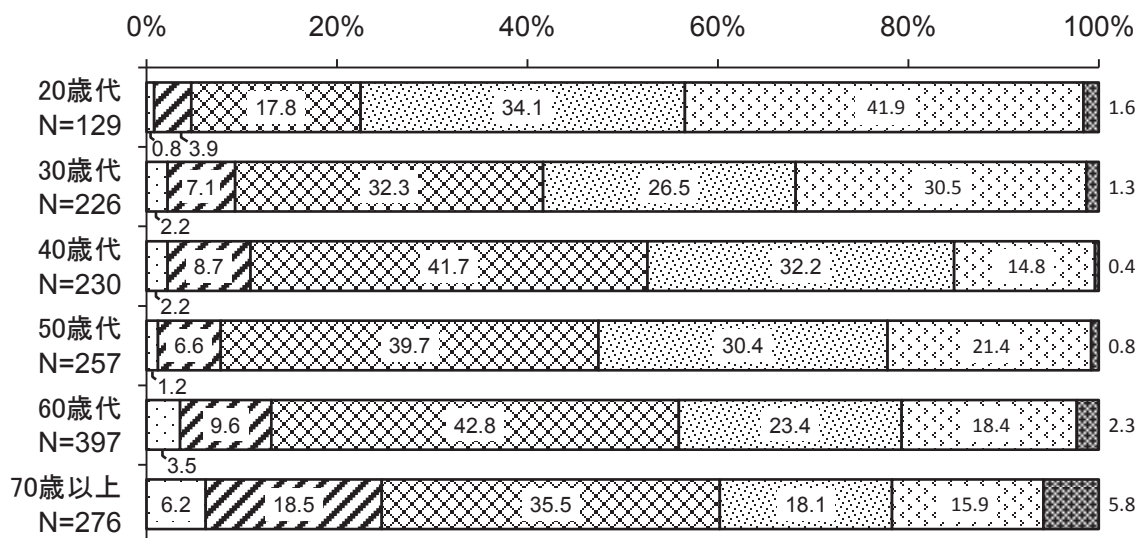
問9 あなたが、今までに協働センター(旧公民館、旧市民サービスセンター)を利用した頻度はどの程度ですか。(1つだけ○を付けてください)



「年1回以上」が37.1%と最も多く、次いで「数年に1回」(26.3%)、「一度も利用したことがない」(21.8%)の順となった。「週1回以上」(3.0%)と「月1回以上」(9.7%)を合わせた『月1回以上の利用』は12.7%にとどまっており、多くの市民が広く利用しているとはいえない状況にある。

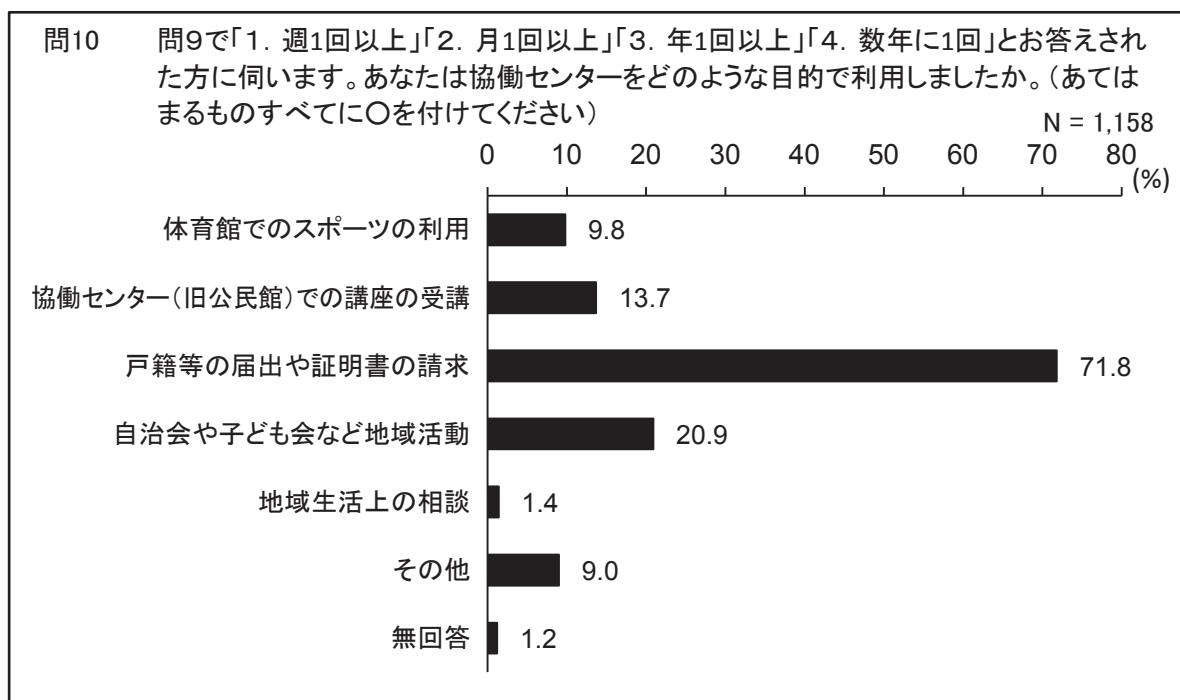
「週1回以上」と「月1回以上」を合わせた『月1回以上の利用』を年代別にみると、70歳以上は24.7%と4人に1人が月1回以上利用しているのに対し、20歳代、30歳代、50歳代は10%を割り込んでおり、世代により利用頻度に格差がみられる。

【年代別】



□ 週1回以上 ▨ 月1回以上 ▩ 年1回以上 ▤ 数年に1回 ▥ 一度も利用したことがない ■ 無回答

(3) 協働センターの利用目的

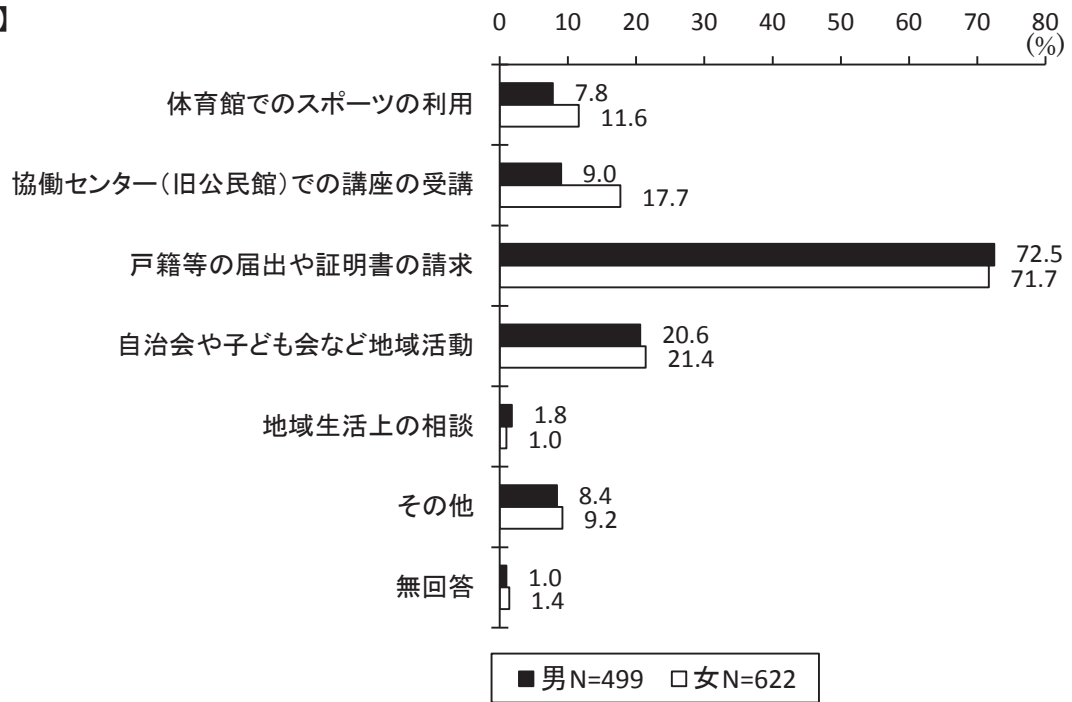


「戸籍等の届出や証明書の請求」が71.8%と圧倒的に多く、次いで「自治会や子ども会など地域活動」(20.9%)、「協働センター(旧公民館)での講座の受講」(13.7%)の順となった。

性別にみると、「戸籍等の届出や証明書の請求」と「自治会や子ども会など地域活動」は男女差がほとんどみられなかったが、「体育館でのスポーツの利用」と「協働センター(旧公民館)での講座の受講」は女性の方が回答割合が高かった。

行政区別にみると、いずれの区も「戸籍等の届出や証明書の請求」が最も多かった。他の項目では、「体育館でのスポーツの利用」は東区と天竜区、「自治会や子ども会など地域活動」は浜北区と天竜区の回答割合が相対的に高かった。

【性別】

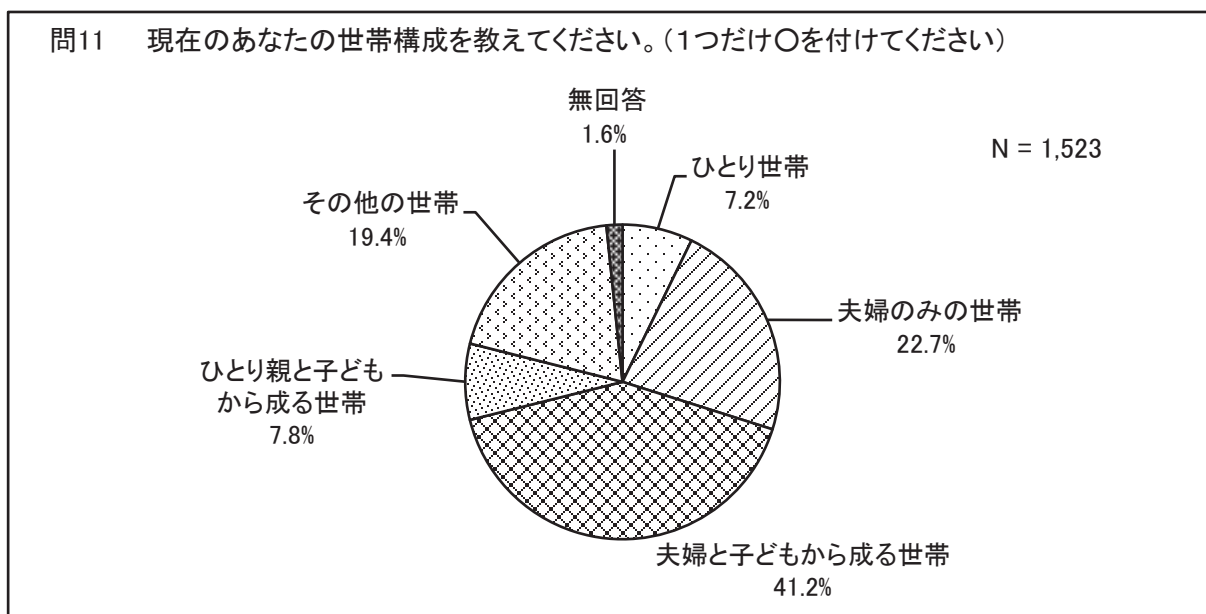


【行政区別】

	体育館でのスポーツの利用	協働センター(旧公民館)での講座の受講	戸籍等の届出や証明書の請求	自治会や子ども会など地域活動	地域生活上の相談	その他	無回答
中区N=204	8.3	12.7	81.4	11.3	0.5	5.9	1.5
東区N=181	13.3	13.3	77.9	20.4	-	6.6	2.2
西区N=172	8.7	14.0	80.2	23.3	1.7	9.3	0.6
南区N=176	9.1	10.8	76.7	18.2	1.1	8.0	1.1
北区N=134	9.0	14.9	73.1	16.4	0.7	7.5	0.7
浜北区N=132	6.8	12.1	62.1	32.6	-	9.1	1.5
天竜区N=153	13.7	19.0	44.4	29.4	5.9	17.6	0.7

4 人口減少時代におけるライフスタイルについて

(1) 現在の世帯構成について

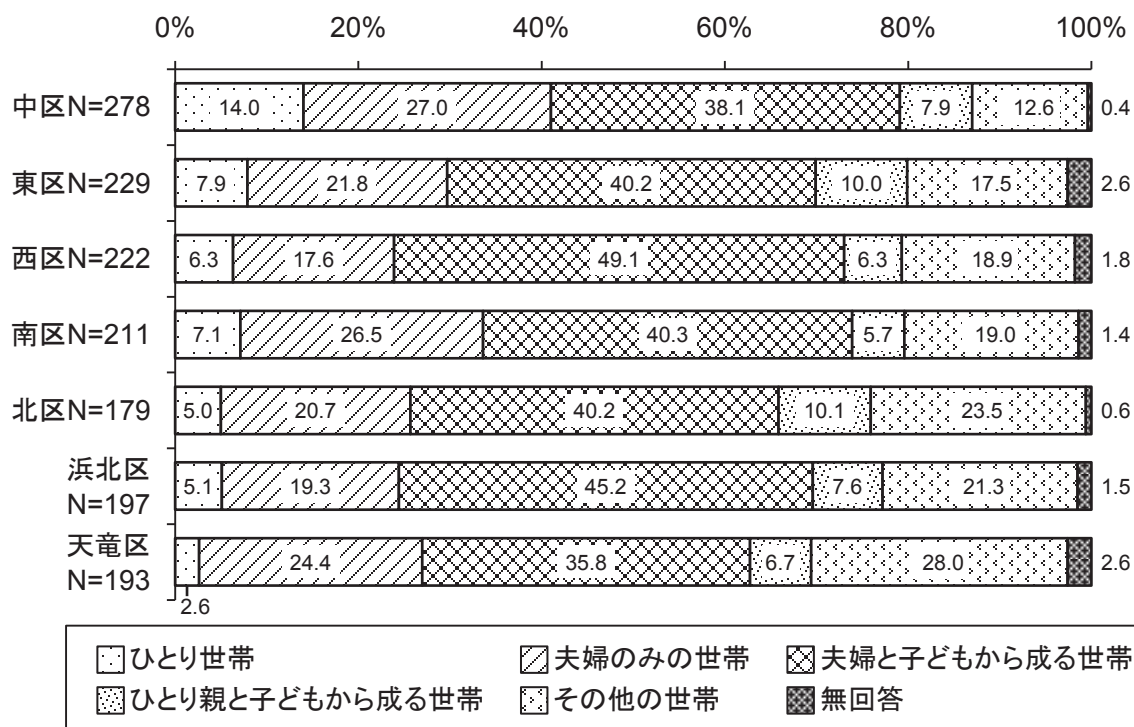


「夫婦と子どもから成る世帯」が41.2%で最も多く、次いで「夫婦のみの世帯」(22.7%)、「その他の世帯」(19.4%)の順となった。

行政区別にみると、中区では「ひとり世帯」が14.0%と、全体の約2倍の数値となった。都市部では、今後も「ひとり世帯」の増加が見込まれており、ひとり世帯高齢者の見守り支援や、地域コミュニティの維持などが課題になってくる。

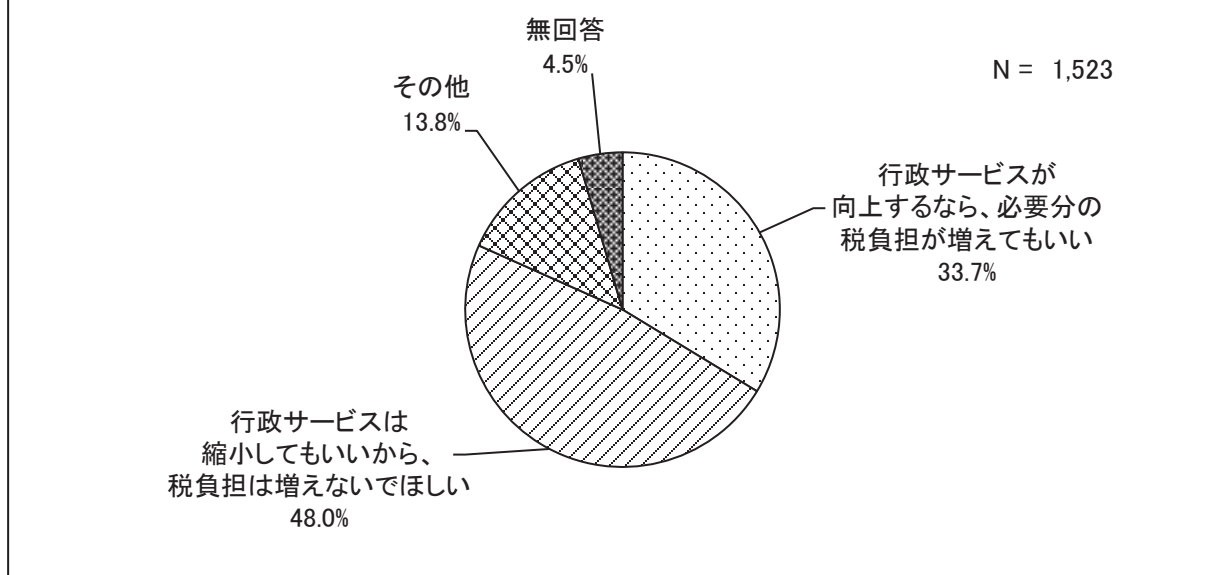
また、「夫婦と子どもから成る世帯」については、西区で49.1%、浜北区で45.2%と、他の行政区より割合が高かった。これは、新たな宅地の開発により、家族が戸建て住宅を求めて移り住んだ結果と思われる。

【行政区別】



(2) 行政サービスと税負担のバランスについて

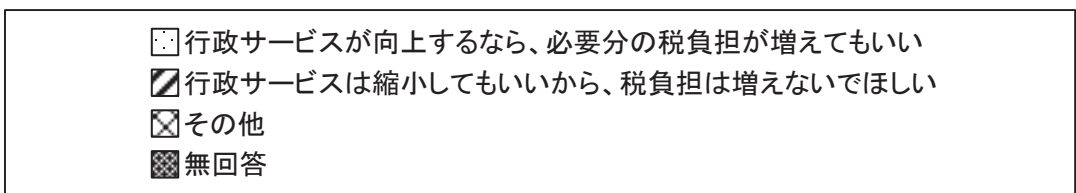
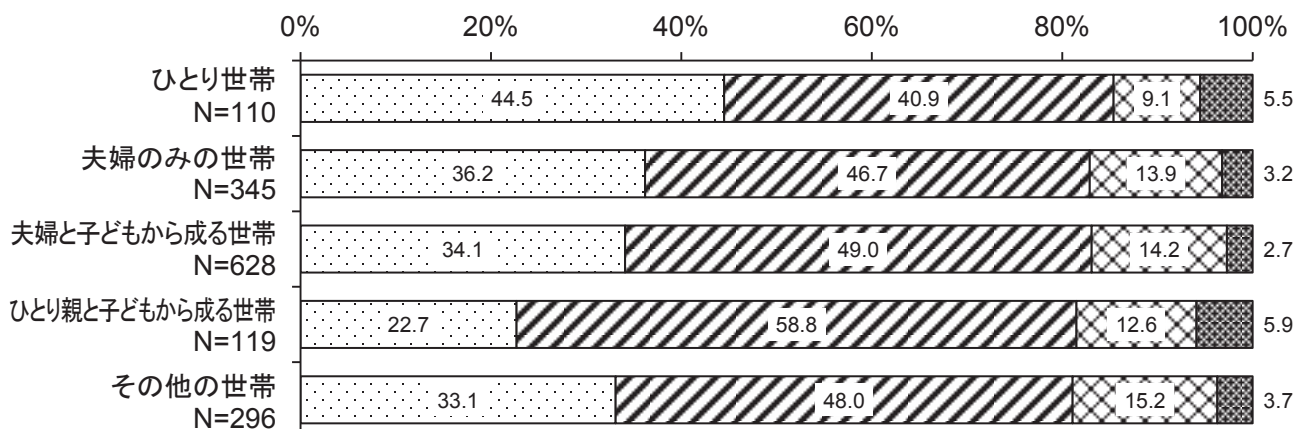
問12 あなたは、今後、行政サービスと税負担のバランスはどのようにあるべきだと思いますか。
(1つだけ○を付けてください)



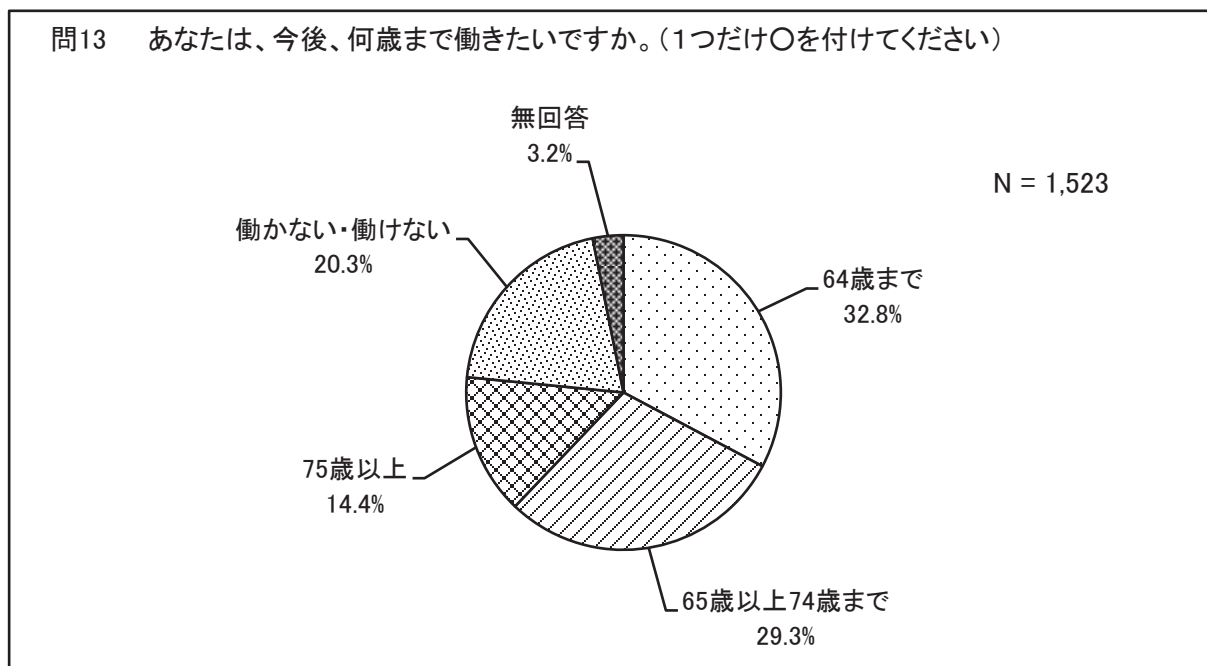
「行政サービスは縮小してもいいから、税負担は増えないでほしい」が48.0%で最も多く、「行政サービスが向上するなら、必要分の税負担が増えてもいい」の33.7%を14.3ポイント上回った。

世帯構成別にみると、ひとり世帯は「行政サービスが向上するなら、必要分の税負担が増えてもいい」が「行政サービスは縮小してもいいから税負担は増えないでほしい」を3.6ポイント上回った。ひとり世帯以外の世帯は、「行政サービスは縮小してもいいから、税負担は増えないでほしい」が最も多くなっている。

【世帯構成別】



(3) 今後、何歳まで働きたいですか？

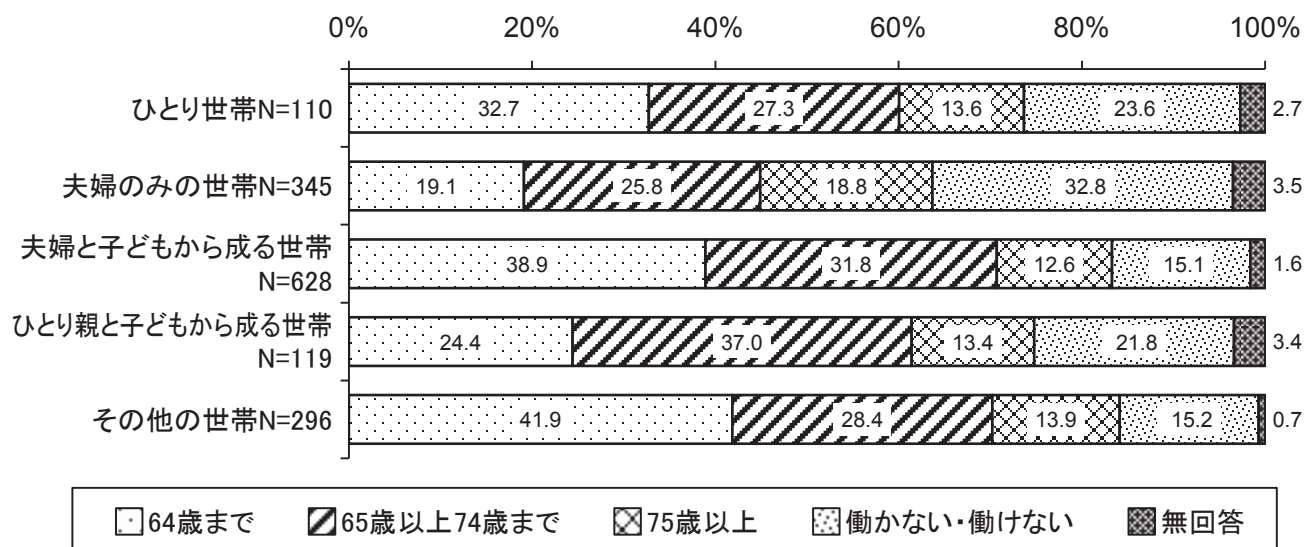


「64歳まで」が32.8%で最も多く、次いで「65歳以上74歳まで」(29.3%)、「働かない・働けない」(20.3%)の順となった。「65歳以上74歳まで」と「75歳以上」を合わせた『65歳以上』は43.7%となり、「64歳まで」を10.9ポイント上回った。

また、世帯構成別にみると、「夫婦のみの世帯」に関しては、「64歳まで」の割合が19.1%と全体の割合より10ポイント以上低く、「ひとり親と子どもから成る世帯」に関しては、65歳以上まで働きたい割合が5割を超えた。

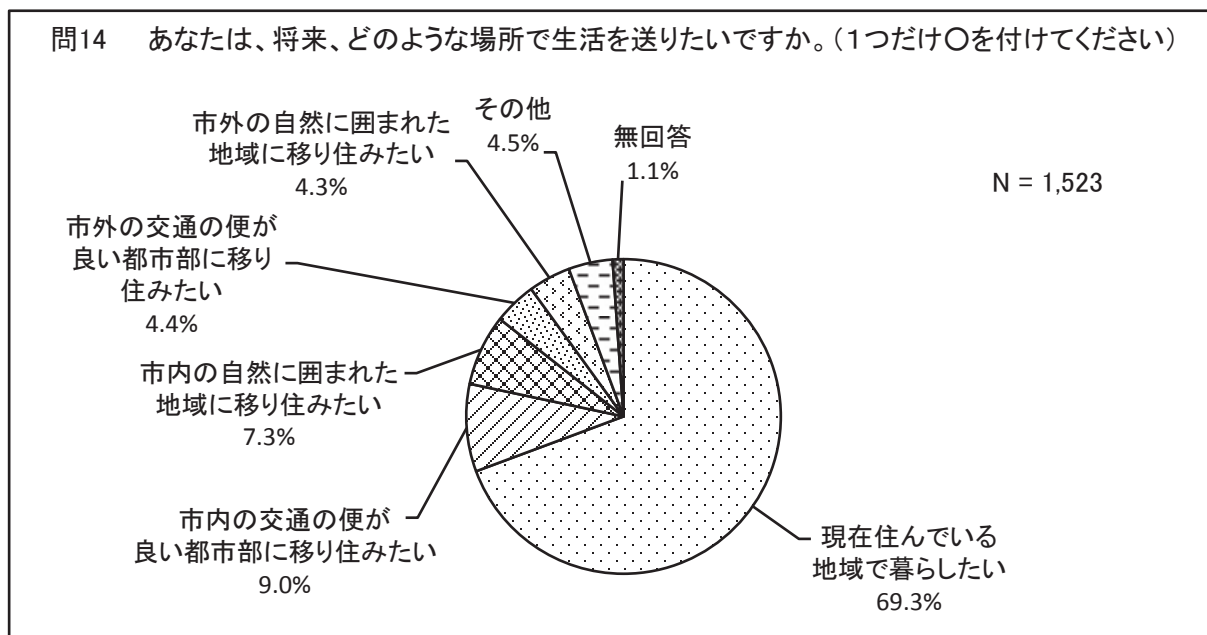
65歳以上であっても労働意欲が高いものと考えられ、今後、超高齢社会を迎える中、高齢者が活躍できる社会の構築が望まれる。

【世帯構成別】



(4) 将来、どのような場所で生活を送りたいですか？

問14 あなたは、将来、どのような場所で生活を送りたいですか。(1つだけ○を付けてください)



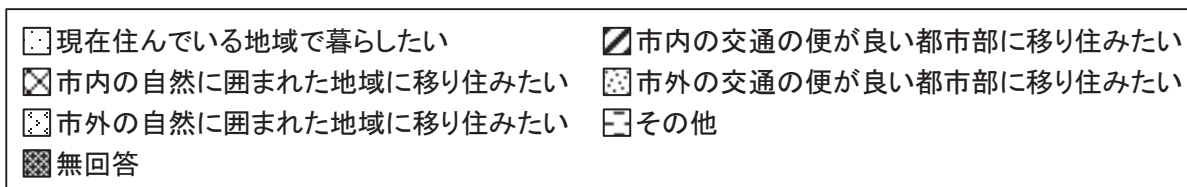
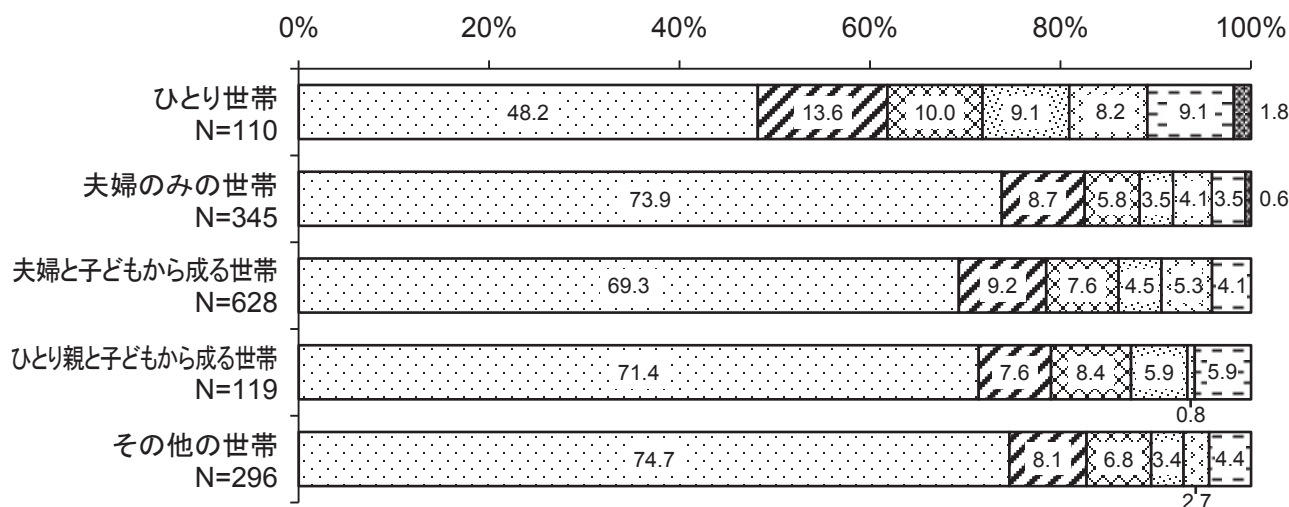
「現在住んでいる地域で暮らしたい」が最も多く、69.3%と他の項目を大きく引き離れた。

世帯構成別にみると、いずれの世帯も「現在住んでいる地域で暮らしたい」が最も多くなっているが、ひとり世帯の回答割合は48.2%と他の世帯と比較すると低くなっている。

ひとり世帯をさらに年齢別にみると、年齢が若いほど「現在住んでいる地域で暮らしたい」の回答割合も低くなる傾向がみられた。

約86%の市民は、浜松に住み続けたいと考えている。今後は、公共インフラなどの維持管理費を抑えた、よりコンパクトな集約型の都市構造を目指している中で、約7割の世帯では「現在住んでいる地域で暮らしたい」と考えており、いかに市民ニーズに応えることができるかが課題である。

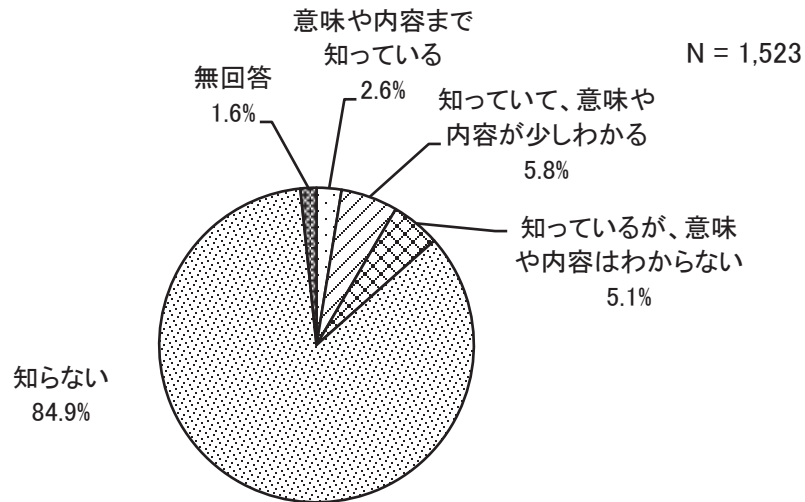
【世帯構成別】



5 スポーツの振興について

(1) 「1・1・1運動」の認知度

問15 市では、スポーツ振興のキャッチフレーズとして、1週間に1回以上、1スポーツをしよう！という意味の「1・1・1(いち・いち・いち)運動」を展開しています。あなたはご存じでしたか。(1つだけ○を付けてください)



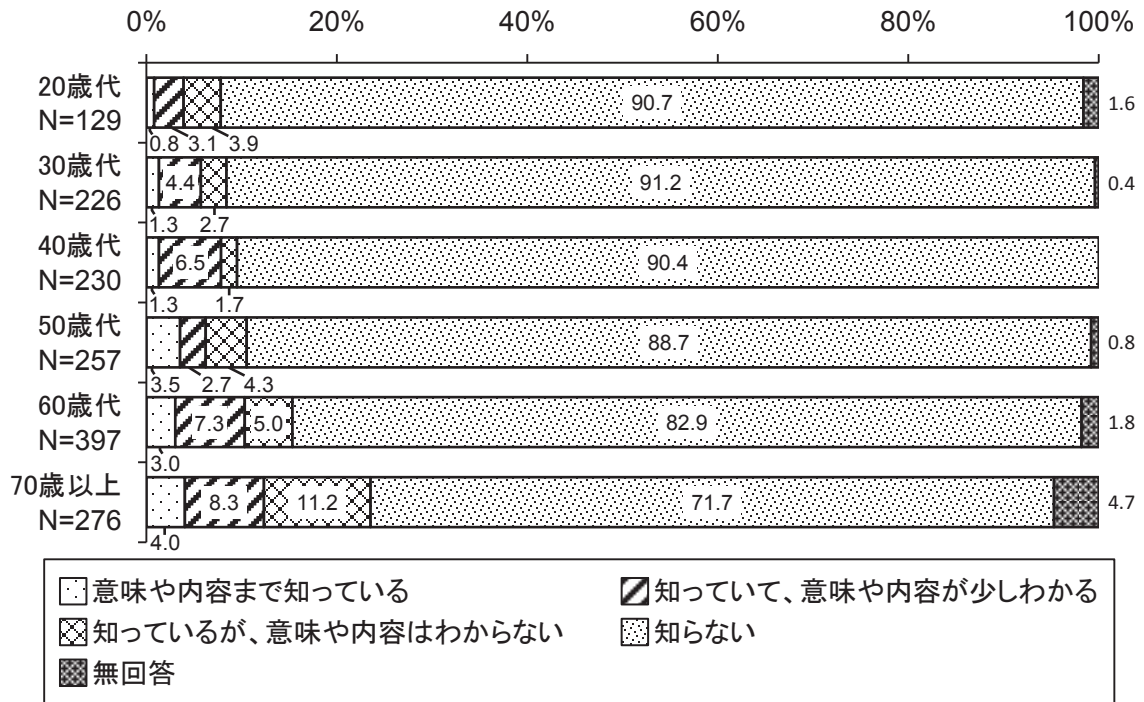
「意味や内容まで知っている」が2.6%、「知っている、意味や内容が少しわかる」が5.8%、「知っているが、意味や内容はわからない」が5.1%となった。この3項目を合わせた『認知度』は13.5%となり「知らない」の84.9%を71.4ポイント下回った。

『認知度』を年代別にみると、年齢が高いほど『認知度』も高まる傾向がみられるが、最も『認知度』の高い70歳以上で23.5%にとどまっており、すべての世代に対して周知が不足している状況といえる。

「のぼり旗の設置」「ポスターの掲出」「1000METs マップの作成」といった啓発活動に加え、近年は「市役所庁舎内のエレベーターマットへの広告掲載」「市民受付カウンター背面広告への掲出」「スポーツ振興課の発送物へのPRチラシの封入」などにより周知を強化しているが、より一層の周知を図るための手立てを考えていく必要がある。具体的には、各体育振興会や財団法人浜松市体育協会支部などで実施している地域スポーツ振興事業の中で、「1・1・1運動」の取り組みについて広く広報するために、地域スポーツ振興のリーダーとなる「浜松市スポーツ推進委員」や「浜松市地域スポーツ指導者」にご協力いただき、スポーツイベントの際に参加者への啓発を積極的に行うことや、浜松市民スポーツ祭を実施する各競技団体や浜松市レクリエーション協会の加盟団体に協力要請するなどして、市民への周知を図ろうと考えている。

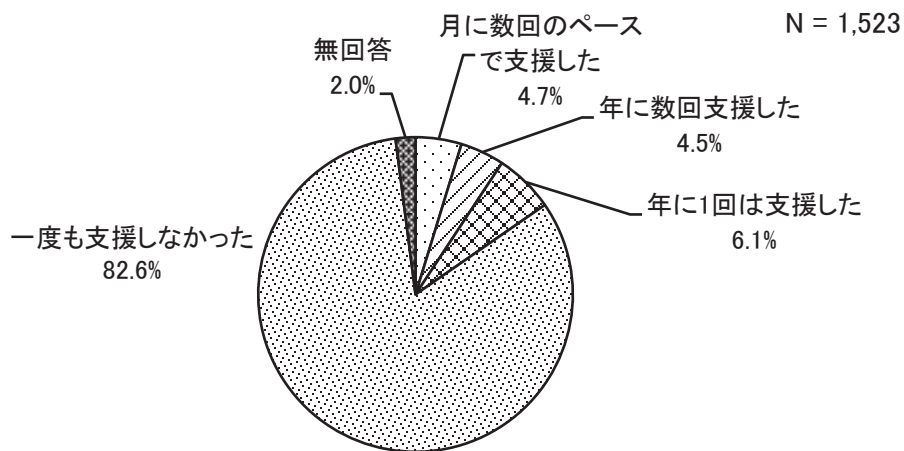
平成26年度から新たに「浜松市スポーツ推進計画」が始まるため、各年代のライフスタイルに応じたスポーツへの関わりを強化していきたいと考えており、関係団体と連携して、市民のスポーツに対する意識の高揚を目指すためにも、1週間に1回以上1スポーツをしようという「1・1・1運動」の考えが定着するよう継続して啓発活動に努めたいと考える。

【年代別】



(2) スポーツに対する支援活動について

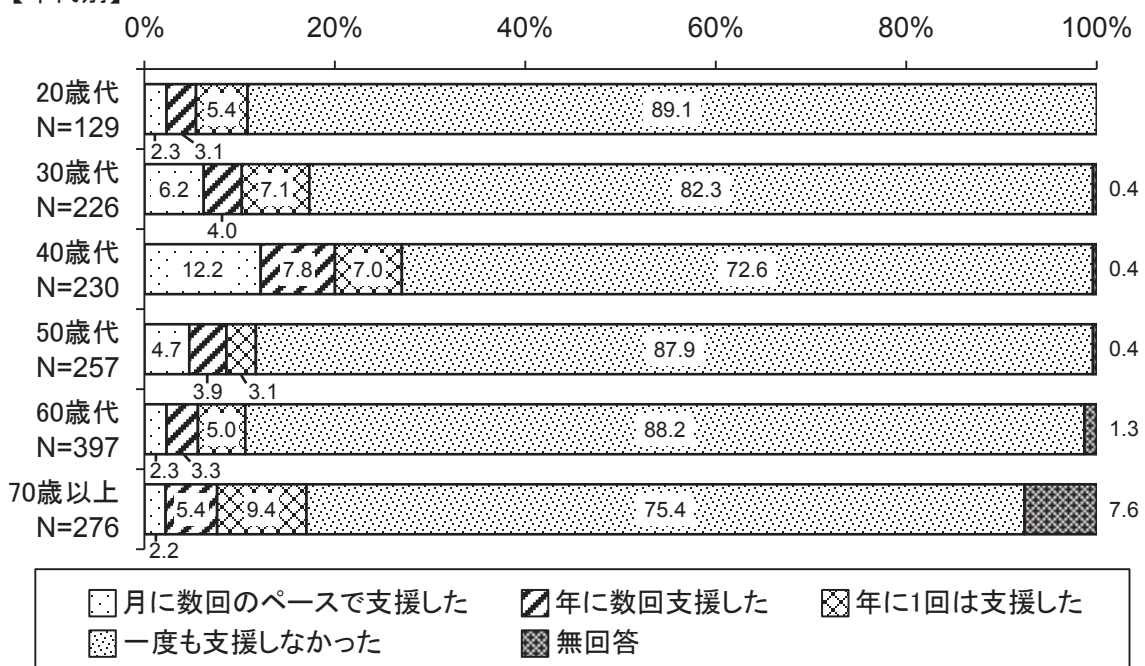
問16 あなたは、過去1年間にスポーツに対する支援活動を行いましたか。大きなスポーツイベントのボランティア活動だけでなく、地域のスポーツ少年団や部活動、子ども会のスポーツ活動のお手伝いなども含みます。(1つだけ○を付けてください)



「月に数回のペースで支援した」が4.7%、「年に数回支援した」が4.5%、「年に1回は支援した」が6.1%となり、『年1回以上』のスポーツ支援実施率は15.3%となった。浜松市がスポーツ振興基本計画の数値目標として掲げている「成人の年1回以上のスポーツ支援実施率35%以上」とは、19.7ポイントの開きがある。『年1回以上』のスポーツ支援実施率を年代別にみると、最も支援率が高い40歳代でも27.0%と市の目標数値に達していない。

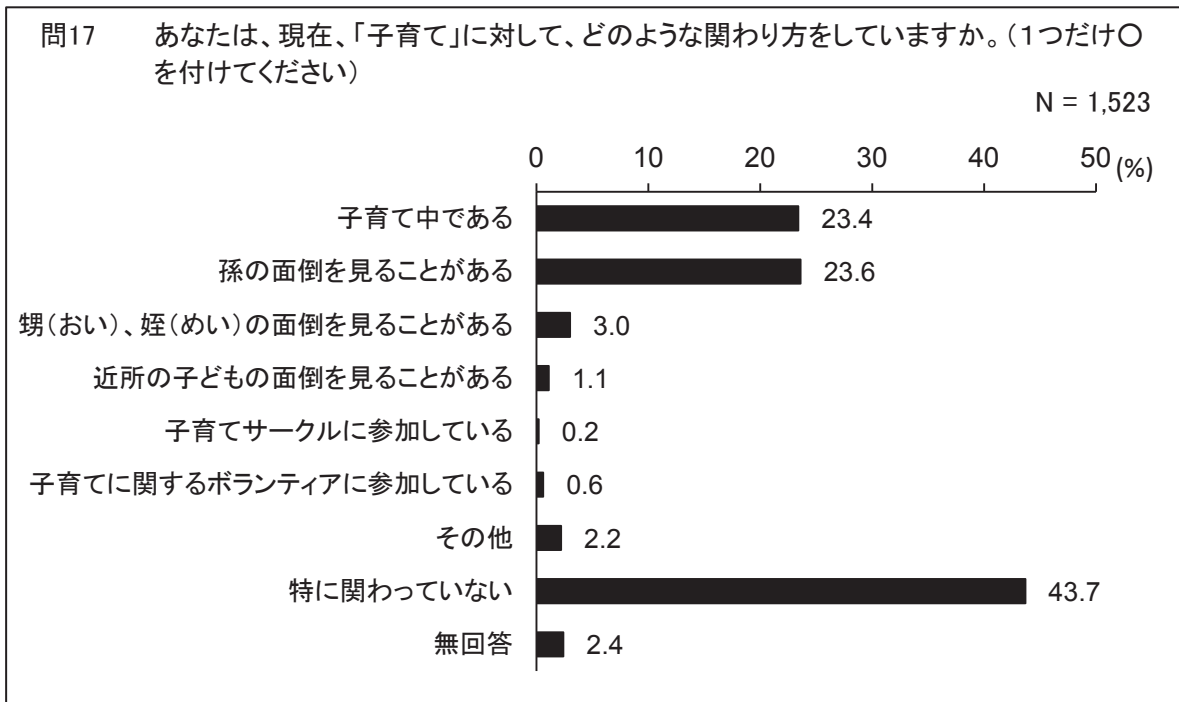
現在、市民の「ささえるスポーツ」振興の場として中心になるのは、浜松シティマラソンにおける市民ボランティアの活動である。浜松シティマラソンでは、一般の方へのボランティア参加を呼びかけるだけでなく、浜松市内の大学、高等学校、コース周辺の中学校などにも協力をいただくなど、「するスポーツ」としての楽しみ方だけでなく「ささえるスポーツ」としての考え方が広まるよう、ボランティアの活躍を積極的に広報していきたいと考える。また、関係団体との連携を深め、スポーツの支援活動をする機会の確保及び周知、身近なスポーツ活動への支援の啓発などを検討していく必要があると思われる。

【年代別】



6 子育て支援について

(1) 子育てへの関わりについて



「特に関わっていない」が43.7%と最も高く、次いで「孫の面倒を見ることがある」が23.6%、「子育て中である」が23.4%の順となっている。

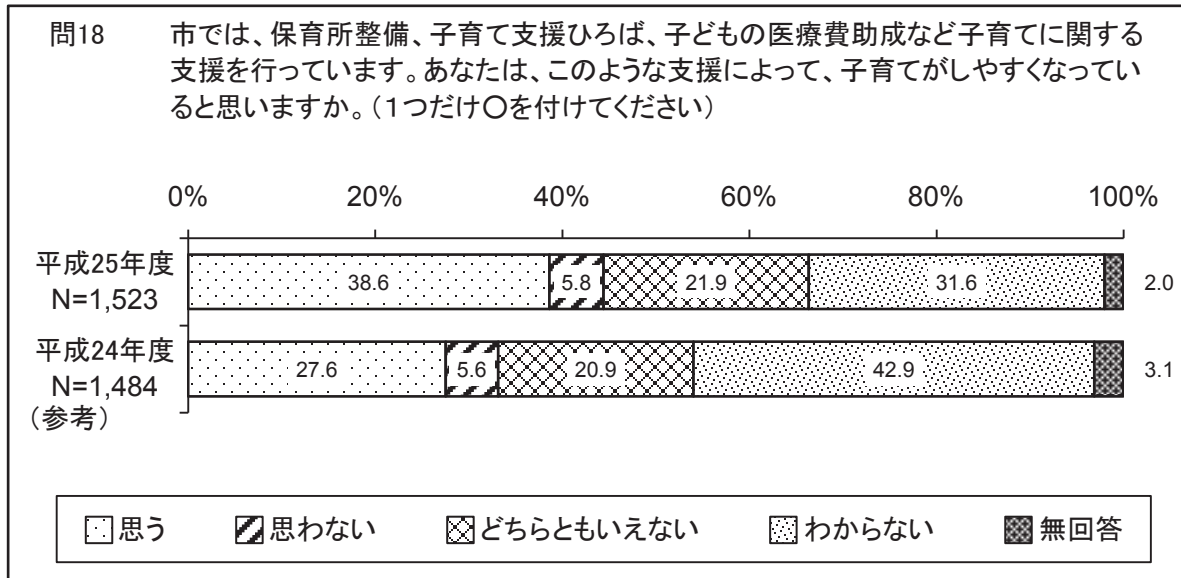
年代別でみると、「子育て中である」は、30歳代が67.3%、40歳代が61.3%と6割を占めている。50歳代を超えると、「孫の面倒を見ることがある」が「子育て中である」を上回っている。

社会全体で子どもや子育てを支えていくために、子育てに「特に関わっていない」層に対し、地域でのボランティア活動等への参加を積極的に呼びかけ、地域の大人が地域の子どもや子育て中の親と交流する機会をさらに増やすなど、相互扶助の気運を一層高める必要がある。そうすることで、様々な年代からの子育てに対する提案・意見や、子育て経験者からのアドバイスが、子育て世代に伝わることを期待される。

【年代別】

	子育て中である	孫の面倒を見ることがある	甥(おい)、姪(めい)の面倒を見ることがある	近所の子どもの面倒を見ることがある	子育てサークルに参加している	子育てに関するボランティアに参加している	その他	特に関わっていない	無回答
20歳代N=129	14.0	-	11.6	3.1	-	1.6	5.4	63.6	0.8
30歳代N=226	67.3	-	6.6	0.9	0.4	-	1.3	22.6	0.9
40歳代N=230	61.3	-	5.2	0.4	-	0.4	1.3	30.9	0.4
50歳代N=257	16.0	19.1	0.4	0.4	-	0.8	1.9	60.3	1.2
60歳代N=397	0.8	48.6	0.3	1.0	-	-	2.5	44.8	2.0
70歳以上N=276	-	42.0	0.4	1.4	0.7	1.4	2.2	44.6	7.2

(2) 子育てしやすくなっているか



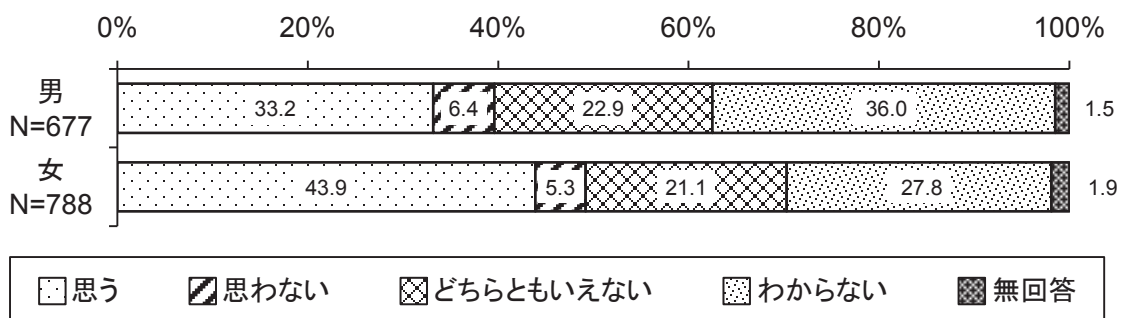
「思う」が 38.6%と最も高く、「思わない」の 5.8%を 32.8 ポイント上回った。前年度調査と比較すると、今年度調査では設問の具体例に保育所整備、子どもの医療費助成を新たに追加したため単純比較はできないが、「思う」の回答割合が 11.0 ポイント上昇している。保育所整備、子どもの医療費助成に関する支援ニーズが高いことがうかがえる。

性別でみると、「思う」の回答割合は男性が 33.2%、女性が 43.9%と、10.7 ポイントの差があった。

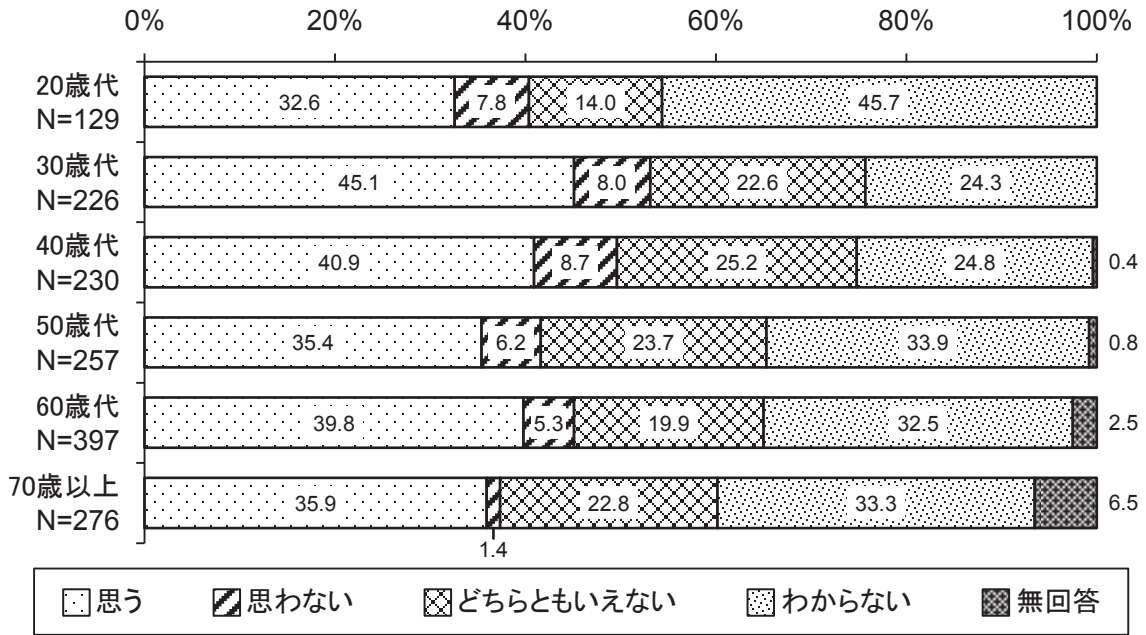
年代別でみると、子育て世代の 30～40 歳代では、「思う」が 4 割を超えている一方、「思わない」が 10%未満と少数意見ではあるが、他の世代と比較して高くなっている。

問 17 で「子育て中である」「孫の面倒を見ることがある」と回答した層は「特に関わっていない」と回答した層と比較して、「思う」の回答割合が 30 ポイント以上上回っている。

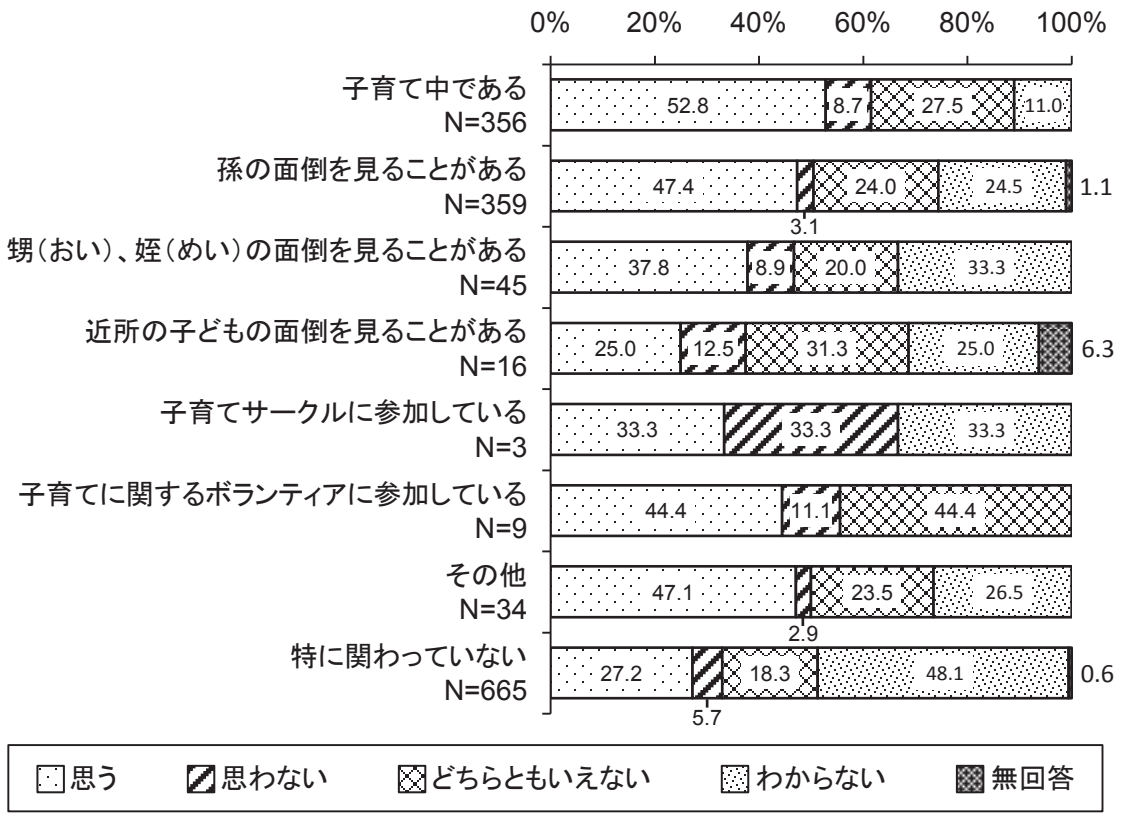
【性別】



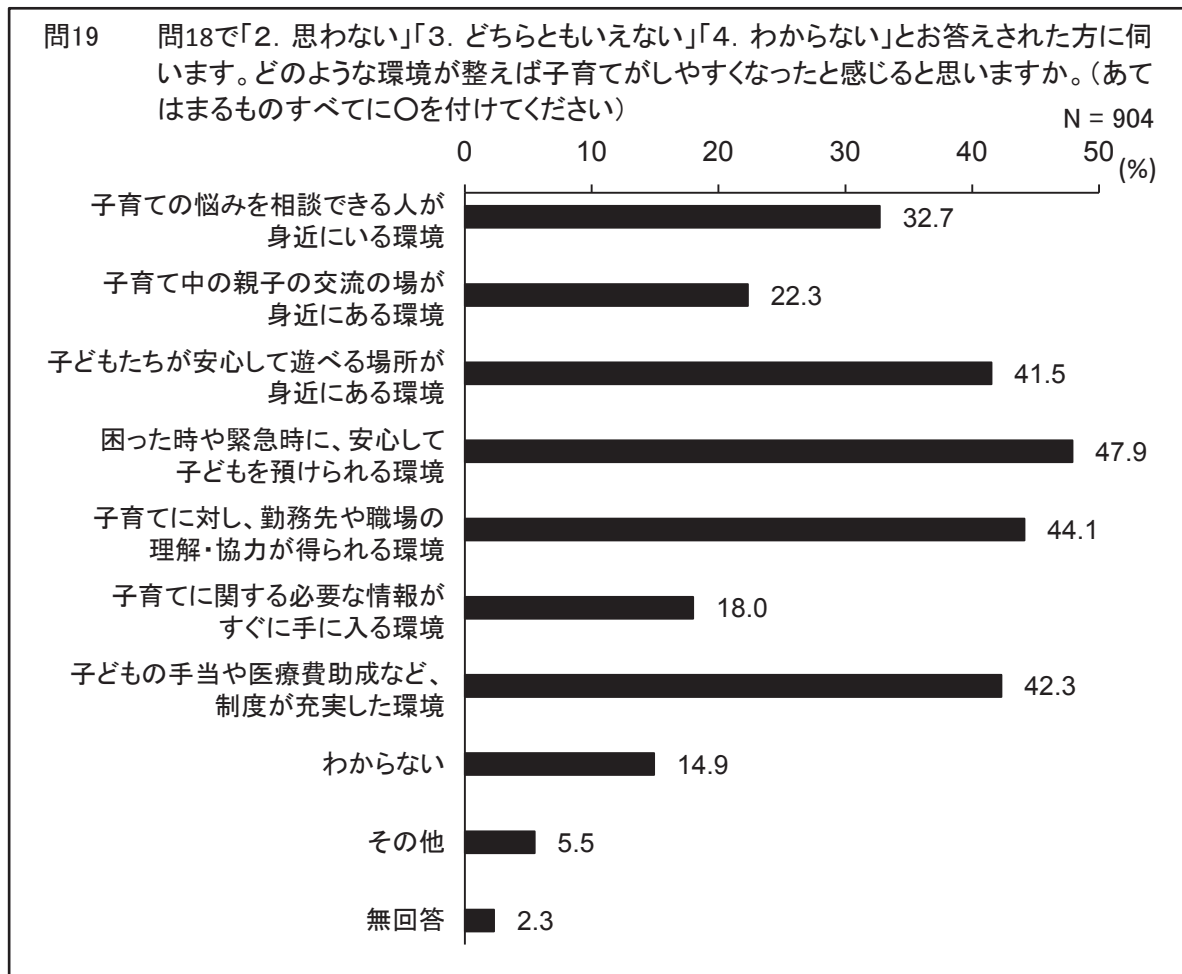
【年代別】



【子育ての関わり方別】



(3) どのような環境が整えば子育てがしやすくなったと感じるか？



「困った時や緊急時に、安心して子どもを預けられる環境」が47.9%、「子どもたちが安心して遊べる場所が身近にある環境」が41.5%と、いずれも4割を超えており、子どもが安心・安全に過ごせる環境への意識が高まっている。

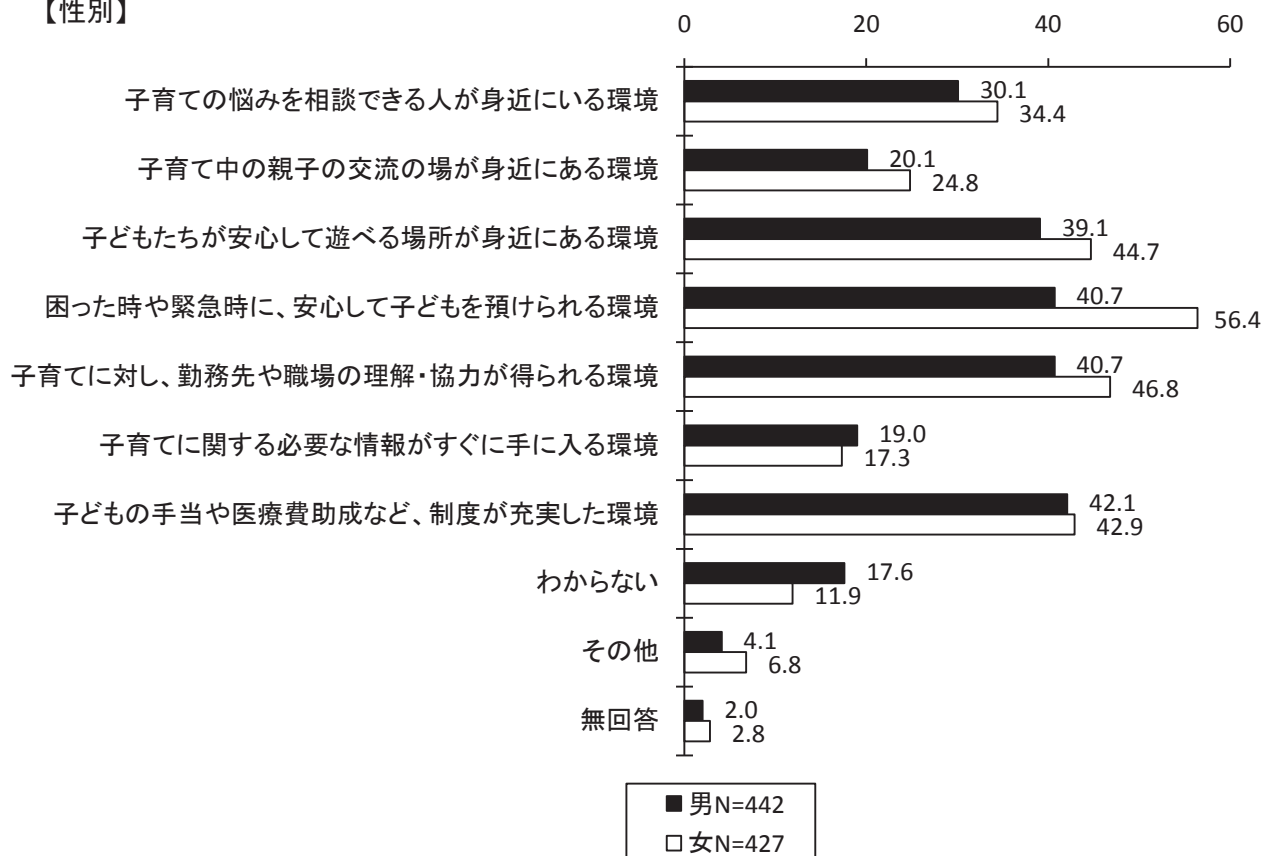
また、「子育てに対し、勤務先や職場の理解・協力が得られる環境」、「子どもの手当や医療費助成など、制度が充実した環境」も、回答割合が4割を超えて、子育てのしやすさが職場環境や経済的支援とも密接に関わっていることがうかがえる。

地域に根付いた子育て支援施策により地域でのつながりを一層強化するとともに、企業や事業主からの理解・協力が得られるよう、行政としての働きかけに、より力を入れる必要がある。

性別でみると、「子育てに関する必要な情報がすぐに手に入る環境」以外は、女性の回答割合が高くなっている。その中でも、「困った時や緊急時に、安心して子どもを預けられる環境」は男女の回答割合の差が15.7ポイントと大きく開いており、男女による認識の違いがみられた。

全体での回答割合が4割を超えた上位4項目を年代別にみると、「子どもたちが安心して遊べる場所が身近にある環境」は30歳代、「困った時や緊急時に、安心して子どもを預けられる環境」は30～40歳代と60歳代、「子育てに対し、勤務先や職場の理解・協力が得られる環境」は20歳代、「子どもの手当や医療費助成など、制度が充実した環境」は20～30歳代の回答割合が高かった。

【性別】



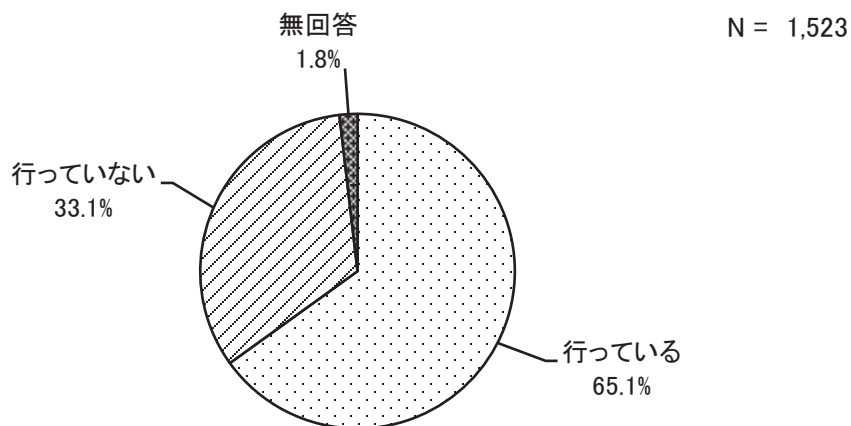
【年代別】

	子育ての悩みを相談できる人が身近にいる環境	子育て中の親子の交流の場が身近にある環境	子どもたちが安心して遊べる場所が身近にある環境	困った時や緊急時に、安心して子どもを預けられる環境	子育てに対し、勤務先や職場の理解・協力が得られる環境	子育てに関する必要な情報がすぐに手に入る環境	子どもの手当や医療費助成など、制度が充実した環境	わからない	その他	無回答
20歳代N=87	39.1	29.9	39.1	43.7	57.5	21.8	56.3	19.5	3.4	-
30歳代N=124	20.2	21.8	50.8	54.0	46.0	24.2	58.1	12.9	8.9	1.6
40歳代N=135	25.9	14.1	37.0	51.1	45.9	9.6	45.2	11.9	5.9	-
50歳代N=164	40.2	25.0	43.3	48.2	47.0	24.4	42.1	11.6	4.3	1.2
60歳代N=229	37.6	24.0	42.4	52.8	47.6	17.0	35.4	13.1	6.6	3.5
70歳以上N=159	30.8	20.8	37.7	36.5	27.0	13.2	30.2	22.6	3.1	5.0

7 「ひとりひとりにいい声掛けデー」について

(1) 日ごろから地域の子どもに対してあいさつや声掛けを行っていますか？

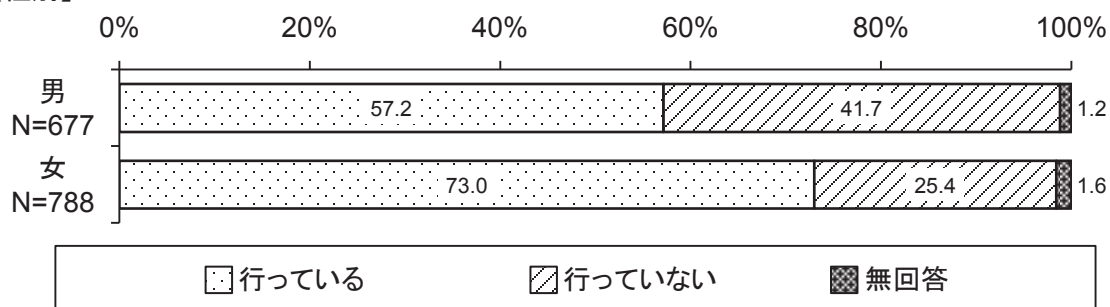
問20 市では、11月11日を全市統一の「ひとりひとりにいい声掛けデー」として、子ども(青少年)へのあいさつや声掛けを行っています。あなたは、日ごろから地域の子ども(青少年)に対してあいさつや声掛けを行っていますか。(1つだけ○を付けてください)



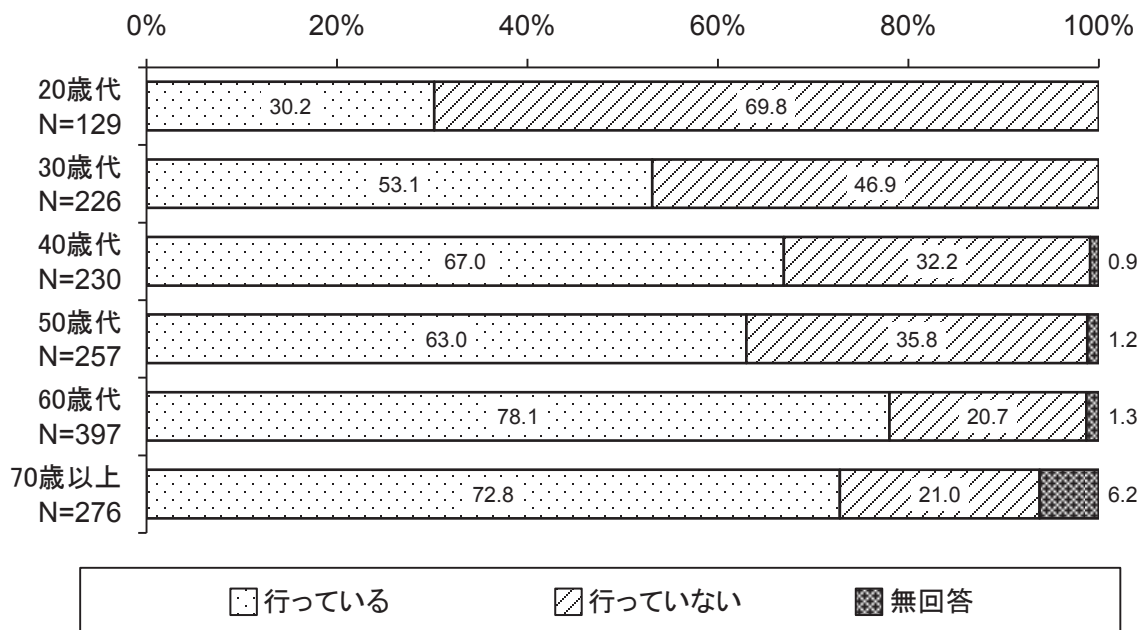
「行っている」が65.1%となり、「行っていない」の33.1%を32.0ポイント上回った。性別でみると、「行っている」の回答割合は、男性の57.2%に対し、女性が73.0%と、女性の方が15.8ポイント高くなっている。

年代別でみると、年齢が高まるに伴い「行っている」の回答割合も高くなる傾向がみられた。

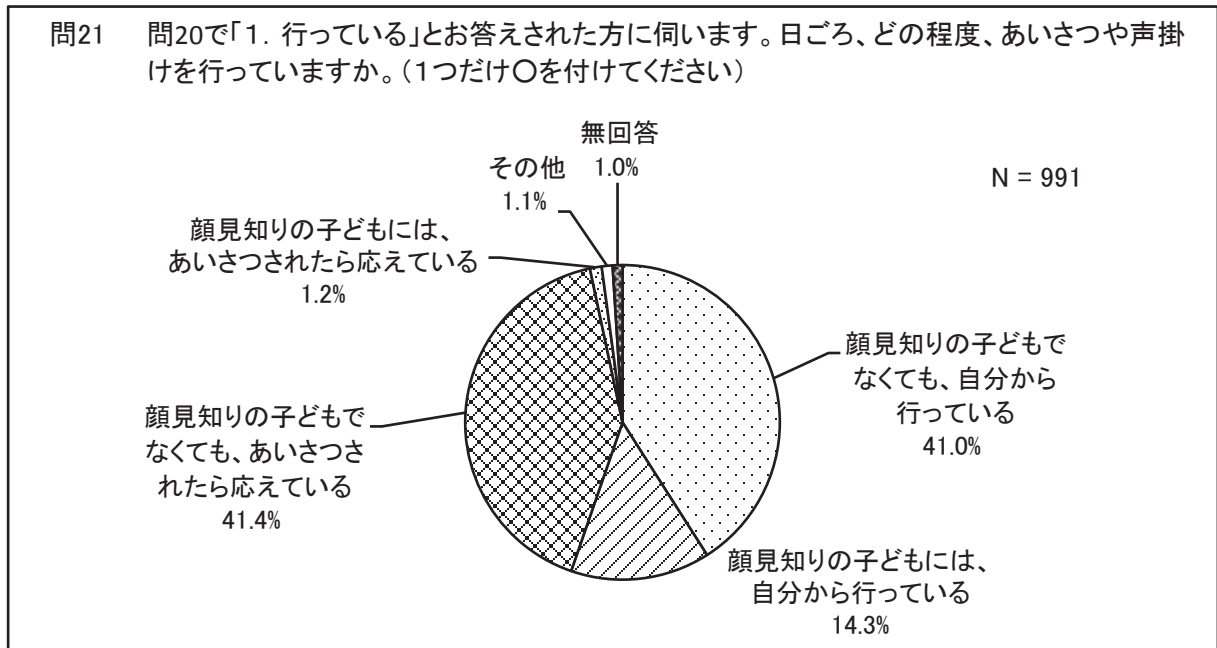
【性別】



【年代別】



(2) あいさつや声掛けについて

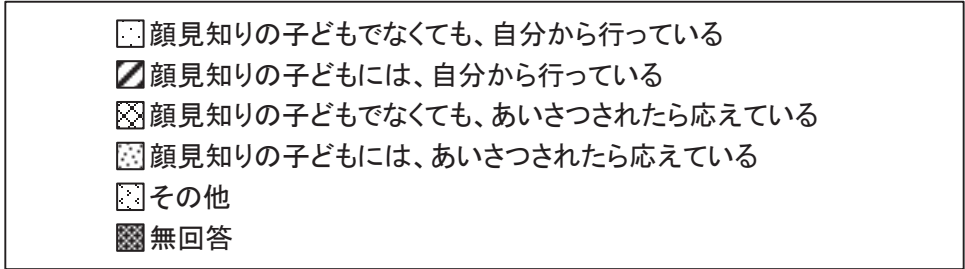
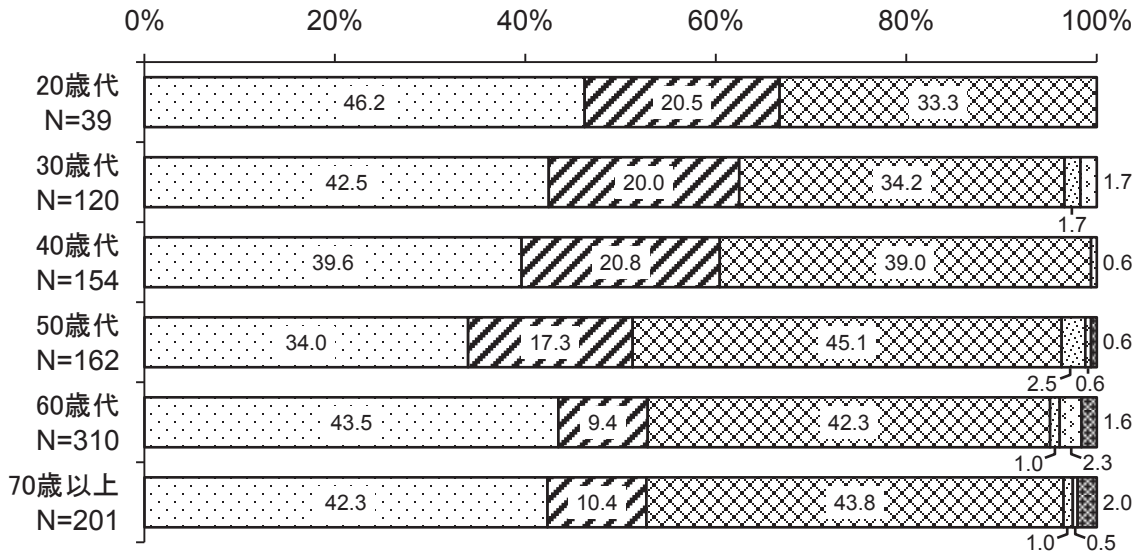


「顔見知りの子どもでもなくても、あいさつされたら応えている」が 41.4%で最も高く、次いで「顔見知りの子どもでもなくても、自分から行っている」の 41.0%となった。「顔見知りの子どもでもなくても、自分から行っている」と「顔見知りの子どもには、自分から行っている」をあわせ半数を超える人が、大人から子どもへのあいさつや声掛けを行っている。

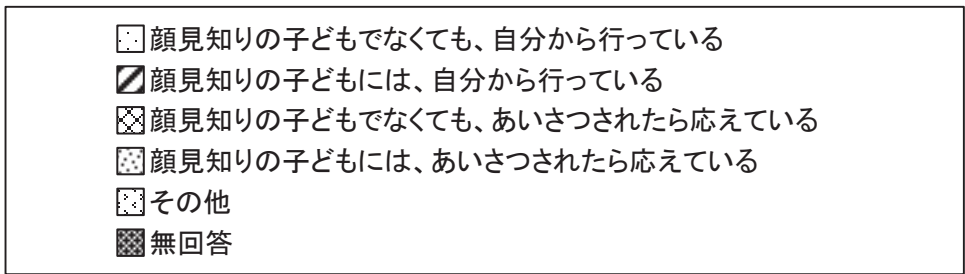
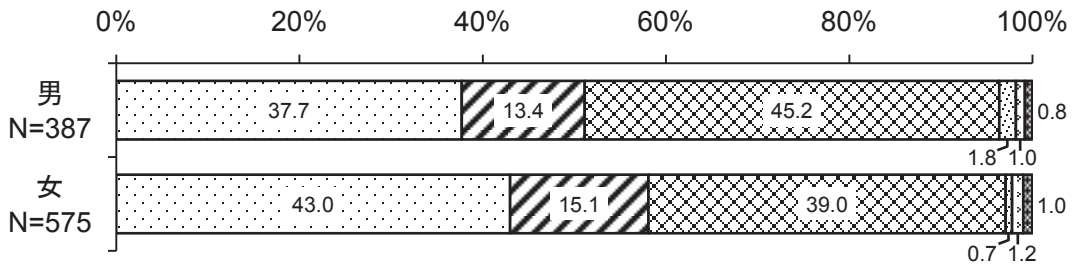
年代別では、20 歳代から 40 歳代までの比較的若い年代で、子どもへのあいさつや声掛けを自分から行っている割合が高い。問 20 の結果も併せると、若い年代全体では、あいさつや声掛けをしている人の割合は低い。若い年代全体では、あいさつや声掛けをしている人に限ってみれば、若い世代の方が積極的に行っているということが言える。

浜松市では、11 月 11 日を全市統一の「ひとりひとりにいい声掛けデー」と定めて、本年度で 6 年目となる。今後も引き続き、「ひとりひとりにいい声掛けデー」を実施し、この一日の取り組みをきっかけに、大人と子どもが気軽にあいさつを交わしたり、声を掛けあったりすることができるよう、さらに啓発していく必要がある。

【年代別】

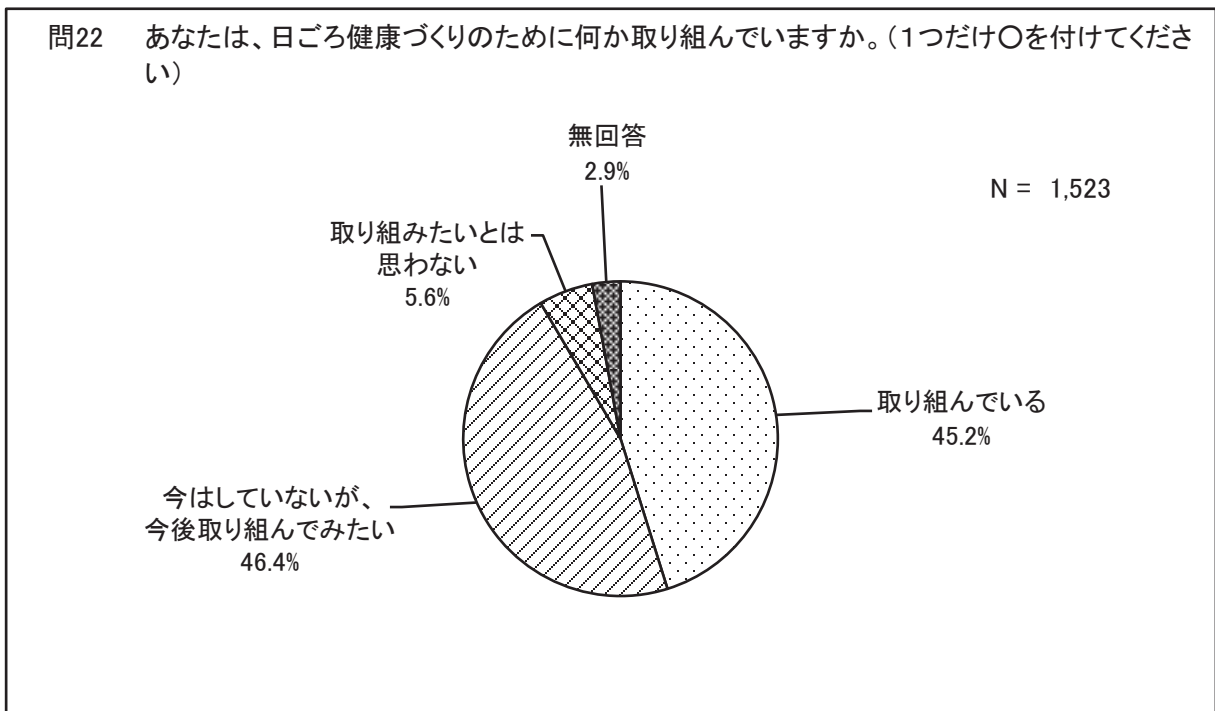


【性別】



8 健康のための環境整備について

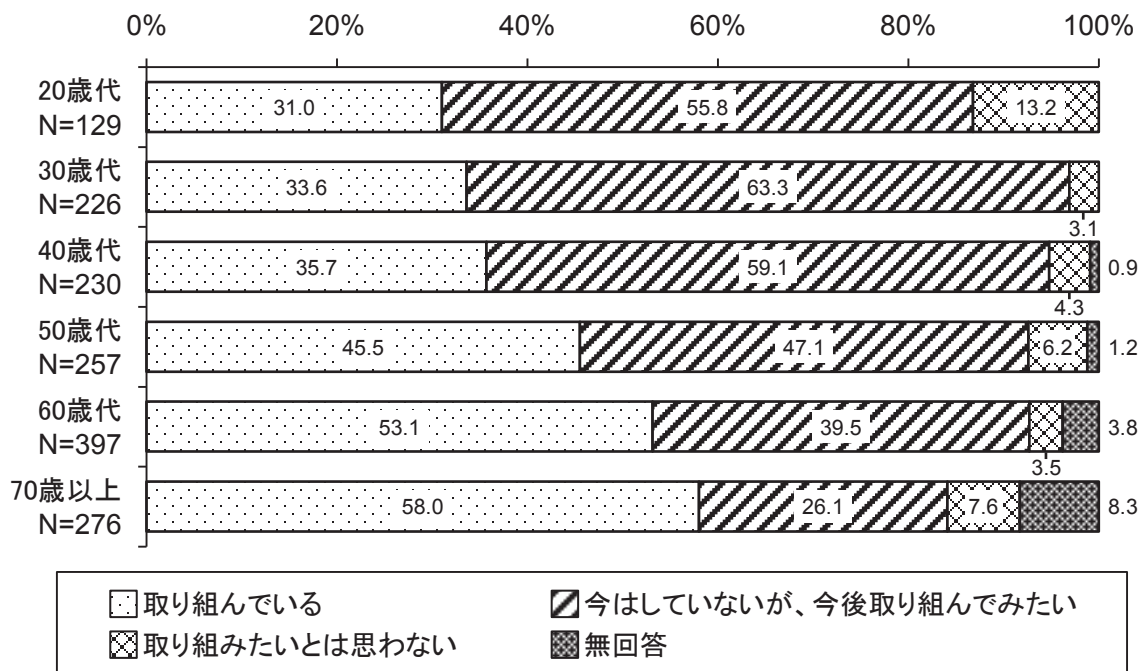
(1) 健康づくりのための取り組み状況



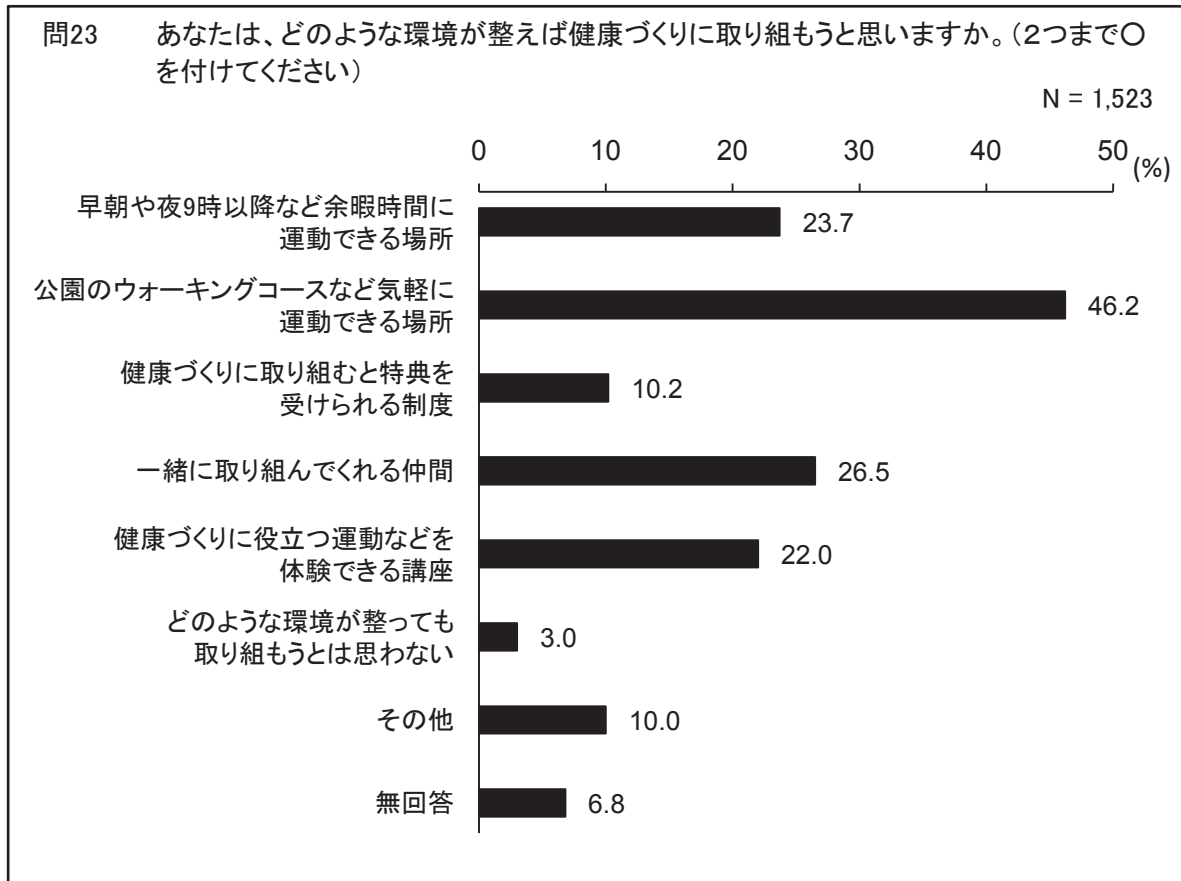
「取り組んでいる」が 45.2%、「今はしていないが、今後取り組んでみたい」が 46.4%と、回答がほぼ2分したが、わずかに「今はしていないが、今後取り組んでみたい」が上回った。前年度調査と質問項目が違うので単純比較はできないが、「取り組んでいる」の割合は前年度の 48.7% から 3.5 ポイント減少した。

年代別で見ると、年齢が高まるに伴い「取り組んでいる」の回答割合も高くなる傾向がみられ、60歳代以上からは「取り組んでいる」が「今はしていないが、今後取り組んでみたい」を上回っている。

【年代別】



(2) 健康づくりに取り組むための環境整備

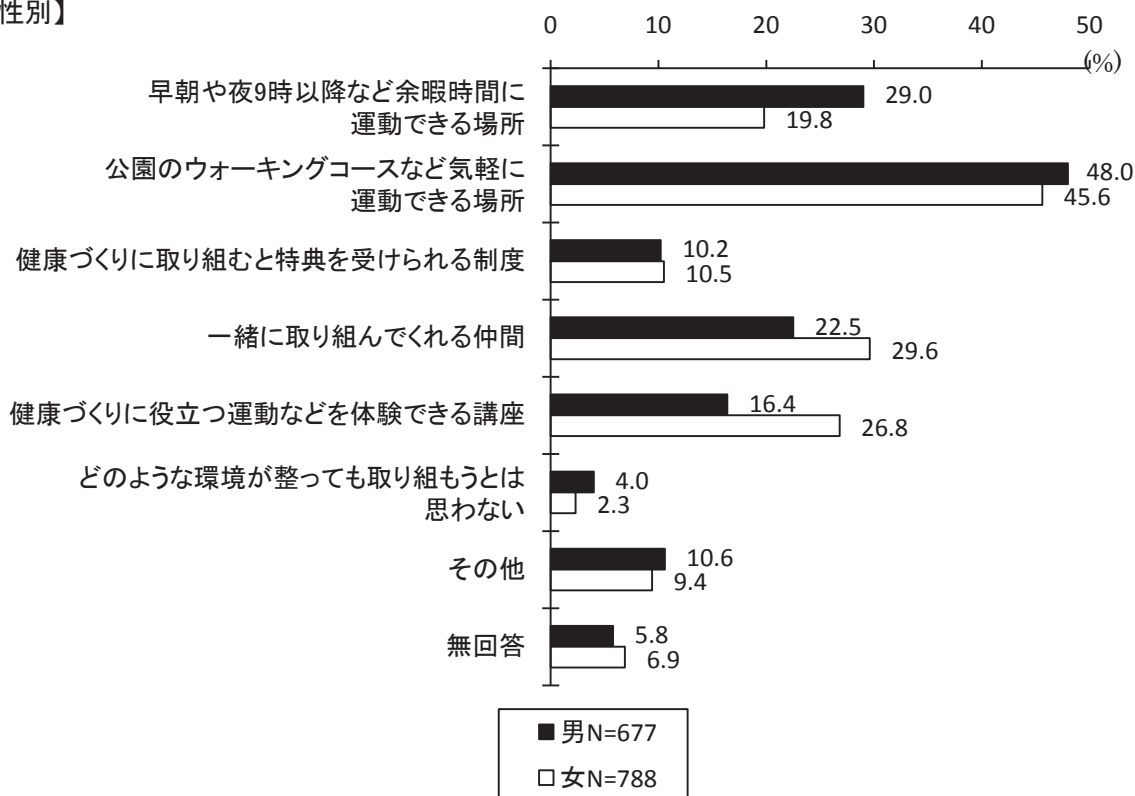


「公園のウォーキングコースなど気軽に運動できる場所」が 46.2%で最も多く、次いで「一緒に取り組んでくれる仲間」(26.5%)、「早朝や夜9時以降など余暇時間に運動できる場所」(23.7%)の順となった。

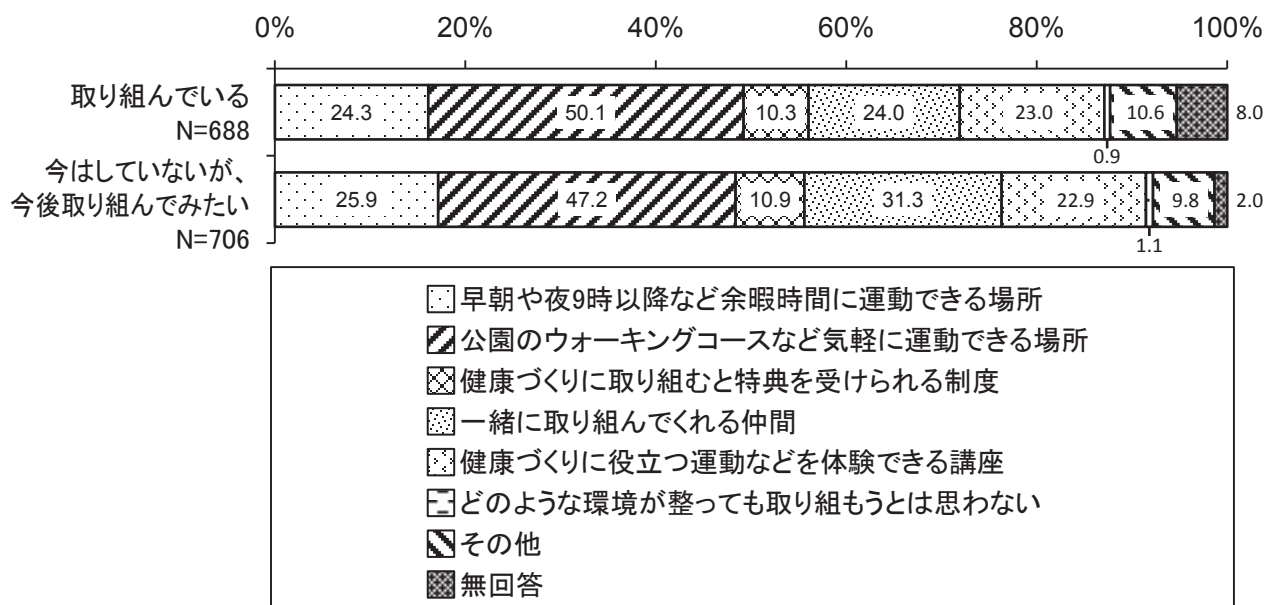
性別でみると、男性は「早朝や夜9時以降など余暇時間に運動できる場所」、女性は「一緒に取り組んでくれる仲間」と「健康づくりに役立つ運動などを体験できる講座」の割合が相対的に高かった。全体で最も多かった「公園のウォーキングコースなど気軽に運動できる場所」は、男女差があまりみられなかった。

問22の「取り組んでいる」と「今はしていないが、今後取り組んでみたい」を比較すると、「今はしていないが、今後取り組んでみたい」と回答した層は、「一緒に取り組んでくれる仲間」の回答割合が、「取り組んでいる」層と比較して7.3ポイント高かった。他の項目は2つの層の間にほとんど差がないことから、健康づくりに取り組む市民を増やすためには、仲間づくりの支援を行うことが有効と思われる。

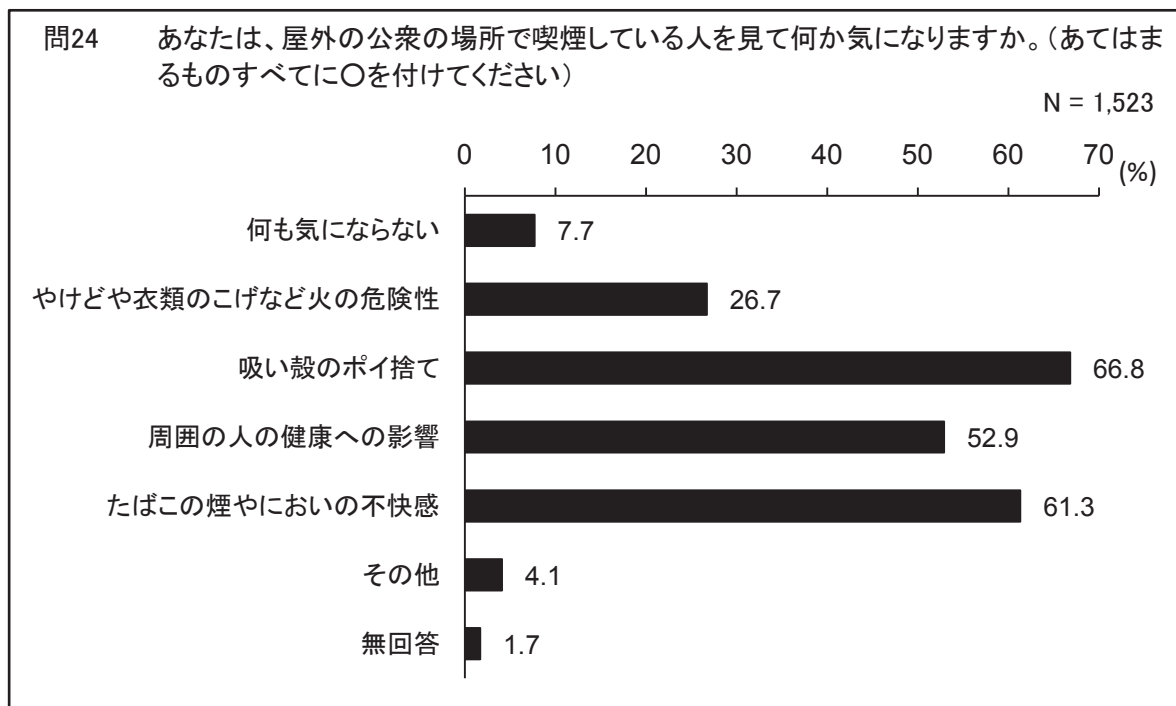
【性別】



【健康づくりの為の取り組み状況別】



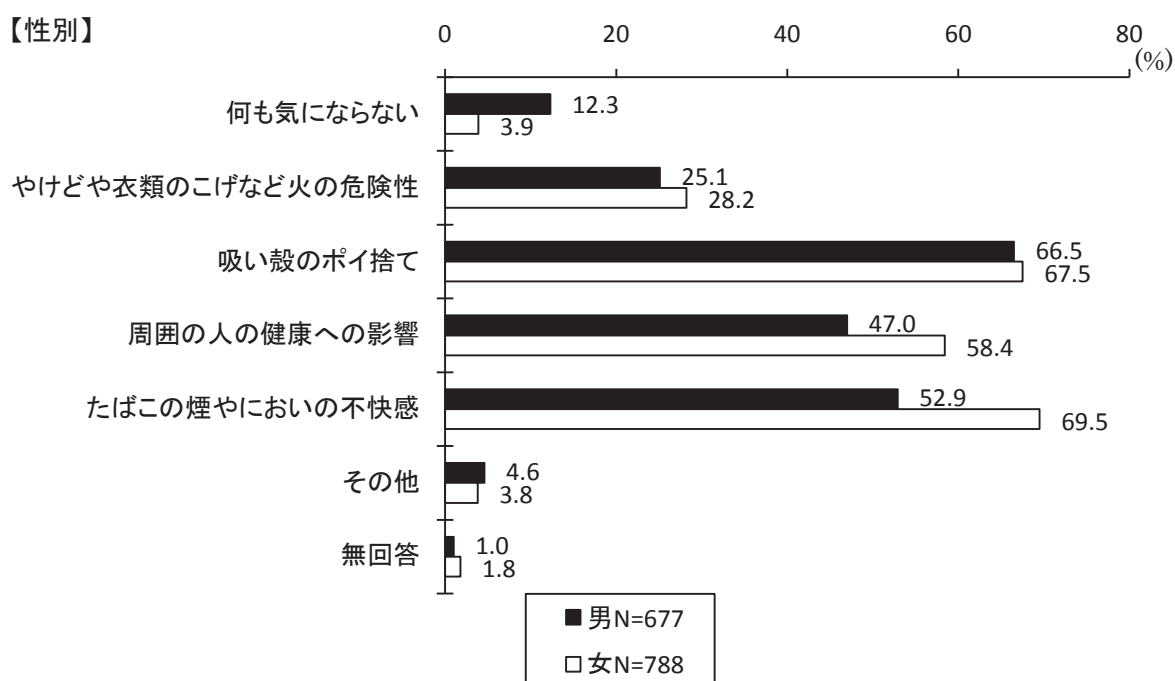
(3) 屋外の公衆の場所での喫煙について



喫煙している人を見て気になることは、「吸い殻のポイ捨て」が66.8%で最も多かった。現在、市民マナー条例で吸い殻のポイ捨て行為は禁止している。「たばこの煙やにおいの不快感」(61.3%)、「周囲の人の健康への影響」(52.9%)も回答割合が5割を超えており、これらに対する対応も必要といえる。

「何も気にならない」は7.7%にとどまり、大半の市民が屋外の公衆の場所での喫煙行為を気にしている。

性別でみると、「周囲の人の健康への影響」と「たばこの煙やにおいの不快感」は女性の回答割合が相対的に多かった。「何も気にならない」は男性の方が多い。

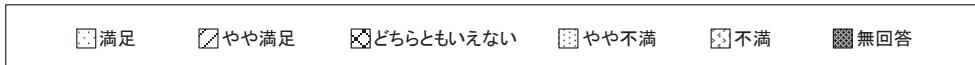
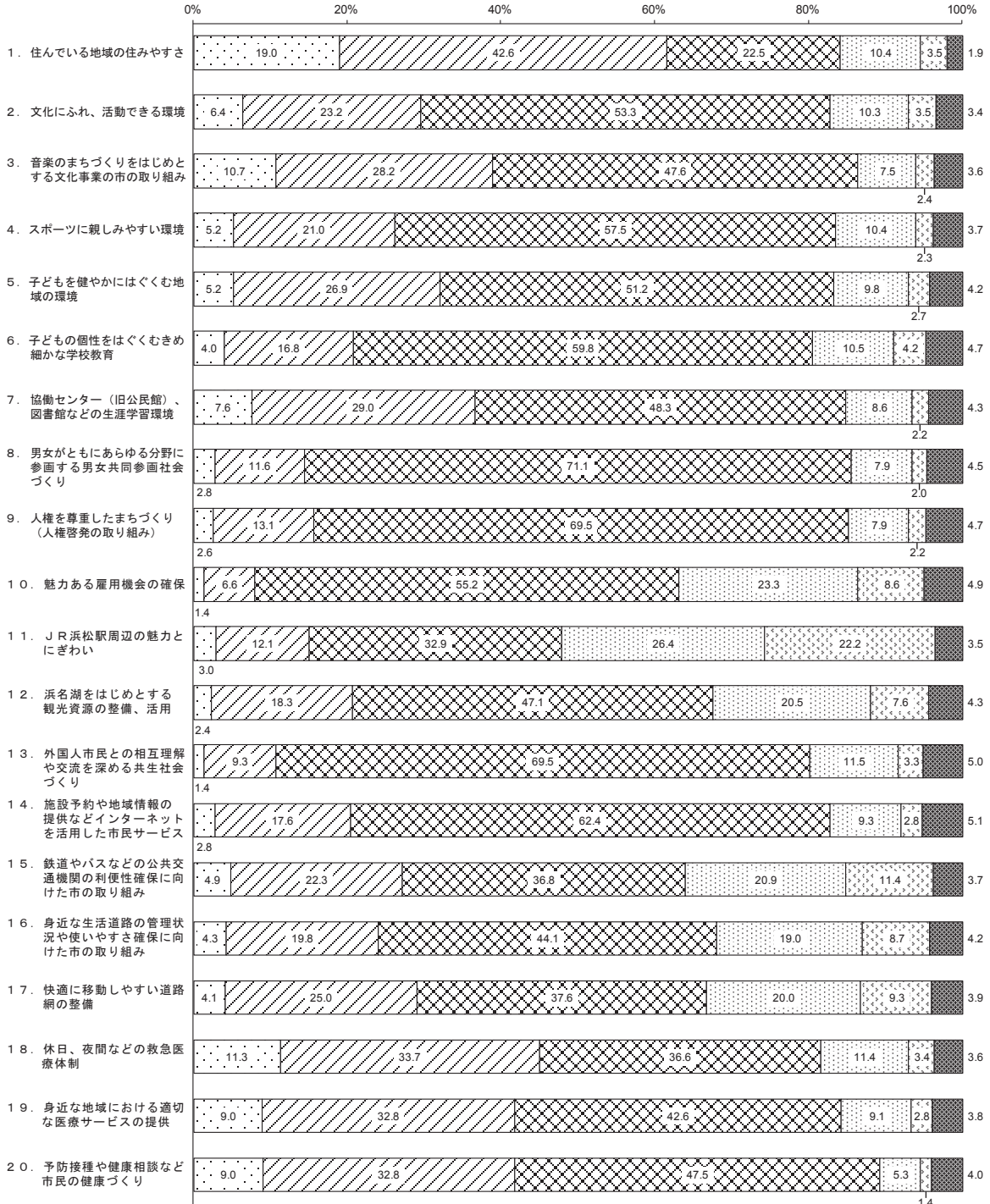


9 市の取り組みの満足度評価について

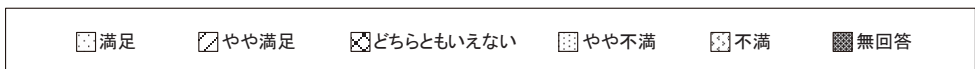
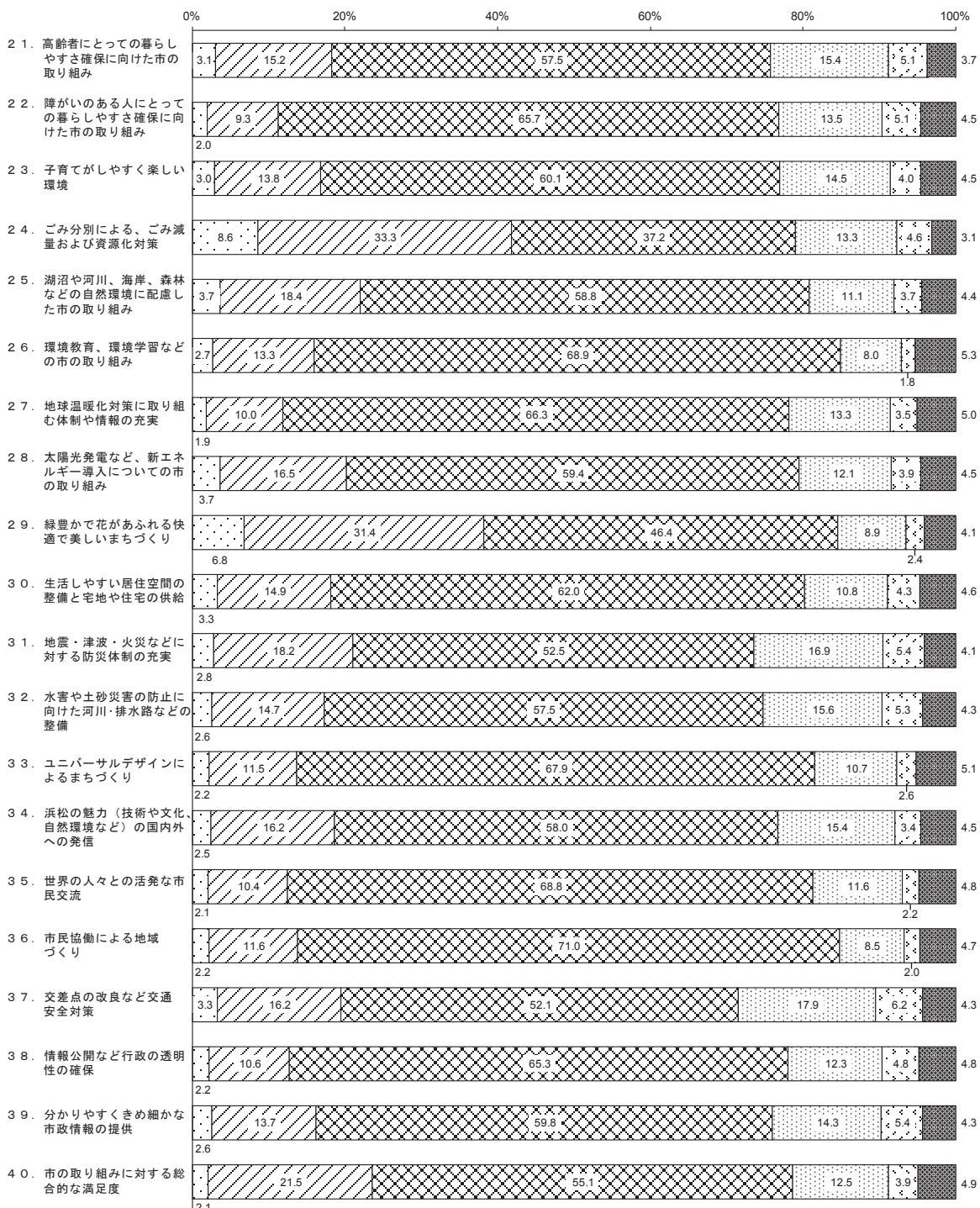
市政の満足度

問25 あなたは、浜松市がこれまで進めてきた取り組みについて日ごろのように感じていますか。以下の各項目についてその評価を1～5のうちからそれぞれ1つだけ選び○を付けてください。

N = 1,523



N = 1,523



「満足」と「やや満足」を合わせた『満足している』が3割以上だったものは、以下の9項目である。*（ ）は前年調査。

1	住んでいる地域の住みやすさ	61.6%	(61.0%)
18	休日、夜間などの救急医療体制	45.0%	(43.3%)
24	ごみ分別による、ごみ減量および資源化対策	41.9%	(40.9%)
19	身近な地域における適切な医療サービスの提供	41.8%	(42.4%)
20	予防接種や健康相談など市民の健康づくり	41.8%	(44.6%)
3	音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の市の取り組み	38.9%	(35.5%)
29	緑豊かで花があふれる快適で美しいまちづくり	38.2%	(39.7%)
7	協働センター（旧公民館）、図書館などの生涯学習環境	36.6%	(44.4%)
5	子どもを健やかにはぐくむ地域の環境	32.1%	(36.7%)

『満足度』の上位1位から5位までは、40%を超えている。前年度調査と比較して、40項目中16項目については『満足度』の数値が増加している。「28 太陽光発電など、新エネルギー導入についての取り組み」については、前年度調査の14.0%から20.2%と6.2ポイント増加し、『満足度』が最も増えた項目である。

また一方で、40項目中24項目において『満足度』の数値が減少している。「16 身近な生活道路の管理状況や使いやすさ」については前年度調査の36.2%から24.1%と12.1ポイント減少し、『満足度』が最も減少した項目である。

一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満である』が3割以上だったのは、以下の3項目である。前年調査の8項目から5項目減少した。*（ ）は前年調査

11	J R 浜松駅周辺の魅力とにぎわい	48.6%	(52.8%)
15	鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性確保に向けた市の取り組み	32.3%	(38.5%)
10	魅力ある雇用機会の確保	31.9%	(38.6%)

前年度調査同様「11 J R 浜松駅周辺の魅力とにぎわい」に対する不満足度が最も高かった。前年度調査と比較して、40項目中4項目については『不満足度』の数値が増加しており、中でも「24 ごみ分別による、ごみ減量および資源化対策」については、前年度調査の15.9%から17.9%と2.0ポイント増加し、『不満足度』が最も増えた項目である。

また一方で、40項目中36項目において『不満足度』の数値が減少している。「31 地震・津波・火災などに対する防災体制の充実」については前年度調査の33.9%から22.3%と11.6ポイント減少し、『不満足度』が最も減少した項目である。

また、次表は「満足」を10点、「やや満足」を7.5点、「どちらともいえない」を5点、「やや不満」を2.5点、「不満」を0点と点数を付けて集計したものである。この数値は、10点に近いほど満足度が高くなる指数である。

性別でみると、男女とも「1 住んでいる地域の住みやすさ」の満足度が最も高く、次いで「20 予防接種や健康相談など市民の健康づくり」の順となった。一方、満足度が最も低いのは男女とも「11 JR浜松駅周辺の魅力とにぎわい」となり、次いで「10 魅力ある雇用機会の確保」の満足度が低かった。40項目中39項目で女性の方が満足度が高かった（残り1項目は同点）。

年代別でみると、いずれの年代でも「1 住んでいる地域の住みやすさ」、「20 予防接種や健康相談など市民の健康づくり」の満足度が高かった。すべての年代で「11 JR浜松駅周辺の魅力とにぎわい」の満足度が最も低かった（70歳以上は、「10 魅力ある雇用機会の確保」も同率で最下位）。

行政区別では、昨年度調査と比較すると40項目中29項目で天竜区の満足度が上昇している。

【性別】【年代別】

◎=6点以上 △=4点以下

	全体	男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1 住んでいる地域の住みやすさ	◎ 6.6	◎ 6.4	◎ 6.7	◎ 6.5	◎ 6.3	◎ 6.7	◎ 6.5	◎ 6.6	◎ 7.1
2 文化にふれ、活動できる環境	5.5	5.3	5.7	5.5	5.5	5.9	5.2	5.3	5.6
3 音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の市の取り組み	◎ 6.0	5.7	◎ 6.2	5.9	5.8	◎ 6.3	5.8	5.9	◎ 6.2
4 スポーツに親しみやすい環境	5.4	5.3	5.5	5.0	5.2	5.5	5.5	5.4	5.7
5 子どもを健やかにはぐむ地域の環境	5.6	5.4	5.7	5.2	5.5	5.8	5.4	5.6	5.7
6 子どもの個性をはぐむきめ細かな学校教育	5.2	5.0	5.3	4.9	5.1	5.3	4.9	5.0	5.7
7 協働センター(旧公民館)、図書館などの生涯学習環境	5.8	5.6	◎ 6.0	5.7	5.9	◎ 6.0	5.5	5.7	◎ 6.1
8 男女がともにあらゆる分野に参画する男女共同参画社会づくり	5.1	5.1	5.2	5.0	5.0	5.3	5.1	5.1	5.4
9 人権を尊重したまちづくり(人権啓発の取り組み)	5.2	5.2	5.2	5.1	5.1	5.2	5.0	5.1	5.5
10 魅力ある雇用機会の確保	4.2	4.1	4.3	4.0	4.2	4.2	△ 3.9	4.1	4.7
11 JR浜松駅周辺の魅力とにぎわい	△ 3.6	△ 3.4	△ 3.9	△ 3.4	△ 3.0	△ 3.2	△ 3.3	△ 3.8	4.7
12 浜名湖をはじめとする観光資源の整備、活用	4.7	4.3	4.9	4.6	4.5	4.8	4.4	4.7	5.1
13 外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくり	4.8	4.7	5.0	5.0	4.8	4.9	4.6	4.8	5.0
14 施設予約や地域情報の提供などインターネットを活用した市民サービス	5.2	5.1	5.3	5.2	5.2	5.3	5.2	5.2	5.3
15 鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性確保に向けた市の取り組み	4.7	4.6	4.8	4.7	4.6	4.6	4.2	4.7	5.3
16 身近な生活道路の管理状況や使いやすさ確保に向けた市の取り組み	4.8	4.6	5.0	4.9	4.8	4.8	4.5	4.6	5.2
17 快適に移動しやすい道路網の整備	4.9	4.6	5.1	5.0	4.9	4.6	4.5	4.8	5.4
18 休日、夜間などの救急医療体制	◎ 6.0	5.8	◎ 6.1	5.6	5.7	5.9	5.9	5.9	◎ 6.7
19 身近な地域における適切な医療サービスの提供	5.9	5.8	◎ 6.1	5.6	5.9	◎ 6.0	5.8	5.7	6.5
20 予防接種や健康相談など市民の健康づくり	◎ 6.1	5.9	◎ 6.3	◎ 6.0	◎ 6.3	◎ 6.0	5.9	5.9	◎ 6.6
21 高齢者にとっての暮らしやすさ確保に向けた市の取り組み	4.9	4.8	5.0	5.0	4.9	4.7	4.7	4.6	5.6
22 障がいのある人にとっての暮らしやすさ確保に向けた市の取り組み	4.7	4.7	4.8	4.7	4.8	4.6	4.4	4.6	5.2
23 子育てがしやすく楽しい環境	4.9	4.8	5.0	4.8	4.9	5.0	4.7	4.8	5.4
24 ごみ分別による、ごみ減量および資源化対策	5.7	5.6	5.9	5.4	5.5	5.6	5.6	5.8	◎ 6.3
25 湖沼や河川、海岸、森林などの自然環境に配慮した市の取り組み	5.2	5.0	5.4	5.4	5.3	5.4	4.9	5.0	5.4
26 環境教育、環境学習などの市の取り組み	5.2	5.1	5.3	5.2	5.2	5.4	5.0	5.0	5.5
27 地球温暖化対策に取り組む体制や情報の充実	4.8	4.7	5.0	4.8	4.8	4.9	4.7	4.6	5.2
28 太陽光発電など、新エネルギー導入についての市の取り組み	5.1	4.9	5.3	5.0	5.2	5.2	4.9	5.0	5.3
29 緑豊かで花があふれる快適で美しいまちづくり	5.8	5.6	◎ 6.0	5.9	5.9	◎ 6.2	5.5	5.6	◎ 6.0
30 生活しやすい居住空間の整備と宅地や住宅の供給	5.1	5.0	5.2	5.2	5.2	5.2	4.8	4.8	5.3
31 地震・津波・火災などに対する防災体制の充実	4.9	4.8	5.0	4.8	4.9	5.0	5.0	4.7	5.1
32 水害や土砂災害の防止に向けた河川・排水路などの整備	4.8	4.7	5.0	4.7	4.8	5.0	5.0	4.6	5.0
33 ユニバーサルデザインによるまちづくり	5.0	4.8	5.1	5.1	4.9	5.1	4.8	5.0	5.1
34 浜松の魅力(技術や文化、自然環境など)の国内外への発信	5.0	4.8	5.1	4.8	4.9	5.1	4.7	5.0	5.3
35 世界の人々との活発な市民交流	5.0	4.8	5.1	4.8	5.0	5.1	4.9	4.8	5.2
36 市民協働による地域づくり	5.1	4.9	5.3	4.9	5.0	5.2	5.1	5.0	5.4
37 交差点の改良など交通安全対策	4.8	4.6	5.0	4.8	4.6	4.9	4.6	4.8	5.2
38 情報公開など行政の透明性の確保	4.8	4.6	5.0	4.5	4.7	4.8	4.8	4.7	5.3
39 分かりやすくきめ細かな市政情報の提供	4.8	4.7	5.0	4.4	4.7	4.8	4.7	4.8	5.4
40 市の取り組みに対する総合的な満足度	5.1	5.0	5.3	4.9	4.8	5.3	5.2	5.0	5.5

【行政区別】

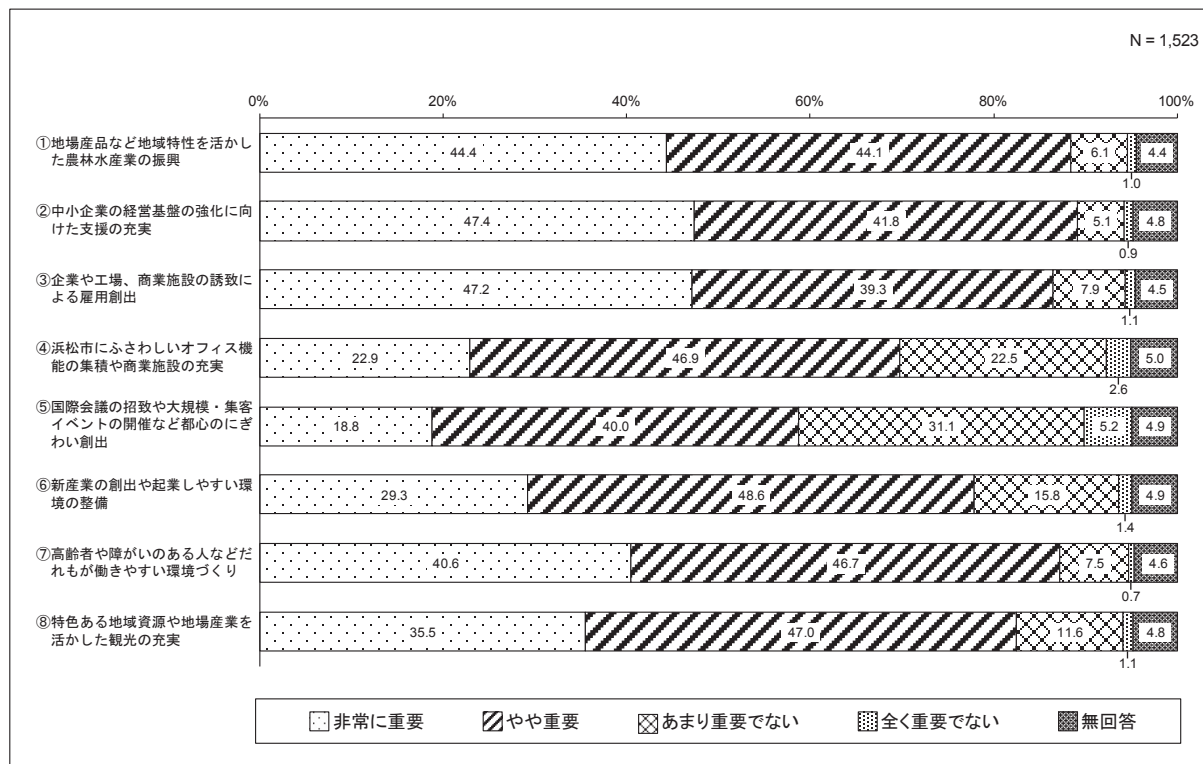
◎=6点以上 △=4点以下

		中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
1	住んでいる地域の住みやすさ	◎ 7.0	◎ 6.7	◎ 6.7	◎ 6.6	◎ 6.5	◎ 6.8	5.7
2	文化にふれ、活動できる環境	5.8	5.4	5.6	5.6	5.4	5.5	4.9
3	音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の市の取り組み	◎ 6.3	5.9	◎ 6.2	◎ 6.1	5.8	5.9	5.4
4	スポーツに親しみやすい環境	5.4	5.3	5.7	5.4	5.5	5.6	5.1
5	子どもを健やかにはぐくむ地域の環境	5.5	5.5	5.9	5.7	5.6	5.7	5.3
6	子どもの個性をはぐくむきめ細かな学校教育	5.1	5.1	5.4	5.1	5.2	5.2	5.1
7	協働センター(旧公民館)、図書館などの生涯学習環境	5.8	5.8	◎ 6.1	◎ 6.0	5.5	5.8	5.5
8	男女がともにあらゆる分野に参画する男女共同参画社会づくり	5.1	5.1	5.2	5.1	5.1	5.2	5.0
9	人権を尊重したまちづくり(人権啓発の取り組み)	5.1	5.1	5.3	5.2	5.2	5.2	5.0
10	魅力ある雇用機会の確保	4.2	4.4	4.1	4.2	△ 4.0	4.5	△ 3.8
11	JR浜松駅周辺の魅力とにぎわい	△ 3.4	△ 3.7	△ 3.3	△ 3.4	△ 3.7	△ 3.8	4.3
12	浜名湖をはじめとする観光資源の整備、活用	4.6	4.9	4.5	4.8	4.5	4.6	4.8
13	外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくり	4.9	4.9	4.8	4.8	4.7	4.8	4.9
14	施設予約や地域情報の提供などインターネットを活用した市民サービス	5.3	5.2	5.2	5.4	5.2	5.3	5.0
15	鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性確保に向けた市の取り組み	5.1	4.9	4.7	5.0	4.3	4.8	△ 3.9
16	身近な生活道路の管理状況や使いやすさ確保に向けた市の取り組み	5.0	4.9	5.1	4.9	4.5	4.7	4.3
17	快適に移動しやすい道路網の整備	4.9	5.0	5.1	5.3	4.5	4.8	4.4
18	休日、夜間などの救急医療体制	◎ 6.3	◎ 6.2	◎ 6.3	◎ 6.2	5.6	5.7	5.2
19	身近な地域における適切な医療サービスの提供	◎ 6.2	◎ 6.1	◎ 6.0	◎ 6.2	5.5	◎ 6.0	5.3
20	予防接種や健康相談など市民の健康づくり	◎ 6.2	◎ 6.2	◎ 6.3	◎ 6.1	5.9	◎ 6.4	5.8
21	高齢者にとっての暮らしやすさ確保に向けた市の取り組み	4.8	5.1	5.0	4.9	4.9	4.9	4.5
22	障がいのある人にとっての暮らしやすさ確保に向けた市の取り組み	4.7	4.8	4.9	4.7	4.6	4.7	4.7
23	子育てがしやすい楽しい環境	5.0	5.0	5.3	4.9	4.7	4.9	4.6
24	ごみ分別による、ごみ減量および資源化対策	5.7	◎ 6.0	5.7	◎ 6.0	5.8	5.4	5.4
25	湖沼や河川、海岸、森林などの自然環境に配慮した市の取り組み	5.2	5.3	5.4	5.3	5.2	5.1	4.9
26	環境教育、環境学習などの市の取り組み	5.2	5.2	5.3	5.2	5.2	5.1	5.1
27	地球温暖化対策に取り組む体制や情報の充実	4.9	4.9	5.0	4.9	4.8	4.5	4.7
28	太陽光発電など、新エネルギー導入についての市の取り組み	5.1	5.2	5.3	5.2	5.1	5.0	4.8
29	緑豊かで花があふれる快適で美しいまちづくり	5.7	◎ 6.0	◎ 6.0	5.9	5.9	5.8	5.5
30	生活しやすい居住空間の整備と宅地や住宅の供給	5.1	5.1	5.1	5.1	5.0	5.2	4.7
31	地震・津波・火災などに対する防災体制の充実	5.0	5.0	4.9	4.7	4.8	5.1	4.7
32	水害や土砂災害の防止に向けた河川・排水路などの整備	4.9	5.2	5.0	4.7	4.6	4.9	4.4
33	ユニバーサルデザインによるまちづくり	4.9	5.1	5.1	5.1	4.9	5.0	5.0
34	浜松の魅力(技術や文化、自然環境など)の国内外への発信	4.9	5.1	5.1	5.1	4.9	4.8	4.9
35	世界の人々との活発な市民交流	4.9	5.0	5.1	4.9	4.9	4.9	5.0
36	市民協働による地域づくり	5.0	5.1	5.3	5.2	5.0	5.1	4.9
37	交差点の改良など交通安全対策	4.6	4.6	4.9	5.1	4.5	4.9	5.0
38	情報公開など行政の透明性の確保	4.9	4.8	5.0	4.8	4.7	4.8	4.7
39	分かりやすくきめ細かな市政情報の提供	5.0	5.0	4.8	4.8	4.6	4.9	4.7
40	市の取り組みに対する総合的な満足度	5.2	5.3	5.3	5.3	5.0	5.3	4.6

10 市政への要望について

問 26 あなたは、浜松市が積極的・重点的に取り組んでいくべき具体的な施策として、以下の各項目についてどの程度重要だと思いますか。各項目について重要度を1～4のうちからそれぞれ1つだけ選んで○を付けてください。

(1) 産業・経済分野に対する取り組み



「非常に重要」と「やや重要」を合わせた『重要』の回答が8割以上だったのは、以下の5項目となっている。

② 中小企業の経営基盤の強化に向けた支援の充実	89.2%
① 地場産品など地域特性を活かした農林水産業の振興	88.5%
⑦ 高齢者や障がいのある人などだれもが働きやすい環境づくり	87.3%
③ 企業や工場、商業施設の誘致による雇用創出	86.5%
⑧ 特色ある地域資源や地場産業を活かした観光の充実	82.5%

また、下表は「非常に重要」を10点、「やや重要」を6.6点、「あまり重要でない」を3.3点、「全く重要でない」を0点と点数を付けて集計したものである。この数値は10点に近いほど重要度が高くなる指数である。

【性別】【年代別】

◎＝8点以上

		全体	男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
①	地場産品など地域特性を活かした農林水産業の振興	7.9	7.8	◎ 8.0	7.6	7.5	7.8	7.7	◎ 8.2	◎ 8.3
②	中小企業の経営基盤の強化に向けた支援の充実	◎ 8.1	◎ 8.1	◎ 8.0	◎ 8.2	7.8	◎ 8.0	◎ 8.1	◎ 8.1	◎ 8.2
③	企業や工場、商業施設の誘致による雇用創出	7.9	◎ 8.1	7.8	7.7	7.6	7.9	◎ 8.0	◎ 8.0	◎ 8.2
④	浜松市にふさわしいオフィス機能の集積や商業施設の充実	6.5	6.3	6.6	6.5	5.8	6.5	6.1	6.6	7.1
⑤	国際会議の招致や大規模・集客イベントの開催など都心のにぎわい創出	5.8	5.8	5.9	6.2	5.3	5.6	5.4	6.0	6.5
⑥	新産業の創出や起業しやすい環境の整備	7.0	7.2	6.8	7.0	6.2	6.7	6.7	7.5	7.7
⑦	高齢者や障がいのある人などだれもが働きやすい環境づくり	7.7	7.5	7.9	7.9	7.4	7.8	7.7	7.9	7.8
⑧	特色ある地域資源や地場産業を活かした観光の充実	7.4	7.2	7.6	7.1	7.2	7.3	7.3	7.5	7.7

【行政区別】

◎＝8点以上

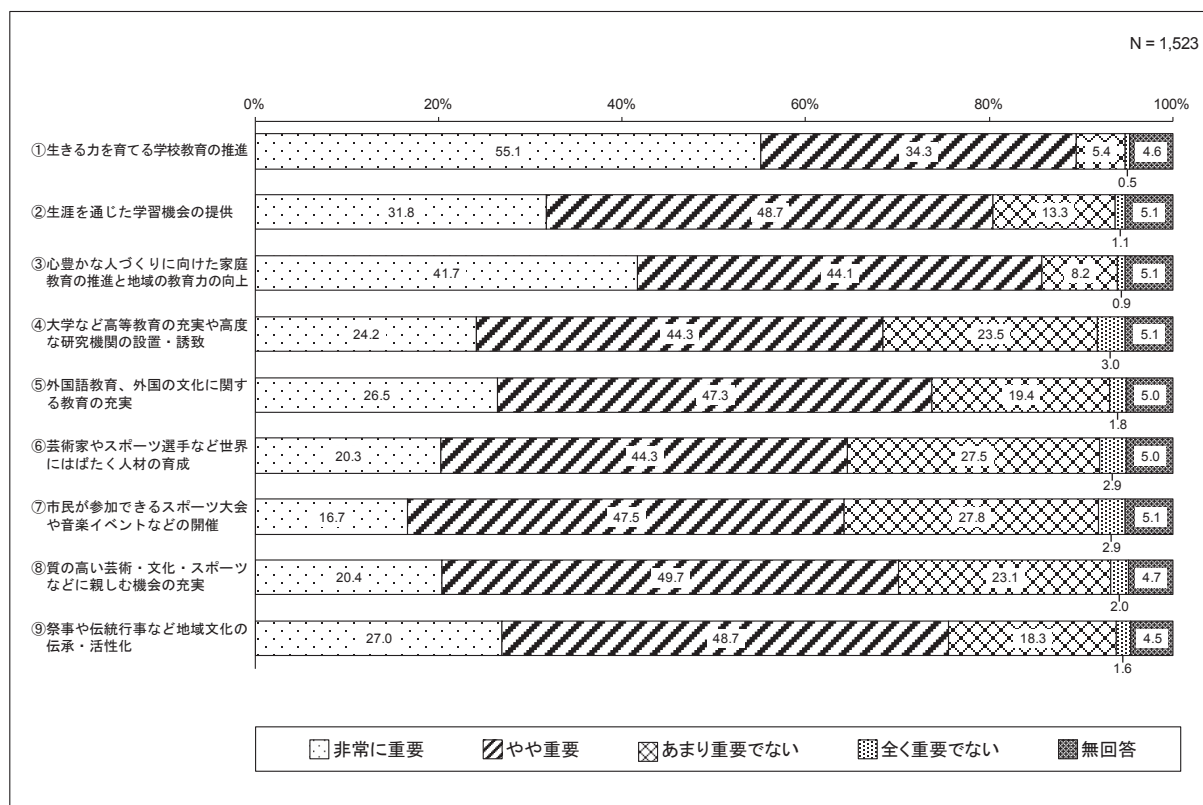
		中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
①	地場産品など地域特性を活かした農林水産業の振興	◎ 8.0	7.8	7.9	7.7	7.8	7.8	◎ 8.3
②	中小企業の経営基盤の強化に向けた支援の充実	◎ 8.1	◎ 8.0	7.9	◎ 8.1	7.9	◎ 8.4	◎ 8.1
③	企業や工場、商業施設の誘致による雇用創出	◎ 8.0	7.7	7.9	7.9	7.8	◎ 8.1	◎ 8.3
④	浜松市にふさわしいオフィス機能の集積や商業施設の充実	6.7	6.3	6.5	6.7	6.2	6.7	6.0
⑤	国際会議の招致や大規模・集客イベントの開催など都心のにぎわい創出	6.2	5.9	5.9	6.3	5.6	5.6	5.1
⑥	新産業の創出や起業しやすい環境の整備	7.2	6.8	6.9	7.0	7.2	7.2	6.9
⑦	高齢者や障がいのある人などだれもが働きやすい環境づくり	7.7	7.8	7.7	7.8	7.6	7.9	7.7
⑧	特色ある地域資源や地場産業を活かした観光の充実	7.4	7.5	7.5	7.5	7.1	7.3	7.4

性別でみると、男女とも8点以上の高い重要度であったのは「②中小企業の経営基盤の強化に向けた支援の充実」となっている。「③企業や工場、商業施設の誘致による雇用創出」は男性が8点台となっているのに対し女性は7点台、「①地場産品など地域特性を活かした農林水産業の振興」は女性が8点台となっているのに対し男性は7点台と男女の意識に違いがみられる。

年代別でみると、すべての年代で8点以上となった項目はなかった。「②中小企業の経営基盤の強化に向けた支援の充実」は30歳代以外の年代は8点以上となっている。8項目中7項目で30歳代の数値が最も低くなっている。

行政区別でみると、天竜区は「①地場産品など地域特性を活かした農林水産業の振興」、「③企業や工場、商業施設の誘致による雇用創出」の重要度が他区と比較して高くなっている一方、「④浜松市にふさわしいオフィス機能の集積や商業施設の充実」、「⑤国際会議の招致や大規模・集客イベントの開催など都心のにぎわい創出」の重要度が他区と比較して低くなっている。

(2) 教育、文化、スポーツに対する取り組み



「非常に重要」と「やや重要」を合わせた『重要』の回答が8割以上だったのは、以下の3項目となっている。

- | | |
|--------------------------------|-------|
| ①生きる力を育てる学校教育の推進 | 89.4% |
| ③心豊かな人づくりに向けた家庭教育の推進と地域の教育力の向上 | 85.8% |
| ②生涯を通じた学習機会の提供 | 80.5% |

また、下表は「非常に重要」を10点、「やや重要」を6.6点、「あまり重要でない」を3.3点、「全く重要でない」を0点と点数を付けて集計したものである。この数値は10点に近いほど重要度が高くなる指数である。

【性別】【年代別】

◎=8点以上

	全体	男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
① 生きる力を育てる学校教育の推進	◎ 8.3	◎ 8.0	◎ 8.7	7.9	◎ 8.2	◎ 8.4	◎ 8.3	◎ 8.4	◎ 8.6
② 生涯を通じた学習機会の提供	7.2	6.8	7.5	7.1	7.1	7.3	7.1	7.2	7.5
③ 心豊かな人づくりに向けた家庭教育の推進と地域の教育力の向上	7.7	7.4	◎ 8.1	7.4	7.7	7.7	7.5	7.9	◎ 8.1
④ 大学など高等教育の充実や高度な研究機関の設置・誘致	6.4	6.3	6.6	6.4	5.9	6.4	6.1	6.6	7.1
⑤ 外国語教育、外国の文化に関する教育の充実	6.8	6.5	7.0	6.8	6.6	6.8	6.5	6.9	6.9
⑥ 芸術家やスポーツ選手など世界にはばたく人材の育成	6.2	6.1	6.3	6.1	5.7	6.2	6.0	6.2	6.8
⑦ 市民が参加できるスポーツ大会や音楽イベントなどの開催	6.0	5.9	6.2	6.0	5.6	6.1	5.9	6.1	6.4
⑧ 質の高い芸術・文化・スポーツなどに親しむ機会の充実	6.4	6.2	6.5	6.3	6.1	6.5	6.3	6.5	6.6
⑨ 祭事や伝統行事など地域文化の伝承・活性化	6.8	6.6	7.0	7.4	6.7	6.6	6.5	6.8	7.1

【行政区別】

◎=8点以上

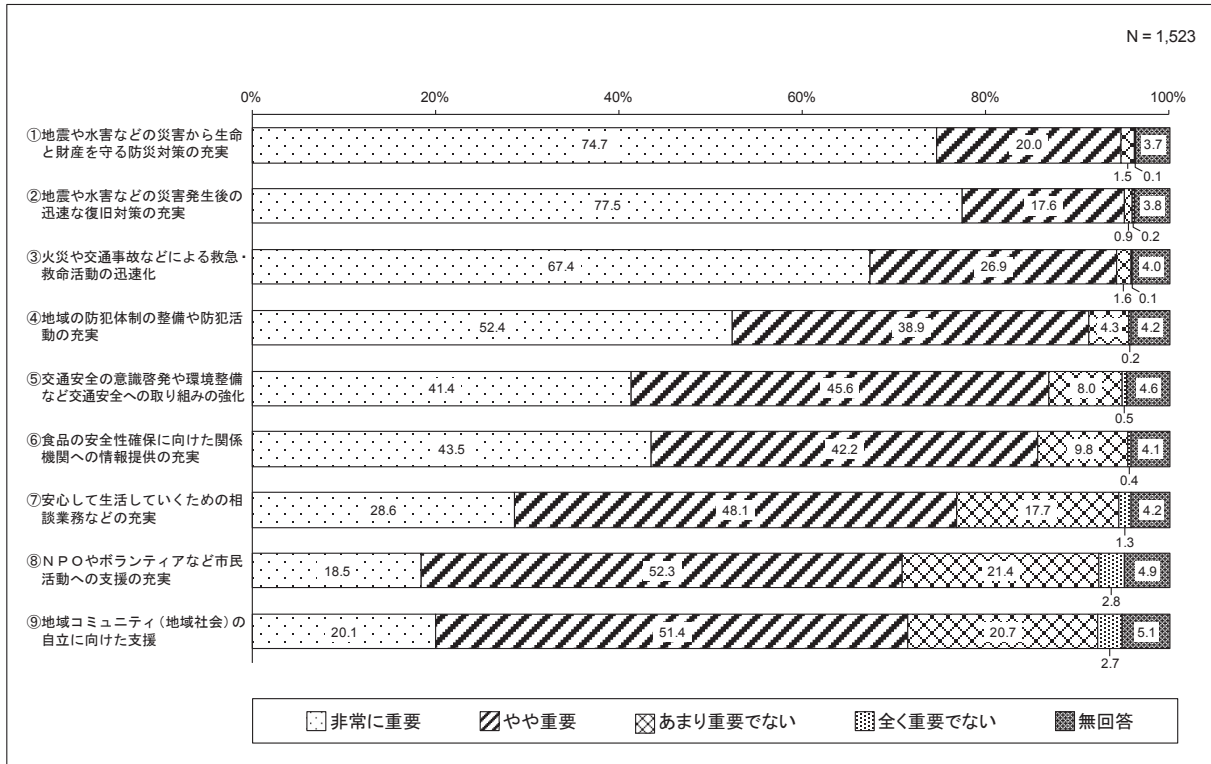
	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
① 生きる力を育てる学校教育の推進	◎ 8.2	◎ 8.4	◎ 8.3	◎ 8.2	◎ 8.4	◎ 8.5	◎ 8.5
② 生涯を通じた学習機会の提供	7.1	7.2	7.4	7.1	7.1	7.4	7.2
③ 心豊かな人づくりに向けた家庭教育の推進と地域の教育力の向上	7.8	7.4	7.8	7.8	7.7	◎ 8.1	7.9
④ 大学など高等教育の充実や高度な研究機関の設置・誘致	6.6	6.5	6.4	6.6	6.3	6.4	6.2
⑤ 外国語教育、外国の文化に関する教育の充実	6.9	6.9	6.9	6.7	6.6	6.8	6.4
⑥ 芸術家やスポーツ選手など世界にはばたく人材の育成	6.2	6.3	6.1	6.2	5.9	6.4	6.0
⑦ 市民が参加できるスポーツ大会や音楽イベントなどの開催	6.1	5.9	6.0	6.1	5.9	6.3	6.0
⑧ 質の高い芸術・文化・スポーツなどに親しむ機会の充実	6.6	6.4	6.3	6.7	6.0	6.6	6.1
⑨ 祭事や伝統行事など地域文化の伝承・活性化	6.5	6.5	7.1	7.1	6.8	6.8	7.2

性別でみると、男女とも8点以上の高い重要度であったのは、「①生きる力を育てる学校教育の推進」となっている。また、いずれの項目の重要度も女性が男性を上回っており、「①生きる力を育てる学校教育の推進」、「②生涯を通じた学習機会の提供」、「③心豊かな人づくりに向けた家庭教育の推進と地域の教育力の向上」、「⑤外国語教育、外国の文化に関する教育の充実」は0.5点以上の差があった。

年代別でみると、「①生きる力を育てる学校教育の推進」は30歳代以上で8点以上となっている。9項目中8項目で70歳以上の数値が最も高くなっている。「⑨祭事や伝統行事など地域文化の伝承・活性化」は20歳代の数値が最も高かった。

行政区別でみると、いずれの区でも高い重要度となったのは「①生きる力を育てる学校教育の推進」となり、次いで「③心豊かな人づくりに向けた家庭教育の推進と地域の教育力の向上」の順となった。

(3) 市民が安全・安心に暮らすための取り組み



「非常に重要」と「やや重要」を合わせた『重要』の回答が8割以上だったのは、以下の6項目となっている。

②地震や水害などの災害発生後の迅速な復旧対策の充実	95.1%
①地震や水害などの災害から生命と財産を守る防災対策の充実	94.7%
③火災や交通事故などによる救急・救命活動の迅速化	94.3%
④地域の防犯体制の整備や防犯活動の充実	91.3%
⑤交通安全の意識啓発や環境整備など交通安全への取り組みの強化	87.0%
⑥食品の安全性確保に向けた関係機関への情報提供の充実	85.7%

また、下表は「非常に重要」を10点、「やや重要」を6.6点、「あまり重要でない」を3.3点、「全く重要でない」を0点と点数を付けて集計したものである。この数値は10点に近いほど重要度が高くなる指数である。

【性別】【年代別】

◎=8点以上

		全体	男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
①	地震や水害などの災害から生命と財産を守る防災対策の充実	◎ 9.2	◎ 8.9	◎ 9.4	◎ 9.2	◎ 9.1	◎ 9.2	◎ 9.2	◎ 9.2	◎ 9.2
②	地震や水害などの災害発生後の迅速な復旧対策の充実	◎ 9.3	◎ 9.0	◎ 9.5	◎ 9.3	◎ 9.3	◎ 9.2	◎ 9.3	◎ 9.3	◎ 9.3
③	火災や交通事故などによる救急・救命活動の迅速化	◎ 8.9	◎ 8.6	◎ 9.2	◎ 8.7	◎ 8.9	◎ 9.0	◎ 8.8	◎ 9.0	◎ 9.1
④	地域の防犯体制の整備や防犯活動の充実	◎ 8.3	◎ 8.0	◎ 8.6	◎ 8.1	◎ 8.5	◎ 8.4	◎ 8.0	◎ 8.2	◎ 8.5
⑤	交通安全の意識啓発や環境整備など交通安全への取り組みの強化	7.8	7.5	◎ 8.0	7.8	7.7	7.7	7.4	7.7	◎ 8.3
⑥	食品の安全性確保に向けた関係機関への情報提供の充実	7.8	7.4	◎ 8.1	7.4	7.5	7.7	7.4	◎ 8.0	◎ 8.4
⑦	安心して生活していくための相談業務などの充実	6.9	6.4	7.3	6.7	6.5	6.9	6.9	7.0	7.4
⑧	NPOやボランティアなど市民活動への支援の充実	6.3	5.9	6.7	6.0	5.7	6.5	6.1	6.3	7.0
⑨	地域コミュニティ(地域社会)の自立に向けた支援	6.4	6.1	6.7	6.0	5.8	6.4	6.3	6.6	7.0

【行政区別】

◎=8点以上

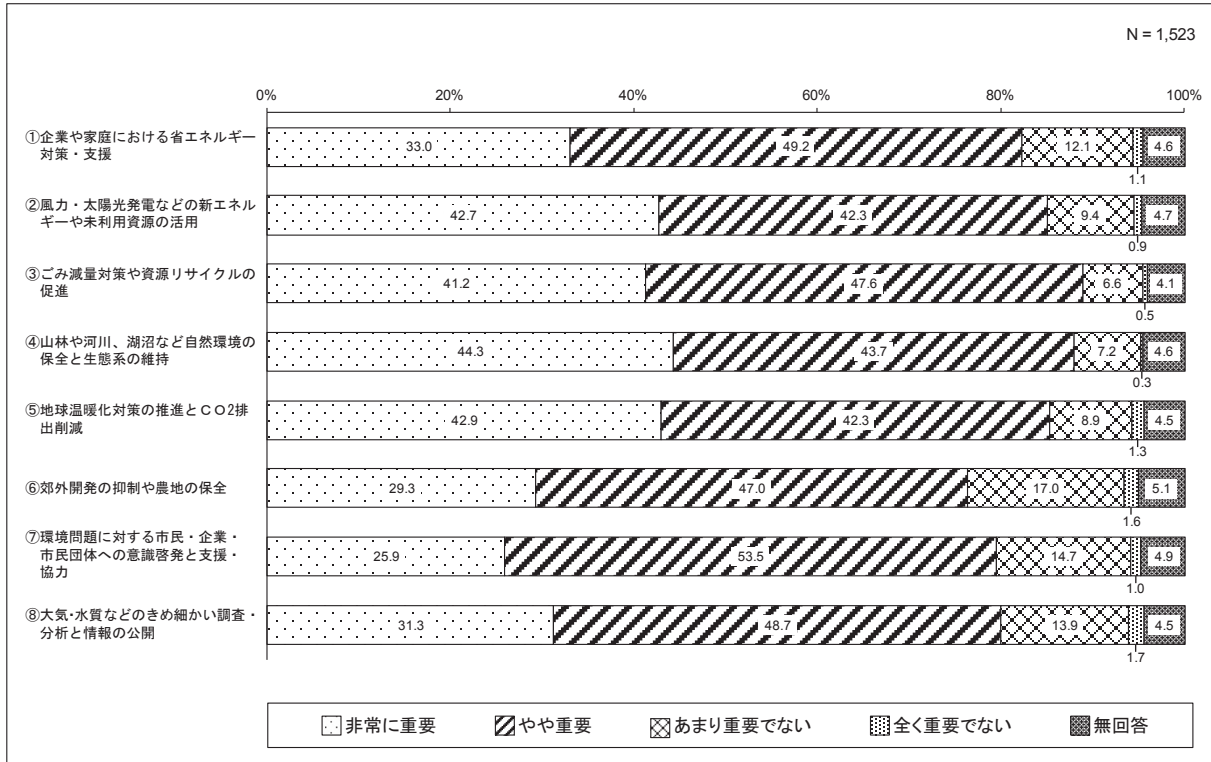
		中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
①	地震や水害などの災害から生命と財産を守る防災対策の充実	◎ 9.0	◎ 9.0	◎ 9.4	◎ 9.3	◎ 9.1	◎ 9.3	◎ 9.3
②	地震や水害などの災害発生後の迅速な復旧対策の充実	◎ 9.2	◎ 9.3	◎ 9.4	◎ 9.3	◎ 9.1	◎ 9.4	◎ 9.5
③	火災や交通事故などによる救急・救命活動の迅速化	◎ 8.9	◎ 8.9	◎ 8.9	◎ 9.0	◎ 8.8	◎ 9.0	◎ 9.0
④	地域の防犯体制の整備や防犯活動の充実	◎ 8.4	◎ 8.3	◎ 8.4	◎ 8.3	◎ 8.2	◎ 8.3	◎ 8.2
⑤	交通安全の意識啓発や環境整備など交通安全への取り組みの強化	7.8	7.6	7.7	7.8	7.9	7.9	7.7
⑥	食品の安全性確保に向けた関係機関への情報提供の充実	7.8	7.8	7.7	7.9	7.7	7.7	7.8
⑦	安心して生活していくための相談業務などの充実	6.8	6.8	6.8	7.0	7.0	7.1	7.0
⑧	NPOやボランティアなど市民活動への支援の充実	6.3	6.3	6.1	6.4	6.3	6.7	6.4
⑨	地域コミュニティ(地域社会)の自立に向けた支援	6.3	6.3	6.2	6.4	6.7	6.7	6.6

性別でみると、男女とも「②地震や水害などの災害発生後の迅速な復旧対策の充実」の重要度が最も高く、次いで「①地震や水害などの災害から生命と財産を守る防災対策の充実」となるなど、自然災害に関する項目の重要度が高かった。9項目すべてで、女性の数値が男性を0.5点上回っている。

年代別にみると、いずれの年代でも8点以上の高い重要度であったのは、「①地震や水害などの災害から生命と財産を守る防災対策の充実」、「②地震や水害などの災害発生後の迅速な復旧対策の充実」、「③火災や交通事故などによる救急・救命活動の迅速化」、「④地域の防犯体制の整備や防犯活動の充実」となっている。

行政区別でみると、いずれの区でも8点以上の高い重要度であったのは、「①地震や水害などの災害から生命と財産を守る防災対策の充実」、「②地震や水害などの災害発生後の迅速な復旧対策の充実」、「③火災や交通事故などによる救急・救命活動の迅速化」、「④地域の防犯体制の整備や防犯活動の充実」となっている。

(4) 環境に対する取り組み



「非常に重要」と「やや重要」を合わせた『重要』の回答が8割以上だったのは、以下の6項目となっている。

③ごみ減量対策や資源リサイクルの促進	88.8%
④山林や河川、湖沼など自然環境の保全と生態系の維持	88.0%
⑤地球温暖化対策の推進とCO2排出削減	85.2%
②風力・太陽光発電などの新エネルギーや未利用資源の活用	85.0%
①企業や家庭における省エネルギー対策・支援	82.2%
⑧大気・水質などのきめ細かい調査・分析と情報の公開	80.0%

また、下表は「非常に重要」を10点、「やや重要」を6.6点、「あまり重要でない」を3.3点、「全く重要でない」を0点と点数を付けて集計したものである。この数値は10点に近いほど重要度が高くなる指数である。

【性別】【年代別】

◎＝8点以上

	全体	男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
① 企業や家庭における省エネルギー対策・支援	7.3	7.1	7.5	7.2	7.1	7.2	7.2	7.3	7.7
② 風力・太陽光発電などの新エネルギーや未利用資源の活用	7.7	7.6	7.9	7.3	7.5	7.8	7.7	7.9	7.9
③ ごみ減量対策や資源リサイクルの促進	7.8	7.6	◎ 8.0	7.5	7.3	7.7	7.6	◎ 8.0	◎ 8.3
④ 山林や河川、湖沼など自然環境の保全と生態系の維持	7.9	7.7	◎ 8.1	7.9	7.6	◎ 8.0	7.6	◎ 8.1	◎ 8.1
⑤ 地球温暖化対策の推進とCO2排出削減	7.7	7.3	◎ 8.1	7.6	7.5	7.6	7.3	7.9	◎ 8.2
⑥ 郊外開発の抑制や農地の保全	6.9	6.6	7.2	7.1	6.5	6.9	6.7	7.1	7.3
⑦ 環境問題に対する市民・企業・市民団体への意識啓発と支援・協力	6.9	6.6	7.2	6.9	6.6	6.9	6.6	7.1	7.5
⑧ 大気・水質などのきめ細かい調査・分析と情報の公開	7.1	6.9	7.3	6.6	6.7	6.9	6.7	7.4	7.8

【行政区別】

◎＝8点以上

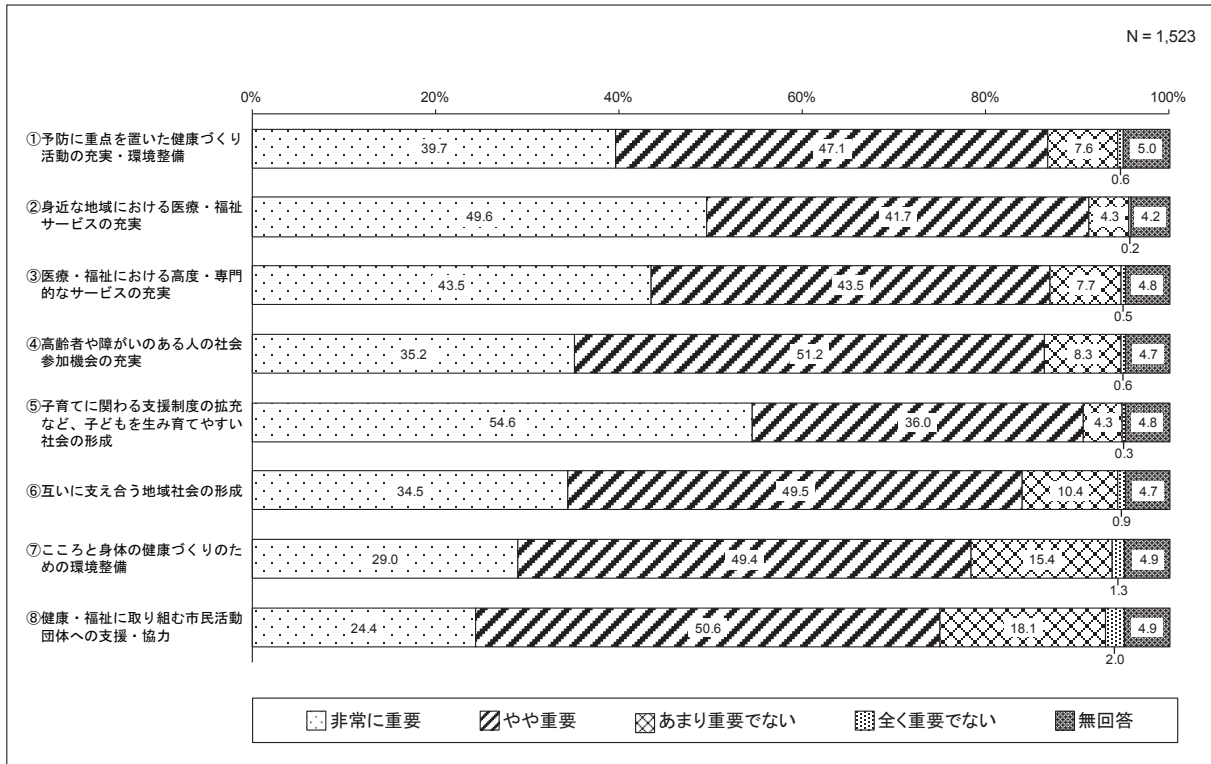
	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
① 企業や家庭における省エネルギー対策・支援	7.2	7.2	7.2	7.1	7.3	7.7	7.4
② 風力・太陽光発電などの新エネルギーや未利用資源の活用	7.7	7.8	7.6	7.8	7.6	◎ 8.0	7.9
③ ごみ減量対策や資源リサイクルの促進	7.7	7.8	7.6	7.8	7.8	◎ 8.0	7.9
④ 山林や河川、湖沼など自然環境の保全と生態系の維持	7.8	7.9	7.9	7.8	7.9	◎ 8.0	◎ 8.2
⑤ 地球温暖化対策の推進とCO2排出削減	7.8	7.7	7.8	7.5	7.8	7.9	7.7
⑥ 郊外開発の抑制や農地の保全	6.9	6.9	6.8	6.8	7.1	7.1	7.1
⑦ 環境問題に対する市民・企業・市民団体への意識啓発と支援・協力	7.0	6.9	7.0	6.7	6.9	7.0	7.1
⑧ 大気・水質などのきめ細かい調査・分析と情報の公開	7.2	7.2	7.3	6.8	7.0	7.3	7.0

性別でみると、男女とも8点以上の高い重要度となった項目はなかった。いずれの項目の重要度も女性が男性を上回っており、女性の意識の高さがうかがえる。特に、「⑤地球温暖化対策の推進とCO2排出削減」、「⑥郊外開発の抑制や農地の保全」、「⑦環境問題に対する市民・企業・市民団体への意識啓発と支援・協力」は男女差が0.5点以上と大きかった。

年代別にみると、9項目すべてで、70歳以上の重要度が最も高く、次いで60歳代が高くなっている。一方、20歳代は2項目、30歳代は5項目で重要度が最も低かった。

行政区別でみると、8項目中6項目で浜北区の重要度が最も高くなっている（同点含む）。

(5) 健康、福祉に対する取り組み



「非常に重要」と「やや重要」を合わせた『重要』の回答が8割以上だったのは、以下の6項目となっている。

- ② 身近な地域における医療・福祉サービスの充実 91.3%
- ⑤ 子育てに関わる支援制度の拡充など、子どもを生き育てやすい社会の形成 90.6%
- ③ 医療・福祉における高度・専門的なサービスの充実 87.0%
- ① 予防に重点を置いた健康づくり活動の充実・環境整備 86.8%
- ④ 高齢者や障がいのある人の社会参加機会の充実 86.4%
- ⑥ 互いに支え合う地域社会の形成 84.0%

また、下表は「非常に重要」を10点、「やや重要」を6.6点、「あまり重要でない」を3.3点、「全く重要でない」を0点と点数を付けて集計したものである。この数値は10点に近いほど重要度が高くなる指数である。

【性別】【年代別】

◎＝8点以上

	全体	男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
① 予防に重点を置いた健康づくり活動の充実・環境整備	7.7	7.6	7.8	7.6	7.6	7.5	7.4	7.7	◎ 8.5
② 身近な地域における医療・福祉サービスの充実	◎ 8.2	7.9	◎ 8.4	◎ 8.0	◎ 8.1	◎ 8.2	◎ 8.1	◎ 8.2	◎ 8.5
③ 医療・福祉における高度・専門的なサービスの充実	7.8	7.6	◎ 8.1	7.9	7.8	◎ 8.0	7.7	7.7	◎ 8.2
④ 高齢者や障がいのある人の社会参加機会の充実	7.5	7.2	7.7	7.7	7.7	7.6	7.4	7.5	7.5
⑤ 子育てに関わる支援制度の拡充など、子どもを生き育てやすい社会の形成	◎ 8.4	◎ 8.1	◎ 8.6	◎ 8.4	◎ 8.8	◎ 8.3	◎ 8.1	◎ 8.4	◎ 8.4
⑥ 互いに支え合う地域社会の形成	7.4	7.0	7.7	7.1	7.0	7.4	7.2	7.5	◎ 8.0
⑦ こころと身体の健康づくりのための環境整備	7.0	6.6	7.3	6.9	6.6	6.9	6.8	7.2	7.6
⑧ 健康・福祉に取り組む市民活動団体への支援・協力	6.7	6.3	7.0	6.5	6.3	6.5	6.5	6.8	7.4

【行政区別】

◎＝8点以上

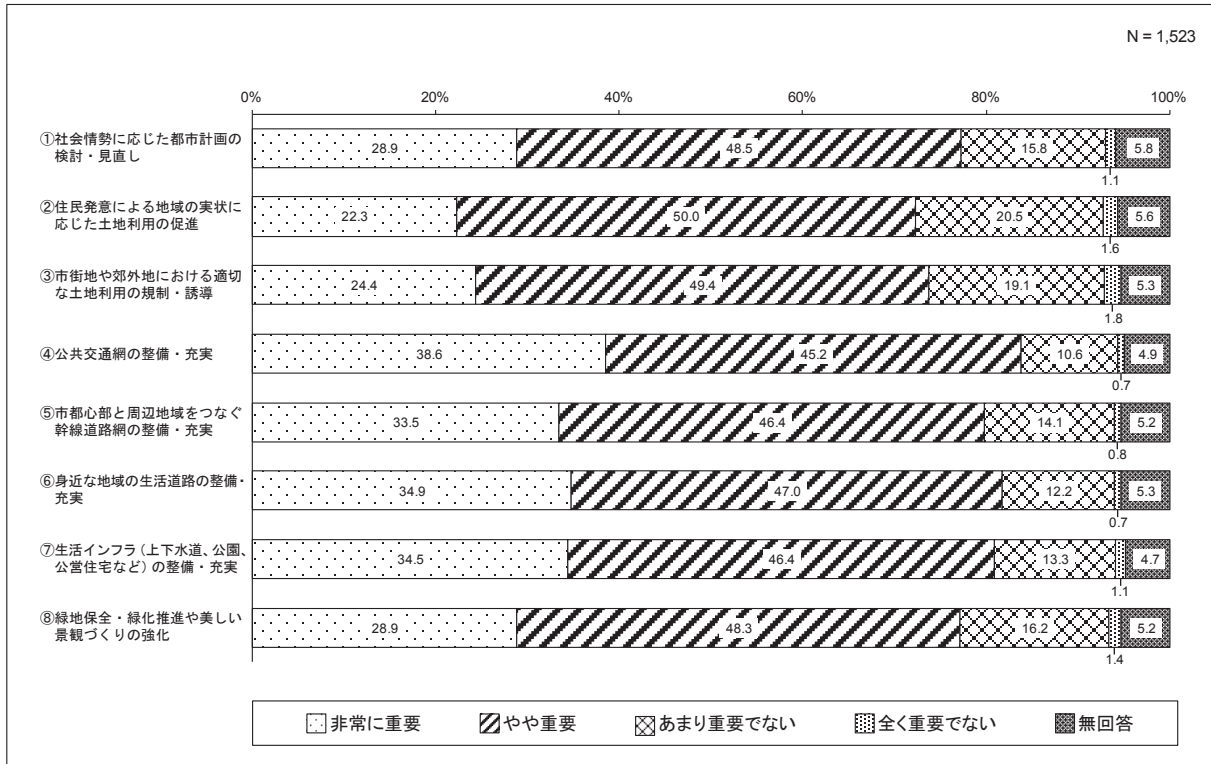
	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
① 予防に重点を置いた健康づくり活動の充実・環境整備	7.7	7.7	7.6	7.4	7.8	7.8	◎ 8.1
② 身近な地域における医療・福祉サービスの充実	◎ 8.0	◎ 8.1	◎ 8.2	◎ 8.0	◎ 8.3	◎ 8.2	◎ 8.7
③ 医療・福祉における高度・専門的なサービスの充実	7.8	7.9	7.8	7.8	7.8	7.9	◎ 8.0
④ 高齢者や障がいのある人の社会参加機会の充実	7.5	7.7	7.6	7.3	7.9	7.5	7.3
⑤ 子育てに関わる支援制度の拡充など、子どもを生き育てやすい社会の形成	◎ 8.3	◎ 8.3	◎ 8.4	◎ 8.3	◎ 8.4	◎ 8.5	◎ 8.6
⑥ 互いに支え合う地域社会の形成	7.2	7.4	7.4	7.1	7.8	7.5	7.7
⑦ こころと身体の健康づくりのための環境整備	7.0	6.8	7.0	6.8	7.3	7.1	7.3
⑧ 健康・福祉に取り組む市民活動団体への支援・協力	6.7	6.6	6.6	6.5	6.9	6.7	7.0

性別でみると、男女とも8点以上の高い重要度であったのは、「⑤子育てに関わる支援制度の拡充など、子どもを生き育てやすい社会の形成」の1項目となった。8項目すべてで女性の重要度が男性を上回っており、うち7項目は女性と男性の差が0.5点以上あった。

年代別にみると、いずれの年代でも8点以上の高い重要度であったのは、「②身近な地域における医療・福祉サービスの充実」、「⑤子育てに関わる支援制度の拡充など、子どもを生き育てやすい社会の形成」の2項目となった。8項目中6項目で70歳以上の重要度が最も高くなっている。特に、「①予防に重点を置いた健康づくり活動の充実・環境整備」、「⑥互いに支え合う地域社会の形成」、「⑦こころと身体の健康づくりのための環境整備」、「⑧健康・福祉に取り組む市民活動団体への支援・協力」は他の世代と比較して高かった。

行政区別でみると、8項目中6項目で天竜区の重要度が最も高くなっている。いずれの行政区でも8点以上の高い重要度であったのは、「②身近な地域における医療・福祉サービスの充実」、「⑤子育てに関わる支援制度の拡充など、子どもを生き育てやすい社会の形成」となっている。

(6) 都市・生活基盤の整備に対する取り組み



「非常に重要」と「やや重要」を合わせた『重要』の回答が8割以上だったのは、以下の3項目となっている。

- ④ 公共交通網の整備・充実 83.8%
- ⑥ 身近な地域の生活道路の整備・充実 81.9%
- ⑦ 生活インフラ（上下水道、公園、公営住宅など）の整備・充実 80.9%

また、下表は「非常に重要」を10点、「やや重要」を6.6点、「あまり重要でない」を3.3点、「全く重要でない」を0点と点数を付けて集計したものである。この数値は10点に近いほど重要度が高くなる指数である。

【性別】【年代別】

◎＝8点以上

		全体	男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
①	社会情勢に応じた都市計画の検討・見直し	7.0	7.0	7.0	7.0	6.7	7.0	6.8	7.1	7.4
②	住民発意による地域の実状に応じた土地利用の促進	6.6	6.5	6.6	6.7	6.3	6.4	6.3	6.8	7.0
③	市街地や郊外地における適切な土地利用の規制・誘導	6.7	6.6	6.8	7.0	6.4	6.5	6.5	6.7	7.1
④	公共交通網の整備・充実	7.6	7.3	7.8	◎ 8.1	7.3	7.7	7.3	7.4	◎ 8.0
⑤	市都心部と周辺地域をつなぐ幹線道路網の整備・充実	7.3	7.2	7.3	7.9	6.8	7.0	7.1	7.2	7.8
⑥	身近な地域の生活道路の整備・充実	7.4	7.3	7.4	7.7	6.9	7.2	7.1	7.5	◎ 8.0
⑦	生活インフラ(上下水道、公園、公営住宅など)の整備・充実	7.3	7.1	7.5	7.4	7.0	7.0	7.1	7.5	7.8
⑧	緑地保全・緑化推進や美しい景観づくりの強化	7.0	6.7	7.2	7.3	6.6	6.9	6.6	7.1	7.5

【行政区別】

◎＝8点以上

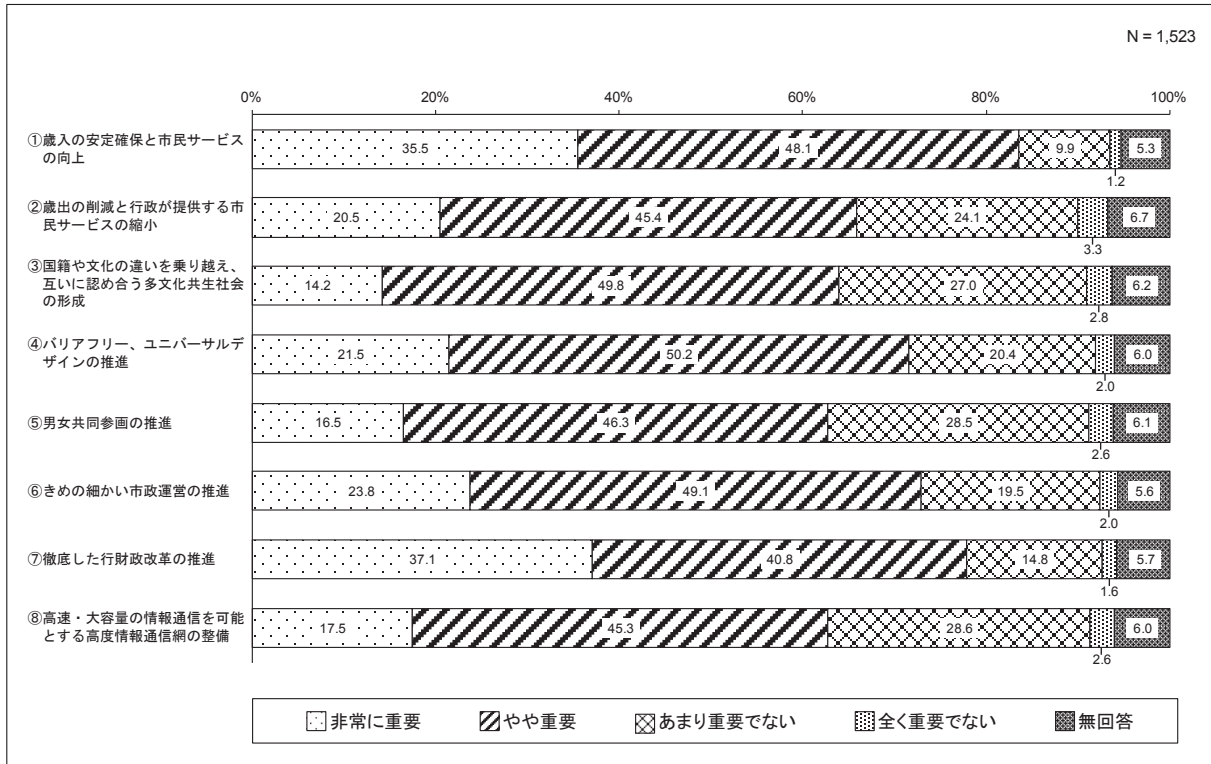
		中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
①	社会情勢に応じた都市計画の検討・見直し	7.0	7.2	6.8	7.1	7.0	7.1	6.8
②	住民発意による地域の実状に応じた土地利用の促進	6.3	6.5	6.6	6.5	6.9	6.8	6.6
③	市街地や郊外地における適切な土地利用の規制・誘導	6.5	6.7	6.6	6.7	7.0	6.9	6.6
④	公共交通網の整備・充実	7.5	7.6	7.5	7.5	7.8	7.6	7.6
⑤	市都心部と周辺地域をつなぐ幹線道路網の整備・充実	7.0	7.1	7.1	7.4	7.4	7.3	7.6
⑥	身近な地域の生活道路の整備・充実	7.1	7.3	7.3	7.4	7.2	7.5	◎ 8.0
⑦	生活インフラ(上下水道、公園、公営住宅など)の整備・充実	7.4	7.2	7.4	7.4	7.2	7.3	7.2
⑧	緑地保全・緑化推進や美しい景観づくりの強化	7.2	7.0	6.9	7.1	7.0	7.0	6.5

性別で見ると、男女とも8点以上の重要度となった項目はなかった。男性は「④公共交通網の整備・充実」と「⑥身近な地域の生活道路の整備・充実」、女性は「④公共交通網の整備・充実」の重要度が最も高かった。

年代別で見ると、60歳代を除くすべての年代で「④公共交通網の整備・充実」が最も高かった(同点含む)。60歳代は「⑥身近な地域の生活道路の整備・充実」、「⑦生活インフラ(上下水道、公園、公営住宅など)の整備・充実」が最も高かった。

行政区別で見ると、天竜区は「⑥身近な地域の生活道路の整備・充実」が最も高く、天竜区以外の区はいずれも「④公共交通網の整備・充実」が最も高かった。

(7) 都市経営に対する取り組み



「非常に重要」と「やや重要」を合わせた『重要』の回答が8割以上だったのは、以下の1項目となっている。

①歳入の安定確保と市民サービスの向上 83.6%

また、下表は「非常に重要」を10点、「やや重要」を6.6点、「あまり重要でない」を3.3点、「全く重要でない」を0点と点数を付けて集計したものである。この数値は10点に近いほど重要度が高くなる指数である。

【性別】【年代別】

◎＝8点以上

		全体	男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
①	歳入の安定確保と市民サービスの向上	7.4	7.4	7.5	7.5	6.9	7.4	7.4	7.5	7.9
②	歳出の削減と行政が提供する市民サービスの縮小	6.3	6.3	6.2	6.3	5.9	6.2	6.1	6.5	6.4
③	国籍や文化の違いを乗り越え、互いに認め合う多文化共生社会の形成	6.0	5.7	6.2	6.3	5.5	6.0	5.6	6.1	6.4
④	バリアフリー、ユニバーサルデザインの推進	6.5	6.1	6.9	7.3	6.3	6.7	6.4	6.4	6.4
⑤	男女共同参画の推進	6.0	5.7	6.3	6.7	5.8	5.9	5.8	5.9	6.3
⑥	きめの細かい市政運営の推進	6.6	6.3	6.9	6.3	6.1	6.3	6.5	6.9	7.4
⑦	徹底した行財政改革の推進	7.3	7.4	7.2	7.2	6.8	6.8	7.0	7.7	◎ 8.0
⑧	高速・大容量の情報通信を可能とする高度情報通信網の整備	6.0	5.9	6.1	6.8	5.8	5.8	5.7	6.0	6.4

【行政区別】

◎＝8点以上

		中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
①	歳入の安定確保と市民サービスの向上	7.4	7.5	7.4	7.6	7.2	7.5	7.7
②	歳出の削減と行政が提供する市民サービスの縮小	6.4	6.2	6.3	6.4	6.3	6.3	5.9
③	国籍や文化の違いを乗り越え、互いに認め合う多文化共生社会の形成	5.9	6.1	5.8	6.2	6.1	6.2	5.5
④	バリアフリー、ユニバーサルデザインの推進	6.7	6.4	6.7	6.9	6.5	6.4	6.0
⑤	男女共同参画の推進	6.1	6.0	6.0	6.1	6.2	6.0	5.8
⑥	きめの細かい市政運営の推進	6.6	6.7	6.6	6.7	6.9	6.7	6.6
⑦	徹底した行財政改革の推進	7.5	7.4	7.2	7.3	7.4	7.3	6.9
⑧	高速・大容量の情報通信を可能とする高度情報通信網の整備	6.1	6.1	6.0	6.2	6.0	6.1	5.8

性別でみると、男女とも8点以上の重要度となった項目はなく、比較的高いのは「①歳入の安定確保と市民サービスの向上」、「⑦徹底した行財政改革の推進」となっている。「⑦徹底した行財政改革の推進」と「②歳出の削減と行政が提供する市民サービスの縮小」は男性が女性を上回っているが、他の項目は、女性が男性を上回っている。

年代別でみると、「①歳入の安定確保と市民サービスの向上」は70歳以上で高く、「⑦徹底した行財政改革の推進」は60歳以上で高くなっている。「④バリアフリー、ユニバーサルデザインの推進」は20歳代が比較的高い。8項目中7項目で30歳代が最も低くなっている（同点含む）。

行政区別でみると、いずれも8点以上の重要度となった項目はなかった。中区、北区以外は「①歳入の安定確保と市民サービスの向上」が最も高かった。「①歳入の安定確保と市民サービスの向上」は天竜区の重要度が最も高い。逆に他の7項目は天竜区が最も低くなっている（同点含む）。

付録 調査票

— あなたの声を市政に生かす —

平成25年度 **市民アンケート調査** (第40回)

日ごろ、市政の推進につきましては、ご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。

浜松市では、市民の皆さまのお考えを伺うことで市政の充実を図り、市民の皆さまの暮らしが豊かになるように努めていきたいと考えております。

つきましては、今後のまちづくりの基礎資料とするため、市民アンケート調査を実施させていただきます。この調査を実施するにあたり、市内在住の満20歳以上の皆さまの中から無作為に3,000人の方々を選ばせていただきました。お忙しいところ誠にお手数ですが、調査の趣旨をご理解いただきご回答くださいますようお願いいたします。

なお、調査結果につきましては、広報はままつや浜松市公式Webサイト（ホームページ）などで報告させていただく予定です。

平成25年6月 浜松市長 鈴木 康 友

<ご回答についてのごお願い>

1. 封書のあて名の方が、ご回答くださいますようお願いいたします。
2. ご回答は、各設問に該当する番号を選択肢の中から選んで、○で囲んでください。
また、「その他」を選んだ方は、その具体的な内容をご記入ください。
3. この調査結果は、上記目的以外に使用することはなく、内容についてご迷惑をお掛けすることはありません。
4. 6月30日(日)までにこの用紙を同封の封筒に入れて、切手を貼らずにご投函ください。
5. ご不明な点は、広聴広報課 市民コールセンターグループ ☎(053)457-2023へお問い合わせください。

～ あなたはご存じですか？ ～

- 問1 次の項目について、あなたはご存じですか。
1～3のうちから1つ選んで○を付けてください。

	名称も内容も 知っている	名称だけは 知っている	知らない
① 浜松市快適で良好な生活環境を確保する条例 (通称：市民マナー条例) ※歩きタバコ・吸い殻や空き缶等のポイ捨て・落書きの禁止や、飼い犬・ねこのふんの適正な処理、身体障害者用駐車場の適正な利用を定めた条例。	1	2	3
② 浜松市川や湖を守る条例 ※市内にある天竜川や浜名湖など、美しく豊かな川や湖を次世代に継承するために、市民や事業者が守るべきこと、しなければならないことを定めた条例。	1	2	3
③ 区版避難行動計画 ※災害時にとるべき行動を、区ごとの災害特性をふまえてわかりやすくまとめ、防災マップや防災カードとともに全戸に配布。	1 知っている		2 知らない
④ 出世の街 浜松 ※城主の多くが幕府の重役に登用されたため、別名「出世城」と呼ばれる浜松城。このことから、市を全国に売り込む推進テーマとして『出世の街 浜松』を掲げている。	1 知っている		2 知らない

	利用したこと がある	知っているが 利用したことは ない	知らない
⑤ 県救急医療情報センター ※県救急医療情報センターでは、休日当番医の情報を24時間、電話(0800-222-1199)及びホームページで案内している。	1	2	3

	知っていて、 すでに活動に 参加している	関心がある、 または、今後 活動に参加し たいと思う	知らない、ま たは、活動に 参加したいと 思わない
⑥ 地区社会福祉協議会 ※連合自治会規模の圏域で活動する住民主導の組織。地域住民をはじめ、自治会や民生委員、ボランティア等で構成し、身近な地域における福祉活動の啓発及び推進を行う。	1	2	3

～ 市民の地震への備えについて ～

問2 あなたのご家庭では、家具が転倒しないように固定するなどの対策をしていますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 大部分の家具を固定している
2. 一部の家具を固定している
3. 固定していない。今後、固定しようと思っている
4. 固定していない。今後も固定しようとは思わない

問3 問2で「3. 固定していない。今後、固定しようと思っている」「4. 固定していない。今後も固定しようとは思わない」とお答えされた方に伺います。固定などの対策をしない理由は何ですか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 家具などを置いていない安全な部屋があるから
2. 必要とは思わないから
3. 災害時、実際に役立つかわからないから
4. どうやって固定していいかわからないから
5. 手間がかかるから
6. 費用がかかるから
7. 賃貸アパート・マンション、借家なので自分だけでは判断できないから
8. その他 (具体的に: _____)

問4 昨年度(平成24年4月から平成25年3月まで)地域で実施された防災訓練に、あなたは参加しましたか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 参加した
2. 参加しなかった

問5 問4で「2. 参加しなかった」とお答えされた方に伺います。参加しなかった理由は何ですか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 訓練をやっていることを知らなかったから
2. 参加の仕方がわからなかったから
3. 訓練が役に立つとは思わないから
4. 忙しいから
5. 面倒だから
6. 家族で別の者が参加したから
7. その他 (具体的に: _____)

問6 市には、木造住宅などの耐震化を支援する制度*があります。あなたは制度の内容についてご存じですか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1. 専門家によるわが家の無料耐震診断 | 2. 耐震補強の設計費や工事費の補助 |
| 3. 危険なブロック塀等を撤去する費用の補助 | 4. 耐震シェルターを設置する費用の補助 |
| 5. 知らない | |

※地震発生時、住宅の倒壊から市民の生命を守るため、建築物の耐震化の促進に取り組んでいます。

問7 問6で「1. 専門家によるわが家の無料耐震診断」「2. 耐震補強の設計費や工事費の補助」「3. 危険なブロック塀等を撤去する費用の補助」「4. 耐震シェルターを設置する費用の補助」とお答えされた方に伺います。あなたは何でお知りになりましたか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 広報はままつ | 2. 事業に関するパンフレット |
| 3. 市役所や区役所のモニター | 4. バスや街中にある電光掲示板 |
| 5. ケーブルテレビ・ラジオ | 6. 新聞 |
| 7. 設計事務所・建築業者から聞いて | 8. 耐震改修の工事現場を見て |
| 9. その他(具体的に:) | |

～ 協働センターについて ～

問8 平成25年4月から、公民館が、併設されていた市民サービスセンターと統合し「協働センター」となりました。あなたをご存じでしたか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問9 あなたが、今までに協働センター(旧公民館、旧市民サービスセンター)を利用した頻度はどの程度ですか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | | |
|-----------------|----------|----------|----------|
| 1. 週1回以上 | 2. 月1回以上 | 3. 年1回以上 | 4. 数年に1回 |
| 5. 一度も利用したことがない | | | |

問10 問9で「1. 週1回以上」「2. 月1回以上」「3. 年1回以上」「4. 数年に1回」とお答えされた方に伺います。あなたは協働センターをどのような目的で利用しましたか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

- | | |
|------------------|------------------------|
| 1. 体育館でのスポーツの利用 | 2. 協働センター(旧公民館)での講座の受講 |
| 3. 戸籍等の届出や証明書の請求 | 4. 自治会や子ども会など地域活動 |
| 5. 地域生活上の相談 | |
| 6. その他(具体的に:) | |

～ 人口減少時代におけるライフスタイルについて ～

平成22年に実施した国勢調査によると、浜松市の人口は800,866人、高齢化率[※]22.9%ですが、平成57年には人口が664,406人、高齢化率が38.0%と人口減少や高齢化が一層進むと推測しています。

※高齢化率とは、人口に占める65歳以上の方の割合をいいます。

問11 現在のあなたの世帯構成を教えてください。

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. ひとり世帯 | 2. 夫婦のみの世帯 |
| 3. 夫婦と子どもから成る世帯 | 4. ひとり親と子どもから成る世帯 |
| 5. その他の世帯 | |

問12 あなたは、今後、行政サービスと税負担のバランスはどのようにあるべきだと思いますか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|----------------------------------|---|
| 1. 行政サービスが向上するなら、必要分の税負担が増えてもいい | |
| 2. 行政サービスは縮小してもいいから、税負担は増えないでほしい | |
| 3. その他 (具体的に : |) |

問13 あなたは、今後、何歳まで働きたいですか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | | |
|----------|---------------|----------|--------------|
| 1. 64歳まで | 2. 65歳以上74歳まで | 3. 75歳以上 | 4. 働かない・働けない |
|----------|---------------|----------|--------------|

問14 あなたは、将来、どのような場所で生活を送りたいですか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|---------------------------------|---|
| 1. 現在住んでいる地域で暮らしたい | |
| 2. <u>市内</u> の交通の便が良い都市部に移り住みたい | |
| 3. <u>市内</u> の自然に囲まれた地域に移り住みたい | |
| 4. <u>市外</u> の交通の便が良い都市部に移り住みたい | |
| 5. <u>市外</u> の自然に囲まれた地域に移り住みたい | |
| 6. その他 (具体的に : |) |

～ スポーツの振興について ～

問15 市では、スポーツ振興のキャッチフレーズとして、1週間に1回以上、1スポーツをしよう！という意味の「1・1・1 (いち・いち・いち) 運動」を展開しています。あなたはご存じでしたか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 意味や内容まで知っている | 2. 知っていて、意味や内容が少しわかる |
| 3. 知っているが、意味や内容はわからない | 4. 知らない |

問 16 あなたは、過去 1 年間にスポーツに対する支援活動を行いましたか。

大きなスポーツイベントのボランティア活動だけでなく、地域のスポーツ少年団や部活動、子ども会のスポーツ活動のお手伝いなども含みます。

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. 月に数回のペースで支援した | 2. 年に数回支援した |
| 3. 年に1回は支援した | 4. 一度も支援しなかった |

～ 子育て支援について ～

問 17 あなたは、現在、「子育て」に対して、どのような関わり方をしていますか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|------------------------------|----------------------|
| 1. 子育て中である | 2. 孫の面倒を見ることもある |
| 3. 甥 (おい)、姪 (めい) の面倒を見ることもある | 4. 近所の子どもの面倒を見ることもある |
| 5. 子育てサークルに参加している | |
| 6. 子育てに関するボランティアに参加している | |
| 7. その他 (具体的に: _____) | |
| 8. 特に関わっていない | |

問 18 市では、保育所整備、子育て支援ひろば、子どもの医療費助成など子育てに関する支援を行っています。あなたは、このような支援によって、子育てがしやすくなっていると思いますか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | | |
|-------|---------|--------------|----------|
| 1. 思う | 2. 思わない | 3. どちらともいえない | 4. わからない |
|-------|---------|--------------|----------|

問 19 問 18 で「2. 思わない」「3. どちらともいえない」「4. わからない」とお答えされた方に伺います。どのような環境を整えば子育てがしやすくなったと感じると思いますか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

- | | |
|-------------------------------|--|
| 1. 子育ての悩みを相談できる人が身近にいる環境 | |
| 2. 子育て中の親子の交流の場が身近にある環境 | |
| 3. 子どもたちが安心して遊べる場所が身近にある環境 | |
| 4. 困った時や緊急時に、安心して子どもを預けられる環境 | |
| 5. 子育てに対し、勤務先や職場の理解・協力が得られる環境 | |
| 6. 子育てに関する必要な情報がすぐに手に入る環境 | |
| 7. 子どもの手当や医療費助成など、制度が充実した環境 | |
| 8. わからない | |
| 9. その他 (具体的に: _____) | |

～ 「ひとりひとりにいい声掛けデー」について ～

問 20 市では、11月11日を全市統一の「ひとりひとりにいい声掛けデー」として、子ども（青少年）へのあいさつや声掛けを行っています。あなたは、日ごろから地域の子ども（青少年）に対してあいさつや声掛けを行っていますか。

（1つだけ○を付けてください）

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 行っている | 2. 行っていない |
|----------|-----------|

問 21 問 20 で「1. 行っている」とお答えされた方に伺います。日ごろ、どの程度、あいさつや声掛けを行っていますか。

（1つだけ○を付けてください）

- | |
|--------------------------------|
| 1. 顔見知りの子どもでなくても、自分から行っている |
| 2. 顔見知りの子どもには、自分から行っている |
| 3. 顔見知りの子どもでなくても、あいさつされたら応えている |
| 4. 顔見知りの子どもには、あいさつされたら応えている |
| 5. その他（具体的に： _____） |

～ 健康のための環境整備について ～

問 22 あなたは、日ごろ健康づくりのために何か取り組んでいますか。

（1つだけ○を付けてください）

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1. 取り組んでいる | 2. 今はしていないが、今後取り組んでみたい |
| 3. 取り組みたいとは思わない | |

問 23 あなたは、どのような環境が整えば健康づくりに取り組もうと思えますか。

（2つまで○を付けてください）

- | |
|-----------------------------|
| 1. 早朝や夜9時以降など余暇時間に運動できる場所 |
| 2. 公園のウォーキングコースなど気軽に運動できる場所 |
| 3. 健康づくりに取り組むと特典を受けられる制度 |
| 4. 一緒に取り組んでくれる仲間 |
| 5. 健康づくりに役立つ運動などを体験できる講座 |
| 6. どのような環境が整っても取り組もうとは思わない |
| 7. その他（具体的に： _____） |

問 24 あなたは、屋外の公衆の場所で喫煙している人を見て何か気になりますか。

（あてはまるものすべてに○を付けてください）

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 何も気にならない | 2. やけどや衣類のこげなど火の危険性 |
| 3. 吸い殻のポイ捨て | 4. 周囲の人の健康への影響 |
| 5. たばこの煙やにおいの不快感 | |
| 6. その他（具体的に： _____） | |

～ 市の取り組みの満足度評価について ～

問 25 あなたは、浜松市がこれまで進めてきた取り組みについて日ごろどのように感じていますか。

以下の各項目についてその評価を1～5のうちからそれぞれ1つだけ選び○を付けてください。

項 目		評 価				
		満 足	やや 満足	どちらとも いえない	やや 不満	不 満
1	住んでいる地域の住みやすさ	1	2	3	4	5
2	文化にふれ、活動できる環境	1	2	3	4	5
3	音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の市の取り組み	1	2	3	4	5
4	スポーツに親しみやすい環境	1	2	3	4	5
5	子どもを健やかにはぐくむ地域の環境	1	2	3	4	5
6	子どもの個性をはぐくむきめ細かな学校教育	1	2	3	4	5
7	協働センター（旧公民館）、図書館などの生涯学習環境	1	2	3	4	5
8	男女がともにあらゆる分野に参画する男女共同参画社会づくり	1	2	3	4	5
9	人権を尊重したまちづくり（人権啓発の取り組み）	1	2	3	4	5
10	魅力ある雇用機会の確保	1	2	3	4	5
11	J R浜松駅周辺の魅力とにぎわい	1	2	3	4	5
12	浜名湖をはじめとする観光資源の整備、活用	1	2	3	4	5
13	外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくり	1	2	3	4	5
14	施設予約や地域情報の提供などインターネットを活用した市民サービス	1	2	3	4	5
15	鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性確保に向けた市の取り組み	1	2	3	4	5
16	身近な生活道路の管理状況や使いやすさ確保に向けた市の取り組み	1	2	3	4	5
17	快適に移動しやすい道路網の整備	1	2	3	4	5
18	休日、夜間などの救急医療体制	1	2	3	4	5
19	身近な地域における適切な医療サービスの提供	1	2	3	4	5
20	予防接種や健康相談など市民の健康づくり	1	2	3	4	5
21	高齢者にとっての暮らしやすさ確保に向けた市の取り組み	1	2	3	4	5
22	障がいのある人にとっての暮らしやすさ確保に向けた市の取り組み	1	2	3	4	5
23	子育てがしやすく楽しい環境	1	2	3	4	5
24	ごみ分別による、ごみ減量および資源化対策	1	2	3	4	5
25	湖沼や河川、海岸、森林などの自然環境に配慮した市の取り組み	1	2	3	4	5
26	環境教育、環境学習などの市の取り組み	1	2	3	4	5
27	地球温暖化対策に取り組む体制や情報の充実	1	2	3	4	5
28	太陽光発電など、新エネルギー導入についての市の取り組み	1	2	3	4	5
29	緑豊かで花があふれる快適で美しいまちづくり	1	2	3	4	5
30	生活しやすい居住空間の整備と宅地や住宅の供給	1	2	3	4	5
31	地震・津波・火災などに対する防災体制の充実	1	2	3	4	5
32	水害や土砂災害の防止に向けた河川・排水路などの整備	1	2	3	4	5
33	ユニバーサルデザインによるまちづくり	1	2	3	4	5
34	浜松の魅力（技術や文化、自然環境など）の国内外への発信	1	2	3	4	5
35	世界の人々との活発な市民交流	1	2	3	4	5
36	市民協働による地域づくり	1	2	3	4	5
37	交差点の改良など交通安全対策	1	2	3	4	5
38	情報公開など行政の透明性の確保	1	2	3	4	5
39	分かりやすくきめ細かな市政情報の提供	1	2	3	4	5
40	市の取り組みに対する総合的な満足度	1	2	3	4	5

～ 市政への要望について ～

問 26 あなたは、浜松市が積極的・重点的に取り組んでいくべき具体的な施策として、以下の各項目についてどの程度重要だと思いますか。各項目について重要度を1～4のうちからそれぞれ1つだけ選んで○を付けてください。

浜松市が取り組むべき施策	重要度			
	非常に重要	やや重要	あまり重要でない	全く重要でない
1. 産業・経済分野に対する取り組み				
① 地場産品など地域特性を活かした農林水産業の振興	1	2	3	4
② 中小企業の経営基盤の強化に向けた支援の充実	1	2	3	4
③ 企業や工場、商業施設の誘致による雇用創出	1	2	3	4
④ 浜松市にふさわしいオフィス機能の集積や商業施設の充実	1	2	3	4
⑤ 国際会議の招致や大規模・集客イベントの開催など都心のにぎわい創出	1	2	3	4
⑥ 新産業の創出や起業しやすい環境の整備	1	2	3	4
⑦ 高齢者や障がいのある人などだれもが働きやすい環境づくり	1	2	3	4
⑧ 特色ある地域資源や地場産業を活かした観光の充実	1	2	3	4
2. 教育、文化、スポーツに対する取り組み				
① 生きる力を育てる学校教育の推進	1	2	3	4
② 生涯を通じた学習機会の提供	1	2	3	4
③ 心豊かな人づくりに向けた家庭教育の推進と地域の教育力の向上	1	2	3	4
④ 大学など高等教育の充実や高度な研究機関の設置・誘致	1	2	3	4
⑤ 外国語教育、外国の文化に関する教育の充実	1	2	3	4
⑥ 芸術家やスポーツ選手など世界にはばたく人材の育成	1	2	3	4
⑦ 市民が参加できるスポーツ大会や音楽イベントなどの開催	1	2	3	4
⑧ 質の高い芸術・文化・スポーツなどに親しむ機会の充実	1	2	3	4
⑨ 祭事や伝統行事など地域文化の伝承・活性化	1	2	3	4

浜松市が取り組むべき施策	重 要 度			
	非 常 に 重 要	や や 重 要	あ ま り 重 要 で な い	全 く 重 要 で な い
3. 市民が安全・安心に暮らすための取り組み				
① 地震や水害などの災害から生命と財産を守る防災対策の充実	1	2	3	4
② 地震や水害などの災害発生後の迅速な復旧対策の充実	1	2	3	4
③ 火災や交通事故などによる救急・救命活動の迅速化	1	2	3	4
④ 地域の防犯体制の整備や防犯活動の充実	1	2	3	4
⑤ 交通安全の意識啓発や環境整備など交通安全への取り組みの強化	1	2	3	4
⑥ 食品の安全性確保に向けた関係機関への情報提供の充実	1	2	3	4
⑦ 安心して生活していくための相談業務などの充実	1	2	3	4
⑧ NPOやボランティアなど市民活動への支援の充実	1	2	3	4
⑨ 地域コミュニティ（地域社会）の自立に向けた支援	1	2	3	4
4. 環境に対する取り組み				
① 企業や家庭における省エネルギー対策・支援	1	2	3	4
② 風力・太陽光発電などの新エネルギーや未利用資源の活用	1	2	3	4
③ ごみ減量対策や資源リサイクルの促進	1	2	3	4
④ 山林や河川、湖沼など自然環境の保全と生態系の維持	1	2	3	4
⑤ 地球温暖化対策の推進とCO ₂ 排出削減	1	2	3	4
⑥ 郊外開発の抑制や農地の保全	1	2	3	4
⑦ 環境問題に対する市民・企業・市民団体への意識啓発と支援・協力	1	2	3	4
⑧ 大気・水質などのきめ細かい調査・分析と情報の公開	1	2	3	4

浜松市が取り組むべき施策	重要度			
	非常に重要	やや重要	あまり重要でない	全く重要でない
5. 健康、福祉に対する取り組み				
① 予防に重点を置いた健康づくり活動の充実・環境整備	1	2	3	4
② 身近な地域における医療・福祉サービスの充実	1	2	3	4
③ 医療・福祉における高度・専門的なサービスの充実	1	2	3	4
④ 高齢者や障がいのある人の社会参加機会の充実	1	2	3	4
⑤ 子育てに関わる支援制度の拡充など、子どもを生み育てやすい社会の形成	1	2	3	4
⑥ 互いに支え合う地域社会の形成	1	2	3	4
⑦ こころと身体の健康づくりのための環境整備	1	2	3	4
⑧ 健康・福祉に取り組む市民活動団体への支援・協力	1	2	3	4
6. 都市・生活基盤の整備に対する取り組み				
① 社会情勢に応じた都市計画の検討・見直し	1	2	3	4
② 住民発意による地域の実状に応じた土地利用の促進	1	2	3	4
③ 市街地や郊外地における適切な土地利用の規制・誘導	1	2	3	4
④ 公共交通網の整備・充実	1	2	3	4
⑤ 市都心部と周辺地域をつなぐ幹線道路網の整備・充実	1	2	3	4
⑥ 身近な地域の生活道路の整備・充実	1	2	3	4
⑦ 生活インフラ（上下水道、公園、公営住宅など）の整備・充実	1	2	3	4
⑧ 緑地保全・緑化推進や美しい景観づくりの強化	1	2	3	4
7. 都市経営に対する取り組み				
① 歳入の安定確保と市民サービスの向上	1	2	3	4
② 歳出の削減と行政が提供する市民サービスの縮小	1	2	3	4
③ 国籍や文化の違いを乗り越え、互いに認め合う多文化共生社会の形成	1	2	3	4
④ バリアフリー、ユニバーサルデザインの推進	1	2	3	4
⑤ 男女共同参画の推進	1	2	3	4
⑥ きめの細かい市政運営の推進	1	2	3	4
⑦ 徹底した行財政改革の推進	1	2	3	4
⑧ 高速・大容量の情報通信を可能とする高度情報通信網の整備	1	2	3	4

最後にあなたのことについて記入してください

(項目別に1つだけ○を付けてください)

性別	1. 男	2. 女	
年齢	1. 20歳代	2. 30歳代	3. 40歳代
	4. 50歳代	5. 60歳代	6. 70歳以上
国籍	1. 日本	2. ブラジル	3. 中国
	4. フィリピン	5. その他 ()	
職業	1. 勤め人	2. 商工・サービス・自由業 (自営・家族従事者)	
	3. 農林水産業 (自営・家族従事者)	4. 専業主婦 (主夫)	
	5. 学生	6. 無職	7. その他 ()
居住年数	あなたは浜松市 (合併前の旧市町村当時からも含みます) に住んで何年になりますか		
	1. 3年未満	2. 3年以上5年未満	3. 5年以上10年未満
	4. 10年以上20年未満	5. 20年以上	
家族数	あなたを含めて何人で住んでいますか		
	1. 1人	2. 2人	3. 3人
	4. 4人	5. 5人	6. 6人以上
居住形態	あなたのお住まいは		
	1. 持ち家	2. 借家	3. 賃貸アパート・マンション
	4. 公営住宅	5. 社宅・寮	6. その他
地区	あなたがお住まいの地区は		
	1. 中区	2. 東区	
	3. 西区 (旧浜松市)	4. 西区舞阪町	
	5. 西区雄踏町	6. 南区	
	7. 北区 (旧浜松市)	8. 北区細江町	
	9. 北区引佐町	10. 北区三ヶ日町	
	11. 浜北区	12. 天竜区 (旧天竜市)	
	13. 天竜区春野町	14. 天竜区佐久間町	
	15. 天竜区水窪町	16. 天竜区龍山町	
	地区が分からない場合は、町名をご記入ください → ()		

ご協力ありがとうございました。

お手数ですが、6月30日 (日) までにご投函ください。



平成 25 年度 市民アンケート調査報告書

平成 25 年 11 月発行

浜松市企画調整部広聴広報課

〒430-8652 浜松市中区元城町 103 番地の 2

電 話 (053) 457-2023 FAX (053) 457-2028

e-mail koe-g@city.hamamatsu.shizuoka.jp

URL <http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp>
